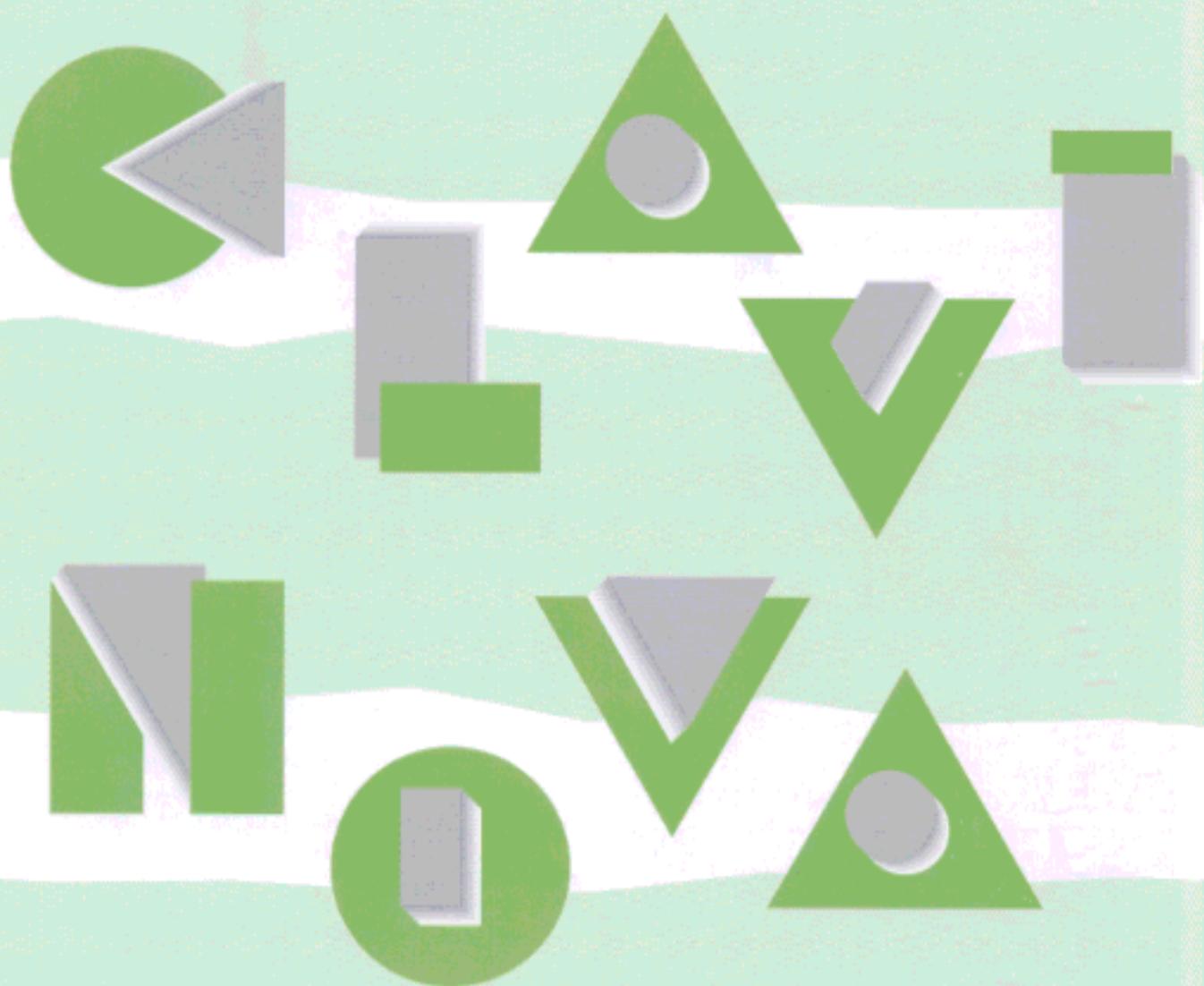


YAMAHA
Clavinova

CLP-911/711

取 扱 説 明 書



安全上のご注意

ご使用前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。おお客様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願い致します。

記号表示について

この機器の裏側に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。



△ 記号は、危険、警告または注意を示します。上記の場合、⚠は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。また、⚠は注意が必要なことを示しています。

⊘ 記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

● 記号は、行為を強制したり指示したりすることを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

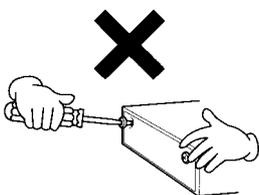
*お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

警告

この表示内容を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。

⊘ この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



⊘ 浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。感電や火災、または故障の原因になります。

⊘ 電源コード/プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なおい煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

⚠ 電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

⊘ 手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

⚠ 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

注意

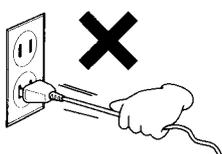
この表示内容を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。

⊘ 電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

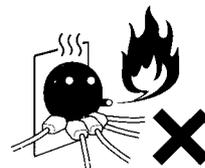
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

⚠ 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。



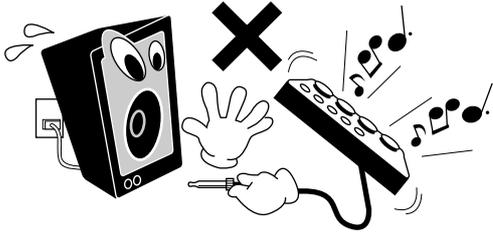
⊘ タコ足配線をしない。音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。



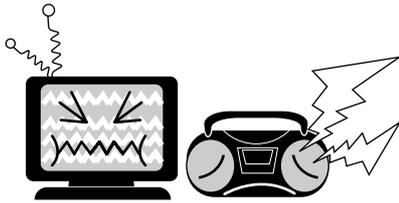
⚠ 長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電、ショート、発火などの原因になります。

- ❗ 他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。感電または機器の損傷のおそれがあります。



- ⊘ 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。
- ⊘ テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



- ⊘ 不安定な場所に置かない。機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。
- ❗ 本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。
- ⊘ 本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本体上にビニール製品やプラスチック製品などを置かない。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- ⊘ 本体の上に乗ったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。
- ⚠ キーカバーで指などはさまないように注意する。また、キーカバーのすき間に手や指を入れない。お客様がけがをするおそれがあります。
- ⊘ キーカバーや鍵盤のすき間から金属や紙片などを落とさない。感電、ショート、発火や故障などの原因になります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

- ⊘ 本体を壁につけない。換気が十分でないと、本体内部に熱がこもり、火災が発生するおそれがあります。
- ❗ 組み立てる前に、必ず本書または別紙の組み立て方の説明をよくお読みください。手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。
- ⊘ 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。聴覚障害の原因になります。

イスについて

- ⊘ イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。このイスは楽器演奏用です。イスを遊び道具や踏み台にすると、イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。
- ⊘ イスには二人以上ですわらない。イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。
- ⊘ イスにすわったままでイスの高さを調節しない。イスにすわったままイスの高さを調節すると、高低調節機構に無理な力が加わり、高低調節機構がこわれたりお客様がけがをしたりする原因になります。
- ❗ イスを長期間使用すると、イスのボルトがゆるむことがあります。ネジがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。

作成したデータの保存について

- ❗ 作成したデータはこまめにフロッピーディスクに保存する。作成したデータは、故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、必ずフロッピーディスクに保存することをおすすめします。



不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

音楽を楽しむエチケット



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適度な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドフォンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

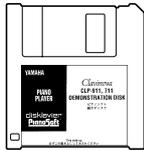
* この製品は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

このたびは、ヤマハクラビノーバCLP-911/711をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございました。CLP-911/711の優れた機能を十分に生かして演奏をお楽しみいただくために、本書をご活用いただきますようご案内申し上げます。また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してくださいませよう、お願い申し上げます。

付属品(お確かめください)

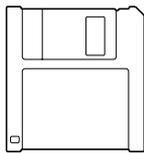
ピアノソフト紹介ディスク

ヤマハの「ピアノソフト(旧称ピアノプレーヤ・ソフト) (ピアノ演奏のデータが入った別売のディスク) から、いくつかの曲を抜粋、編集したものです。ご試聴ください。(P60)



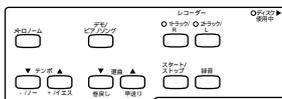
録音用ディスク

ご自分の演奏をCLP-911/711で録音するときにご使うディスクです。(P65)



和文シート

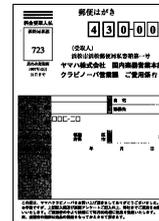
画面右側のパネルにのせてお使いください。日本語表示でパネルのボタン名を確認することができます。



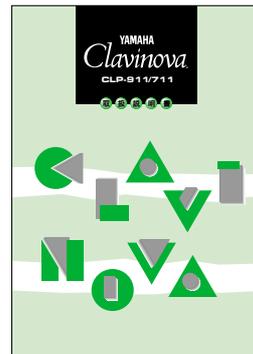
保証書



ご愛用者カード

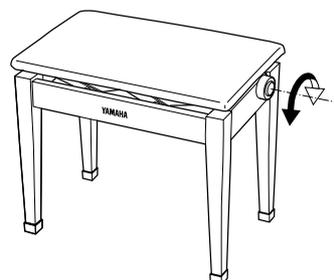


取扱説明書(本書)



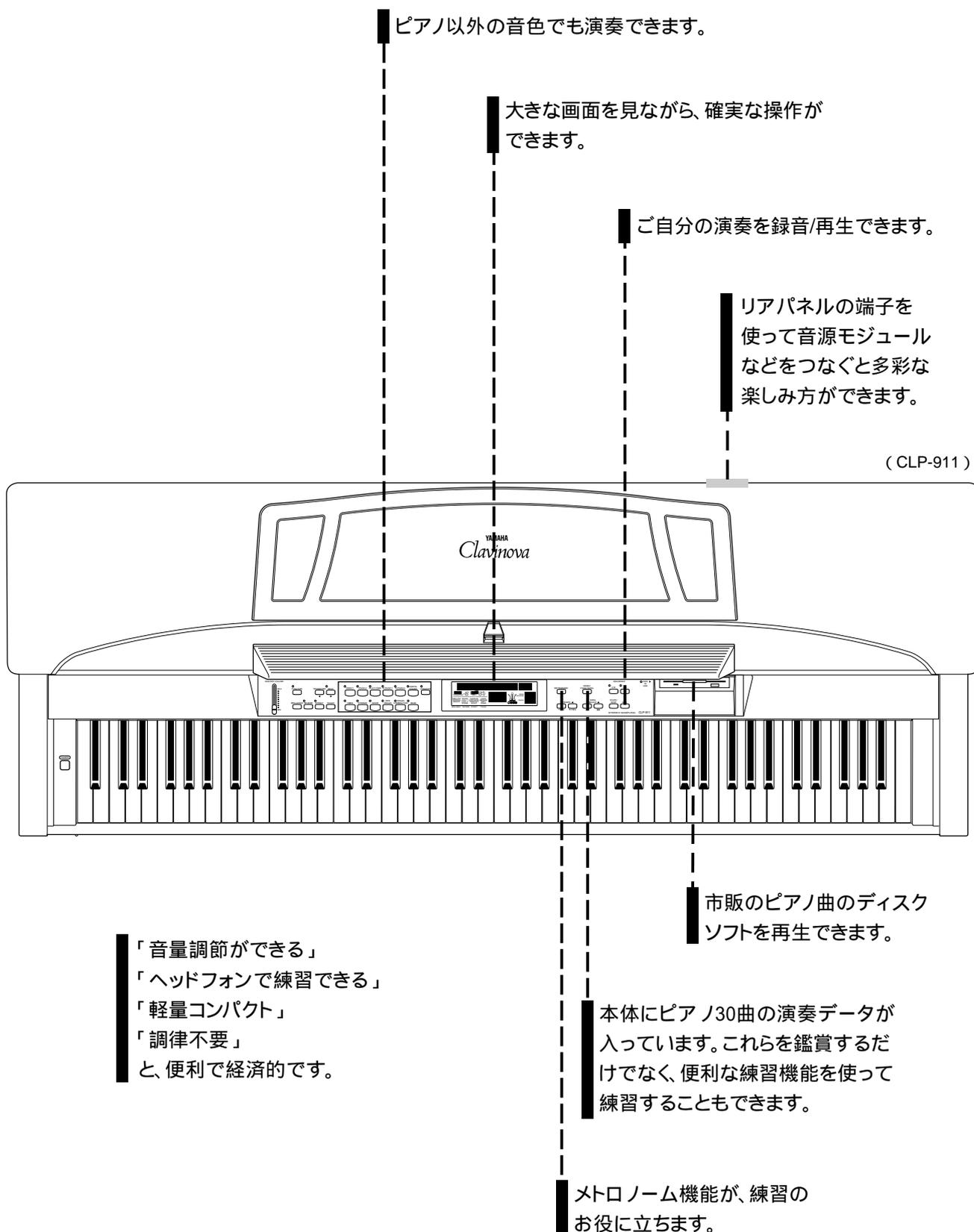
高低自在イス BC-15

ご自分の演奏しやすい高さに調節してお使いいただけます。



CLP-911/711でこんなことができます

リアルなピアノの音[AWM Dynamic Stereo Sampling (AWMダイナミックステレオサンプリング)]と、リアルなタッチで、本格的なピアノらしい演奏が楽しめます。



目次

準備

安全上のご注意	巻頭
付属品(お確かめください)	2
CLP-911/711でこんなことができます	3
取扱説明書(本書)はこんなふうにお役に立ちます	4
フロッピーディスクの取り扱い	6
ご使用前の準備	7

ガイドンス編

ステップ1 操作の基本と日本語表示 (必ずお読みください)	10
ステップ2 CLP-911/711に入っている デモ曲とピアノ曲を聞く	12
ステップ3 音色を選んで弾く	15
ステップ4 CLP-911/711に入っている ピアノ曲の練習方法	27
ステップ5 ディスクソフトの再生と演奏の録音	32

本編

各部の名前	44
操作の基本と共通機能	46
デモ曲/ピアノ曲を楽しむ	48
デモ曲を聞く	49
ピアノ30曲を聞く	50
ピアノ30曲の片手練習	51
ピアノ30曲の部分練習	52
音色を選んで弾く	53
音色を選ぶ	53
ペダルを使う	54
音に変化を付ける...【 <small>バリエーション</small> VARIATION】 <small>ブリリアンス</small> 【BRILLIANCE】 【 <small>リバーブ</small> REVERB】 <small>エフェクト</small> 【EFFECT】	54
【 <small>タッチ</small> TOUCH】	56
【 <small>トランスポーズ</small> TRANSPOSE】	57
「デュアル」で弾く(2つの音色を混ぜて弾く)	57
「スプリット」で弾く(鍵盤を左右に分けて 別々の2つの音色で弾く)	58
【 <small>メトロノーム</small> METRONOME】を使う	59
ディスクソフトと録音データの再生	60
再生の基本手順	60
再生に関する便利な機能	61
いろいろな種類の演奏データの再生について	63
演奏の録音(記録)	65
録音の準備(ディスクのフォーマット)	65
録音の手順(1つのトラックへの録音)	66
録音し直す場合	68
続いて2つめのトラックへ録音する場合	68
録音(記録)されるデータの種類	68
初期値の変更	69
ディスクを入れないで録音してしまったら	69
録音した曲の再生	69

ファンクション	70
ファンクションでの基本操作	72
各ファンクション項目の説明	73
・[F1.Tune](<small>チューニング</small> 全鍵盤の音程の微調整)	73
・[F2.KTune](<small>キーチューニング</small> 鍵盤ごとの音程の微調整)	73
・[F3.Scale](<small>スケール</small> 音律(調律法)の選択)	74
・[F4.DualFunc.](<small>デュアルファンクション</small> デュアルの諸設定)	75
・[F5.SplitFunc.](<small>スプリットファンクション</small> スプリットの諸設定)	75
・[F6.OrganEdit](<small>オルガンエディット</small> 【ORGAN COMBINATION】音色の エディット)	76
・[F7.Metronome](<small>メトロノーム</small> メトロノームの諸設定)	78
・[F8.Display](<small>ディスプレイ</small> 画面表示モードの選択)	78
・[F9.L.Pedal](<small>レフトペダル</small> 左ペダル機能の設定)	79
・[F10.DamperDpt](<small>ダンパーデプス</small> ダンパーペダル付加音の深さの設定)	79
・[F11.Damper](<small>ダンパー</small> ダンパーペダル効果方式の設定)	80
・[F12.CancelVol](<small>キャンセルボリューム</small> ピアノ30曲のパート再生OFF時の音量 設定)	80
・[F13.MIDIFunc.](<small>ミディファンクション</small> MIDI機能の諸設定)	80
・[F14.DiskFunc.](<small>ディスクファンクション</small> ディスクを使う操作と設定)	82
・[F15.MicRevDpt](<small>マイクリバーブデプス</small> マイクリバーブの深さの設定)	88
・[F16.Backup](<small>バックアップ</small> バックアップON/OFFの設定)	88
・[F17.Language](<small>ランゲージ</small> 画面表示言語の設定)	89
メッセージ一覧	90
他の機器と接続する端子	91
パーソナルコンピューターとの接続	93

付録

音源モジュール(MU50など)とつないでDOCを楽しむ	96
MIDI及びデータの互換性について	97
本体だけで再生できる別売ディスクソフトのご紹介	98
音色のご紹介	99
デモ曲/ピアノ曲 曲名一覧表	99
基本設定一覧表	100
MIDIデータフォーマット	101
MIDIインプリメンテーションチャート	104
別売品のご紹介	105
仕様	105
CLP-911の組み立て方	106
CLP-711の組み立て方	108
故障かな?と思ったら	110
索引	111
メモ	112
保証とアフターサービス	113

フロッピーディスクの取り扱い

この製品には、2種類のフロッピーディスク(「ピアソフト紹介ディスク」
「録音用ディスク」)が付属しています。
フロッピーディスクは、扱いかたを間違えると記録したデータを失いかねません。
フロッピーディスクとディスクドライブユニットをご愛用いただくために、ご
使用時には以下のことをお守りください。

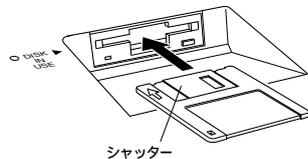
フロッピーディスクの種類

- この製品には、「3.5インチ2DDまたは2HDマイクロフロッピーディスク」をご使用ください。

フロッピーディスクの挿入/取り出し

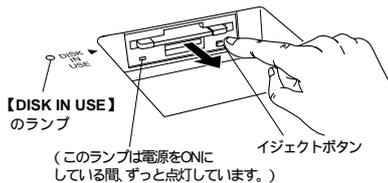
フロッピーディスクの入れかた

- フロッピーディスクのシャッターに文字が書かれている方(表面)を上にして、イラストのように、ディスク挿入口にカチッと音がするまで、ていねいに差し込みます。



フロッピーディスクをディスク挿入口から取り出すときの注意

- ディスク挿入口左の【DISK IN USE (ディスク使用中)】のランプが消えたことを確認した後(ディスクドライブが実行中でないことを確認した後)、イジェクトボタンをしっかりと正確に押し、フロッピーディスクが完全に出了たことを確認してから取り出してください。



- イジェクトボタンを中途半端に押ししたり、あわてて押しと、取り出し機構が正常に作動せず、フロッピーディスクが途中で引っかかり取り出せなくなる場合があります。この場合、無理にフロッピーディスクを取り出そうとすると、ディスクがこわれたりディスクドライブユニットが故障したりする原因になります。このような場合は、もう一度イジェクトボタンを押しなおすか、またはフロッピーディスクをディスク挿入口に完全に押し込んで、もう一度イジェクトボタンをしっかりと正確に押しなおして取り出してください。

録音中や再生中などは、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ディスクのデータがこわれるだけでなく、ディスクドライブユニットの故障の原因になります。

電源を切るときは、フロッピーディスクをあらかじめディスクドライブユニットから取り出してください。電源を切った後、フロッピーディスクを入れたまま長時間放置すると、ディスクが汚れ、データの読み書きにエラーが生じる原因になります。

イジェクトボタンを押してディスクが半分出た状態(ディスクを手で抜き取っていない状態)のまま、キーカバーを開閉しないでください。キーカバーとディスクが接触してディスクやディスクドライブユニットが破損するおそれがあります。

磁気ヘッドの定期的なクリーニング

- ディスクドライブユニットは、高精度の磁気ヘッドを使用しています。ディスクドライブユニットを長時間使用していくうちに、磁気ヘッドはフロッピーディスクの磁性粉で汚れてきます。磁気ヘッドが汚れてくると、録音や再生(データの書き込みや読み取り)にエラーが生じることがあります。
- ディスクドライブユニットを良い状態でお使いいただくために、磁気ヘッドを定期的に(1か月に1回程度)クリーニングしていただくことをお勧めします。
- 磁気ヘッドのクリーニングには、市販の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をご使用ください。なお、巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点で、ヤマハ推奨の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をお求めいただくこともできます。

フロッピーディスクについてのご注意

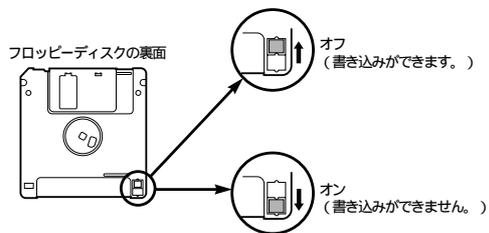
フロッピーディスクの取り扱いと保管

フロッピーディスクの中にはデータを記録する磁性体が入っています。磁性体を保護し、さらにディスクドライブユニットの磁気ヘッドを保護するために、以下の点にご注意ください。

- (持ち運ぶ場合も含めて)必ず市販のケースに入れて保管し、落としたり、物を乗せたり、折り曲げたりしないでください。また、ディスク内部に水やホコリなどが入らないようにしてください。
- ディスクのシャッターを開けて、内部の磁性体に触れないでください。
- 磁気を帯びた物(テレビやスピーカーなど)には近づけないでください。
- 直射日光の当たる場所や、過度に高温/低温の場所、多湿な場所などに置かないでください。
- シャッターやディスク本体が変形しているようなフロッピーディスクは、絶対に使用しないでください。
- フロッピーディスクには、ラベル以外の物(メモなど)を貼らないでください。また、ラベルは所定の位置に、はがれないようにしっかりと貼ってください。

誤消去防止

フロッピーディスクには、誤ってデータを消してしまうことがないように、ライトプロテクトタブが付いています。大切なデータが入っているディスクは、ライトプロテクトタブをオン(タブの窓が開いた状態)にして書き込みができないようにしてください。



データのバックアップ

- フロッピーディスクの万一の事故に備えて、大切なデータは、バックアップとして予備のディスクに保存しておかれることをお勧めします。

市販フロッピーディスクの中には粗悪品もございます。メーカー名をお確かめのうえ、お求めください。

フロッピーディスクのフォーマット(初期化)

- 新しいディスクや他の機器で使っていたディスクは、そのままでは使うことができません。この製品で使えるように、最初にフォーマット(初期化)しておく必要があります。フォーマットのしかたについてはP65、82をご参照ください。

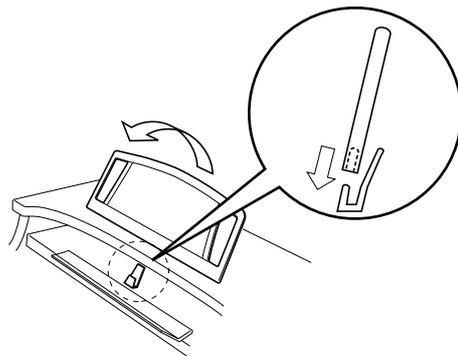
ご使用前の準備

■ 譜面立てについて

CLP - 911

立てるとき

1. 譜面立ての左右を両手で持ちます。
譜面立てを回転させるように持ち上げながら起こします。
2. 譜面立ての下方にあるフックに、譜面立ての下部を差し込みます。



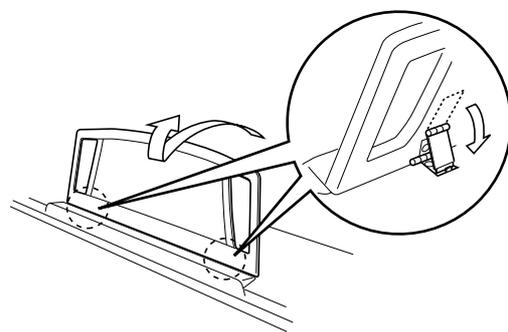
倒すとき

1. 譜面立ての左右を両手で持ちます。
持ち上げてから、回転させるように、ゆっくり戻します。

CLP - 711

立てるとき

1. 譜面立てを、止まるまで手前に起こします。
2. 譜面立て後ろ側の金具2つを、下向きに開きます。
3. 金具2つが固定される位置まで、譜面立てを戻します。



倒すとき

1. 譜面立てを、止まるまで手前に起こします。
2. 譜面立て後ろ側の金具2つを、上向きに閉じます。
3. 譜面立てに手を添えて、ゆっくり戻します。

ノート 譜面立ては、中間位置で使用または放置しないでください。
また、譜面立てを倒すときは、途中で手を離さないでください。

準
備

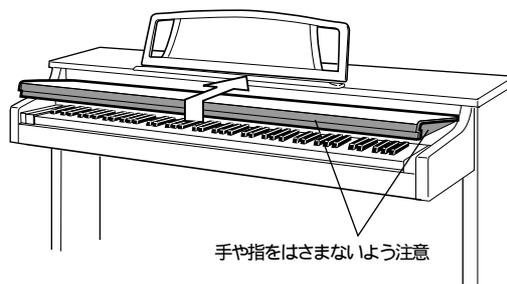
■ キーカバー(けんばんふた 鍵盤蓋)について

開けるとき

1. 少しだけ持ち上げます。
2. 上へすべらせて開けます。

閉めるとき

1. 下へすべさせます。
2. 手を添えたまま静かに降ろします。

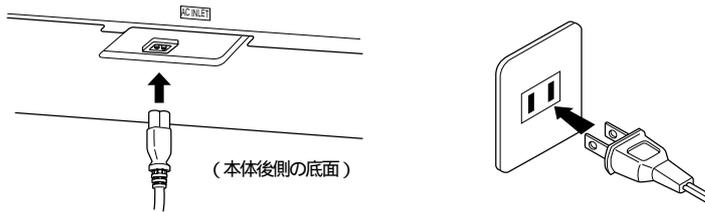


キーカバーを開閉するときは、両手で静かに行い、途中で手を離さないでください。
また、ご自分や周りの方(特にお子様など)が、キーカバーの端と本体の間に手や指をはさまないようご注意ください。

■ 電源を入れる

1. 電源コードを接続する

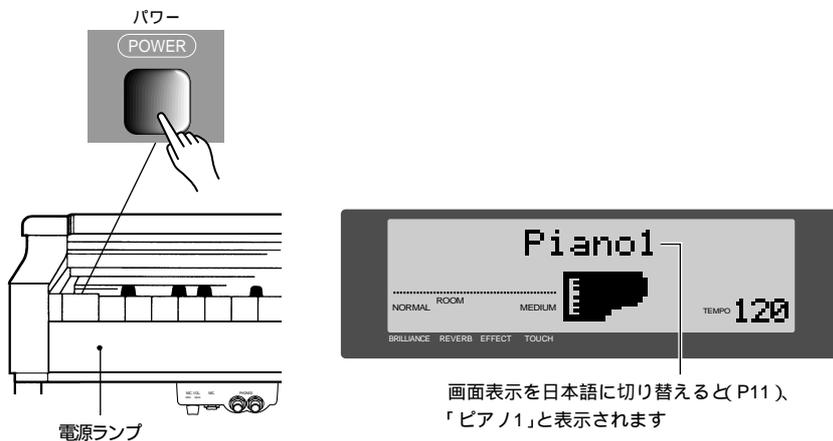
電源コードの両端のプラグを、本体とコンセント(家庭用AC100V)にそれぞれ差し込みます。



2. 電源を入れる

本体パネル左の【^{パワー}POWER】を押すと

⇒ 電源が入ります。本体パネル中央の画面に表示が現れます。また、本体前面左の電源ランプも点灯します。

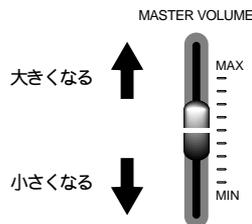


電源を切るときは、もう1度【^{パワー}POWER】を押します。

⇒ 画面の表示が消え、本体前面左の電源ランプも消灯します。

■ 音量(ボリューム)調節

【^{マスターボリューム}MASTER VOLUME】を上下に動かして調節します。実際に鍵盤を弾いたりなど音を出しながら、音量を調節してください。



MASTER = 全体を制御する
VOLUME = 音量

【^{マスターボリューム}MASTER VOLUME】で、
【^{フォーンズ}PHONES】やAUX OUT【R/L/L+R】
の出力レベルも調節されます。

■ ヘッドフォンを使う場合

ヘッドフォン(別売)を【^{フォーンズ}PHONES】端子に接続して使います。

ヘッドフォンを接続するとクラビノーバ本体のスピーカーからは音が出ません。また、【^{フォーンズ}PHONES】端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。



推奨ヘッドフォン...

YAMAHAヘッドフォン HPE-160
(税別価格: 5,500円)

ガイドンス編

なるべく「ステップ1」から順にお読みください。

読みながらCLP-911/711で実際に操作や演奏をしてみてください。

詳細をお知りになりたいときは、項目ごとに書いてある「本編」や「付録」のページをご覧ください。

ステップ1	操作の基本と日本語表示(必ずお読みください) ……………	P10
ステップ2	CLP-911/711に入っているデモ曲とピアノ曲を聞く ……	P12
ステップ3	音色を選んで弾く ……………	P15
	「デュアル」を使って弾く ……………	P22
	《例題曲》 ロンドンデリーの歌	
	「スプリット」を使って弾く ……………	P24
	《例題曲》 夏の思い出	
ステップ4	CLP-911/711に入っているピアノ曲の練習方法 ……………	P27
	《例題曲》 アラベスク	
ステップ5	ディスクソフトの再生と演奏の録音 ……………	P32
	《例題曲》 きらきらぼし	
	メヌエット	

操作の基本と日本語表示

(必ずお読みください)

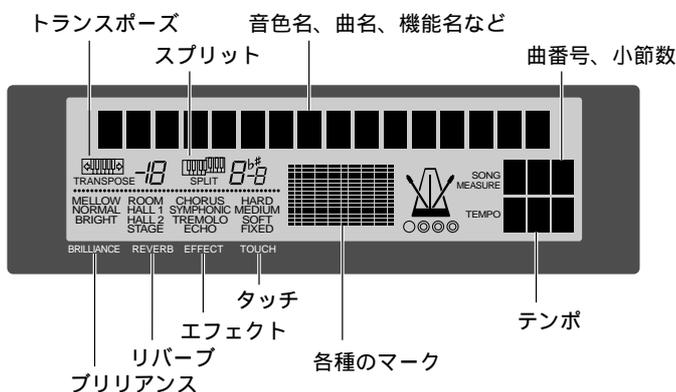
ここでは、操作の基本的な考え方と画面表示を日本語に変える操作を説明します。
本書の説明で使用する画面のイラストは、すべて日本語表示の場合の例です。
ここで画面を日本語表示に切り替えて本書をお読みください。

これさえ覚えれば操作は簡単!

■ 操作の基本

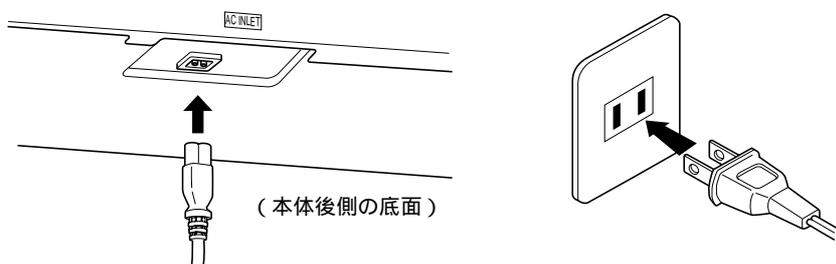
操作の基本はパネルのボタンを押すだけです。

操作の結果をパネル中央の画面で確認しながら進めてください。



■ 準備

- 1 電源コードのプラグを本体とコンセントの両方に差し込む。



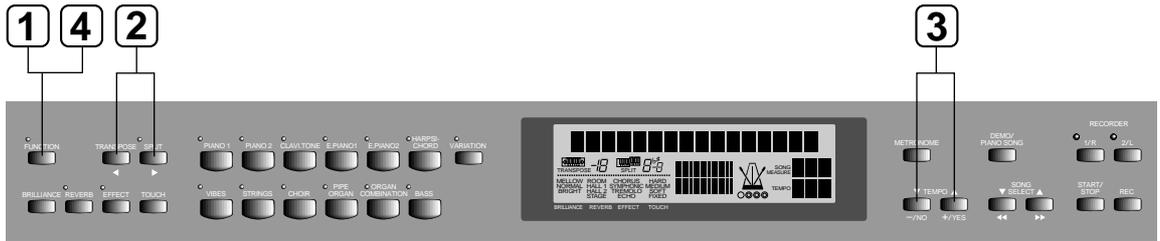
- 2 **電源を入れる**



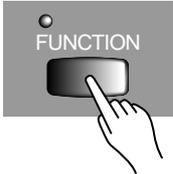
本体パネル左の【POWER】を押す。⇒画面に表示ができる

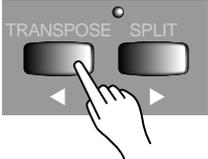
画面表示を日本語に変える操作

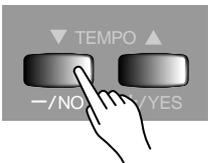
||||||| ここで使うボタン |||||||

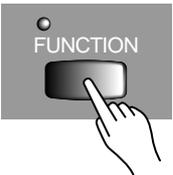


||||||| 操作 |||||||

1 ファンクション
 を押す 本編P72, 89
 ⇨ ランプ点灯

2  で  を選ぶ

3  で  を選ぶ

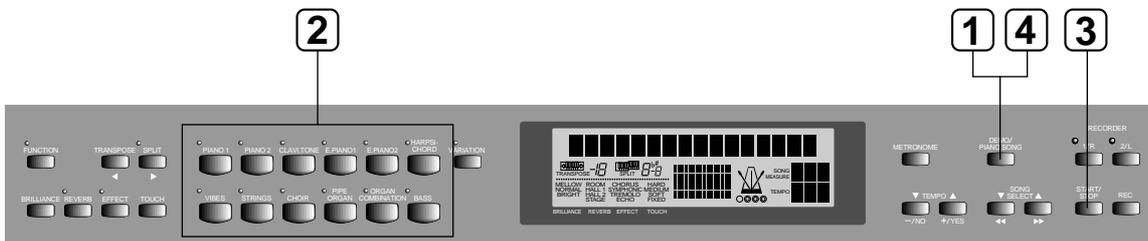
4 ファンクション
 を押しておわり
 ⇨ ランプ消灯

CLP-911/711に入っている デモ曲とピアノ曲を聞く

クラビノーバには、音色の特長を生かしたデモ曲(CLP-911は12曲、CLP-711は11曲)と、有名なピアノ曲(CLP-911、711ともに30曲)が入っています。聞いてみましょう。
また、このピアノ曲を使って片手練習や部分練習ができる機能もあります。P27で紹介します。

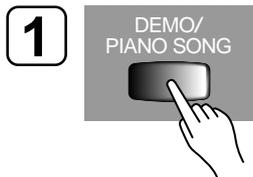
■ デモ曲を聞く

||||||| ここで使うボタン |||



||||||| 操作 |||

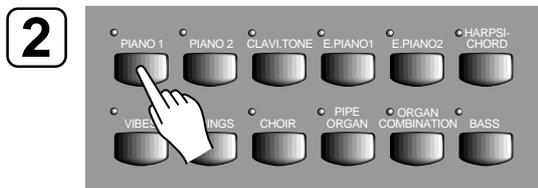
デモ/ピアノソング



を押す

本編P48

曲目一覧表
付録P99



デモ曲を聞いてみたい
音色ボタンを押すと
曲の再生がスタートします

⇒ ランプ点滅

ノート

マスターボリューム
【MASTER VOLUME】で
聞きやすい音量に調節するのを忘れずに。

3 再生をストップする

スタート/ストップ



を押す

4

デモ/ピアノソング

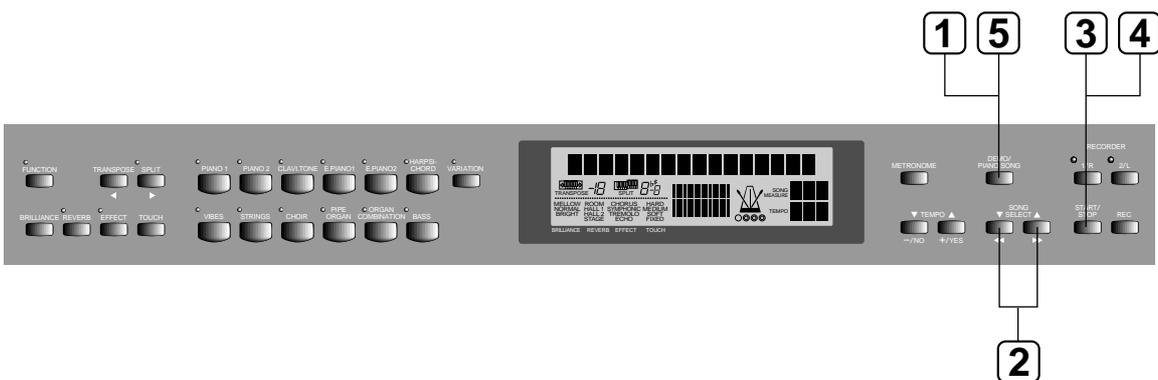


を押しておわり

ピアノ曲を聞く

ヒント このピアノ曲を使った片手練習や部分練習の方法はP27で紹介します。

||||||| ここで使うボタン |||



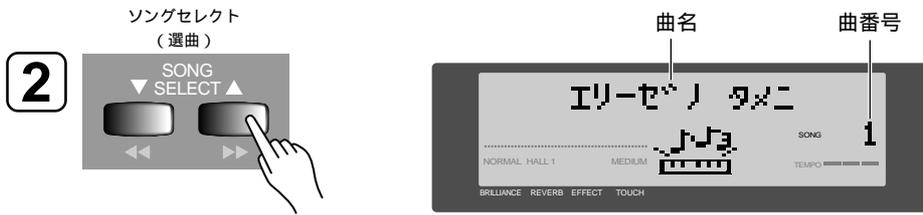
||||||| 操作 |||

1

デモ/ピアノソング



を押す



2 ソングセレクト (選曲) で再生したい曲番号を選ぶ 本編P50

ヒント ここで ^{オール} [ALL] を選ぶと全曲連続再生に、
^{ランダム} [RND] を選ぶと 順不同の全曲連続再生になります。..... 本編P50
 この場合の再生曲にはデモ曲も含まれます。

曲目一覧表
付録P99

3 再生をスタートする



4 再生をストップする



5 デモ/ピアノソング DEMO/PIANO SONG を押しておわり



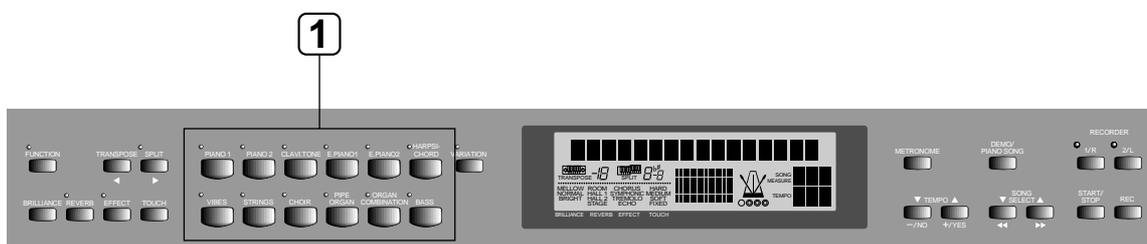
ステップ 3

音色を選んで弾く

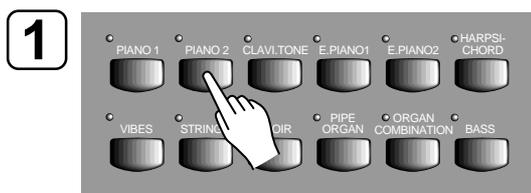
CLP-911には12種類、CLP-711には11種類の音色があります。
それぞれの特長を生かして色々な曲を弾いてみてください。
また、2種類の音色を混ぜて新しい雰囲気の色を作った(デュアル)、
88個を左右の領域に分け、それぞれ違う音色を設定した(スプリット)もできます。
【VARIATION】^{バリエーション}や【EFFECT】^{エフェクト}を使うと、また違った表情の音色にもなります。

■ 音色を選ぶ

||||||| ここで使うボタン |||||||



||||||| 操作 |||||||



演奏したい
音色ボタンを押す 本編P53
⇒ ランプ点灯
音色解説
付録P99

ノート ^{マスターボリューム} 【MASTER VOLUME】で聞きやすい音量に
調節するのを忘れずに。

ヒント

ブリリアンス
【BRILLIANCE】を使うと音の明るさが変わります。..... 本編P55
3タイプの中から選べます。特に設定をしなくても
基本のブリリアンスが自動的に選ばれています。

ブリリアンス
【BRILLIANCE】



ヒント

リバーブ
【REVERB】を使うと残響がつかます。..... 本編P55
また、その深さを変えることもできます。
特に設定をしなくても基本のリバーブが
自動的に選ばれています。

リバーブ
【REVERB】



ヒント

エフェクト
【EFFECT】を使うと音が揺れ広がり感がつかます。..... 本編P55
また、その効果のかかり具合を変えることもできます。
特に設定をしなくても基本のエフェクトが
音色ごとに自動的に選ばれています。

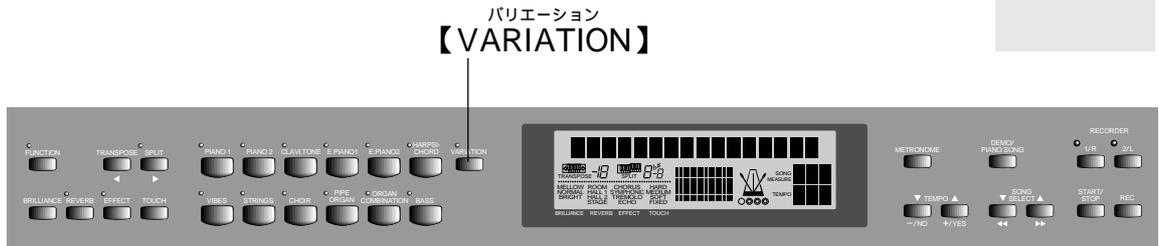
エフェクト
【EFFECT】



ヒント

バリエーション
【VARIATION】を使うと選んだ音色が
違った表情の音になります。

本編P54



演奏

音色を選んで弾いてみましょう。

PIANO1 (ピアノ1) の音で

ヒント

ペダルを使いましょう。 本編P54
右のペダル(ダンパーペダル)を踏むと
鍵盤から指を離しても音が長く響きます。
○ のマークはペダルを踏むマークです。
次のマークがあるところの直前まで踏み続けます。
○ マークの次に*マークがある場合は、
そこでペダルを離します。

本編P54

月光の曲

作曲：L.V.Beethoven

この楽譜はPDF上では表示されません。

PIANO2 (ピアノ2) の音で

ヒント ^{ブリリアンス}【BRILLIANCE】の設定でいろいろな表情の
ピアノの音になります。.....
お好みでどうぞ。

本編P55

夢の窓辺に

作曲：倉本裕基

この楽譜はPDFでは表示されません。

日本音楽著作権協会 出 許諾第9573080-501号

CLAVI.TONE (クラビノーバトーン) の音で

ヒント ダンパーペダルをこまめに踏み直して、
音が混ざらないように弾きましょう。.....

本編P54

ジムノペディ第1番

作曲：E.Satie

この楽譜はPDFでは表示されません。

E.PIANO1 (エレクトリックピアノ1) の音で

ヒント ^{エフェクト}【EFFECT】を^{シンフォニック}【SYMPHONIC】にすると
より奥行き感がつきます。.....

本編P55

ピースオブマイウィッシュ
Piece of My Wish

作曲：上田知華

この楽譜はPDFでは表示されません。

日本音楽著作権協会 出 許諾第9573080-501号

E.PIANO2 (エレクトリックピアノ2)の音で

ヒント ^{リバーブ}【REVERB】を^{ステージ} STAGE に、^{エフェクト}【EFFECT】を^{トレモロ} TREMOLO にして
弾いてみましょう。 本編P55
タッチの強弱による音色変化を味わってください。

イパネマの娘

作曲：A.C.Jobim

この楽譜はPDF では表示されません。

GAROTA DE IPANEMA (THE GIRL FROM IPANEMA)
WORDS AND MUSIC BY VINICIUS DE MORAES, ANTONIO CARLOS JOBIM AND NORMAN GIMBEL
© 1963 ANTONIO CARLOS JOBIM and VINICIUS DE MORAES. Sole Selling Agent DUCHESS MUSIC CORPORATION
Assigned for Japan to MCA MUSIC K. K., administered by MCA PANASONIC MUSIC CO., LTD. Authorized for sale only in Japan.
日本音楽著作権協会 出 許諾第9573080-501号

HARPSICHORD (ハープシコード)の音で

ヒント ペダルを使わずに弾いてみましょう。
^{リバーブ}【REVERB】は^{ルーム} ROOM だ。 本編P55

主よ人の望みの喜びよ

作曲：J.S.Bach

この楽譜はPDF では表示されません

VIBES (バイブ)の音で

ヒント 一般的なピアノの楽譜を元に音域などを工夫すれば、
他の音色で弾いても楽しめるという例です。
^{リバーブ}【REVERB】を^{ホール1} HALL 1 にして、ペダルを使わずに
弾いてみましょう。 本編P55

こんぺい糖のおどり

作曲：Tschaikowsky

この楽譜はPDF では表示されません

STRINGS (ストリングス)の音で

ヒント 音がとぎれないように十分にのばして弾きましょう。
【BRILLIANCE】を^{ブリリアンス} [BRIGHT] にするとシャリっとした
感じの明るいストリングスの音になります。..... 本編P55

タラのテーマ(TARA'S THEME)

作曲：M.Steiner

この楽譜はPDF では表示されません

Vocal Version Title "MY OWN TRUE LOVE" Music by Max Steiner Words by Mack David
© 1941, 1964 by WARNER BROS. INC. All rights reserved. Used by permission
Rights for Japan administered by WARNER/CHAPPELL MUSIC, JAPAN K.K., c/o NICHION, INC.
日本音楽著作権協会 出 許第9573090-501号

CHOIR (クワイア)の音で

ヒント 自分でも歌っているつもりで息つぎの感じなどを
工夫して弾きましょう。
【REVERB】を^{リバーブ} [HALL 2] にすると、広い教会で
歌っているような残響がつかます。..... 本編P55

いつくしみ深き

賛美歌第312番

この楽譜はPDF では表示されません

PIPE ORGAN (パイプオルガン)の音で

ヒント ペダルは使わずになるべく長く鍵盤を押さえて
音を伸ばして弾きましょう。
【REVERB】を^{リバーブ} [HALL 2] にすると、豊かな残響がつかます。..... 本編P55

もみの木

トラディショナル

この楽譜はPDF では表示されません

ORGAN COMBINATION (オルガンコンビネーション)の音で

ヒント ^{オルガン コンビネーション} 【ORGAN COMBINATION】を押しなが^{ファンクション}ら【FUNCTION】を押すと、いろいろなタイプのオルガン音色が選べる状態になります。.....^{リバーブ} 【REVERB】は^{ルーム} ROOM]で。ペダルは使わずに弾きましょう。

本編P76

オール・オブ・ミー (ALL OF ME)

作曲：G.Marks

この楽譜はPDF では表示されません

Words & Music by Seymour Simons & Gerald Marks
C Copyright 1931 by BOURNE CO. Copyright Renewed
All Rights Reserved
The rights for Japan administered by HIGH NOTE PUBLISHING CO., LTD.
日本音楽著作権協会 出 許諾第9573080-501号

BASS (ベース)(CLP-911)の音で

ヒント ペダルは使わずに1音1音を大切に弾きましょう。オルガンコンビネーションの楽譜を弾く前にこのベースパートを録音しておく^{リバーブ} と、アンサンブル演奏ができます。.....^{ルーム} 【REVERB】は ROOM]で。

本編P55

オール・オブ・ミー (ALL OF ME)

作曲：G.Marks

この楽譜はPDF では表示されません

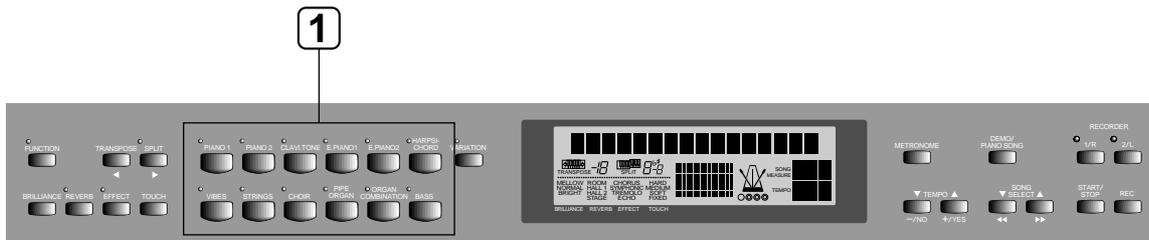
Words & Music by Seymour Simons & Gerald Marks
C Copyright 1931 by BOURNE CO. Copyright Renewed
All Rights Reserved
The rights for Japan administered by HIGH NOTE PUBLISHING CO., LTD.
日本音楽著作権協会 出 許諾第9573080-501号

「デュアル」を使って弾く

2つの音色を混ぜて新しい雰囲気の色を作れます。気持ちよい音を作ってみましょう。

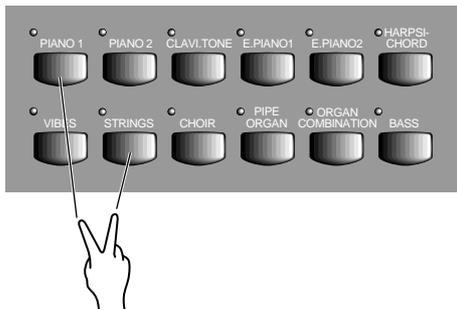
《例題曲》 ロンドンデリーの歌

||||||| ここで使うボタン |||||||



||||||| 操作 |||||||

1 2種類の音色を混ぜる



演奏したい音色ボタンを
2つ同時に押す。…………… 本編P57
⇨ランプ点灯

ヒント 2つの音色の音量バランスの調節や、片方の音の音域を1オクターブ上げたりなどの設定ができます。…………… 本編P75
特に設定しなくても基本の設定が音色ごとに自動的に選ばれます。

ヒント 片方の音色に【STRINGS】を選んだときは、^{ストリングス}ストリングスのアタック(音の立ち上がる速さ)を遅くすることができます。…………… 本編P75
雰囲気が出てお勧めです。

ヒント 「デュアル」から元の「1つの音色」に戻すときは新たに1つの音色ボタンを押します。…………… 本編P58

ノート 【MASTER VOLUME】^{マスターボリューム}で聞きやすい音量に調節するのを忘れずに。

||||||| 演奏 |||||||

PIANO1(ピアノ)とSTRINGS(ストリングス)のデュアルの音で「ロンドンデリーの歌」を弾いてみましょう。

ヒント

2音色の音量バランスは「15」がベストです。

STRINGSの音色が1オクターブ高い音域で鳴るように設定

[Vc2. Octave +1]すると、華やかな演奏になります。..... 本編P75

ロンドンデリーの歌

トラディショナル

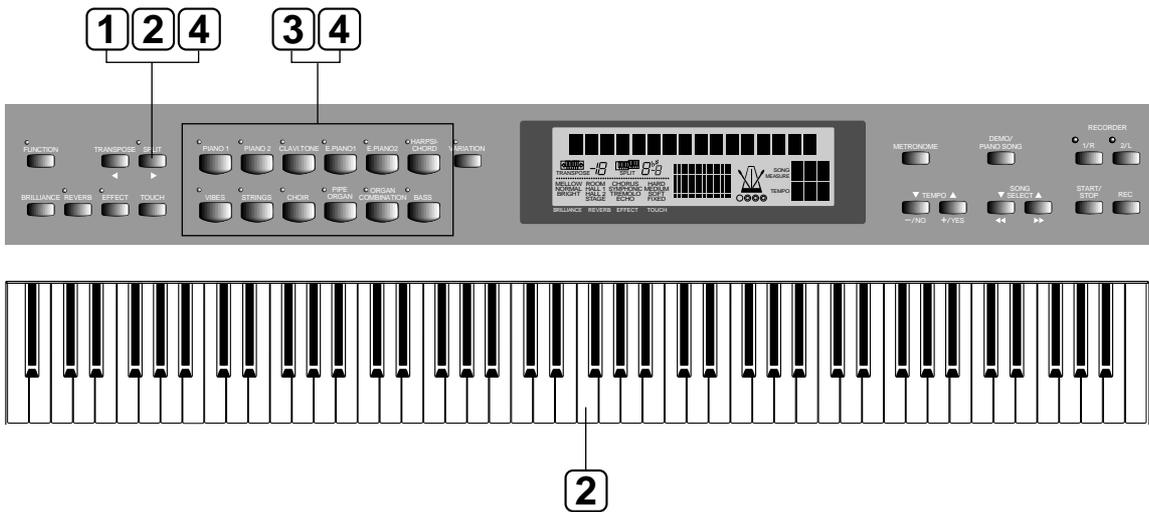
この楽譜はPDF では表示されません

「スプリット」を使って弾く

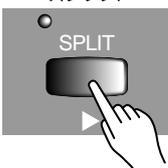
88個の鍵盤を左右の領域に分け、それぞれ違う音色を設定することができます。使い方によって効果的です。

《例題曲》夏の思い出」

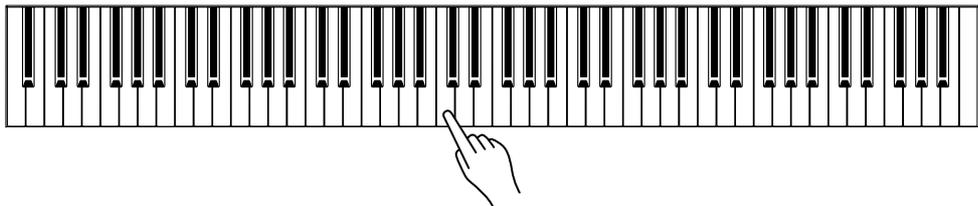
||||||| ここで使うボタン |||



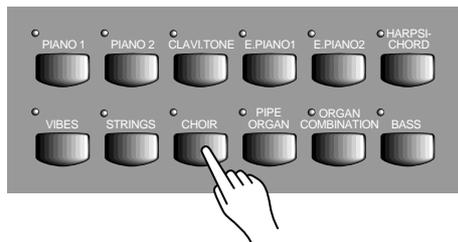
||||||| 操作 |||

1 **スプリット**
 を押す 本編P58
 ⇨ ランプ点灯

2 **スプリット**
 を押したまま境めにする鍵盤を押す 本編P58



3 右側の音色を決める



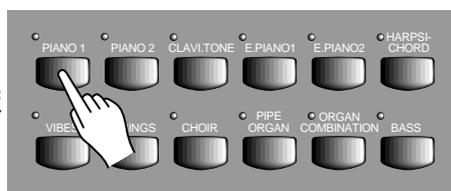
演奏したい音色ボタンを
押す

☞ ランプ点灯

4 左側の音色を決める



を押したまま



音色ボタンを押す

ヒント

2つの音色の音量バランスの調節や、片方の音の音域を1オクターブ上げたりなどの設定ができます。……… 本編P76
特に設定しなくても基本の設定が音色ごとに自動的に選ばれます。

ヒント

「スプリット」から元の「1つの音色」に戻すときは …… 本編P59
【SPLIT】ボタンを押します。

☞ ランプ消灯

||||||| 演奏 |||||||

CHOIR(クワイア)とPIANO1(ピアノ1)の音を「スプリット」設定して「夏の思い出」を弾いてみましょう。スプリットポイント(2音色の境め)は中央のド(C3)。右側の音色にCHOIR、左側の音色にPIANO1を選びます。ピアノパートは楽譜より1オクターブ低い鍵盤位置で弾くと、楽譜どおりの高さの音が出ます。

ヒント 2音色のバランスは「15」がベストです。 本編P75

夏の思い出

作曲：中田喜直

CHOIR (クワイア)

PIANO 1 (ピアノ1)

(R.H.)

(L.H.)

poco rit......

a tempo

CLP-911/711に入っている ピアノ曲の練習方法

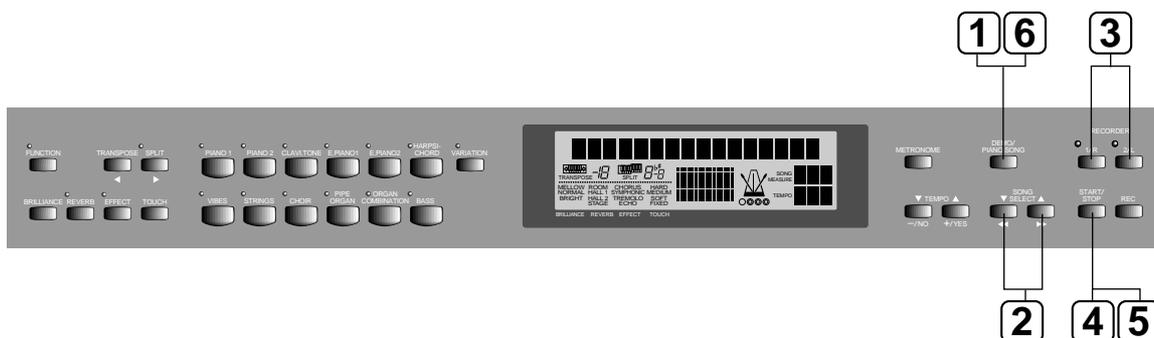
CLP-911/711に入っているピアノ曲は、片手練習や部分練習など電子ピアノならではの練習機能を使って弾くことができます。レパートリー作りに挑戦してみてください。

■ 片手練習

ピアノ曲は右手パートと左手パートが別々のボタンに入っていますので、それぞれを再生^{オフ}する（自分で弾くために再生音量を小さくする、あるいは消すこと）と片手ずつの練習ができます。

《例題曲》アラベスク

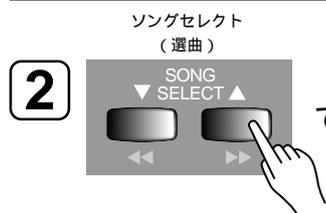
||||||| ここで使うボタン |||||||



||||||| 操作 |||||||

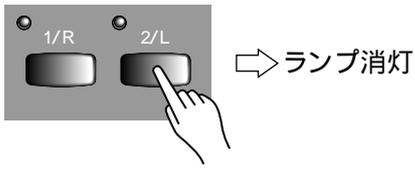


1 を押す 本編P51



2 ソングセレクト (選曲) で練習したい曲番号を選ぶ 曲目一覧 付録P100

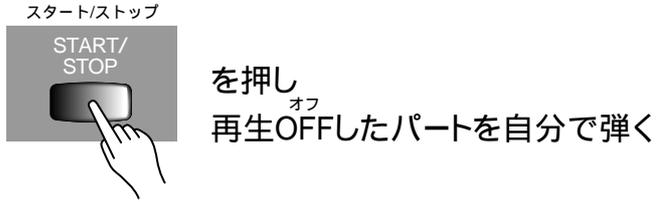
3 再生OFFする(再生音量が小さくなる)パートを選ぶ 本編P51



右手パートを再生OFFするときには
 【1/R】1トラック/R)を押してランプを消す
 左手パートを再生OFFするときには
 【2/L】2トラック/L)を押してランプを消す

ヒント 再生OFFしたパートの再生音量を設定できます。 本編P80
 ここで(α 如)に設定するとキャンセルしたパートは
 まったく鳴らなくなります。特に設定をしなくても
 基本の再生音量が自動的に設定されています。

4 再生をスタートし演奏する



ヒント テンポを調節できます。 本編P50
ヒント 左のペダルを使ってもスタート/ストップができます。 本編P51、79
ヒント 再生するトラックのボタン【1/R(1トラック/R)】または
 【2/L(2トラック/L)】を押したまま【START/STOP(スタート/ストップ)】を
 押し、鍵盤を弾くと同時に再生がスタートする
 「シンクロスタート」ができます。 本編P51

5 再生をストップする



||||||| 演奏 |||||||

SONG 26「アラベスク」を弾いてみましょう。

アラベスク

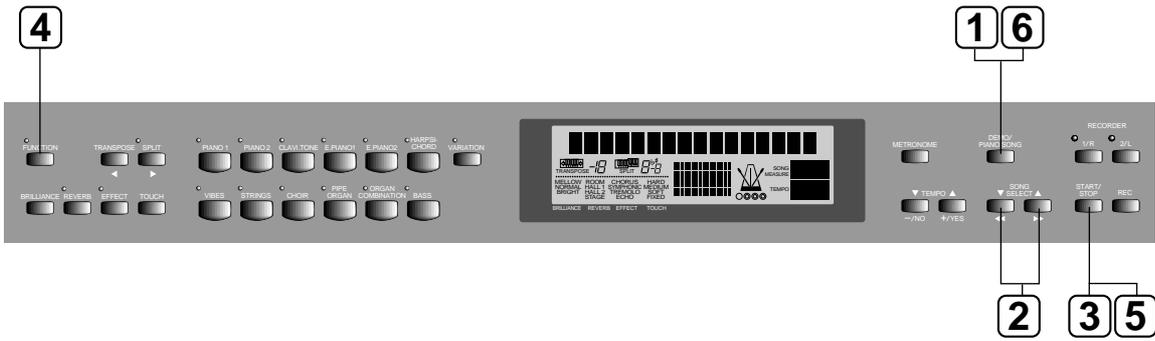
作曲：J.F.F.Burgmüller

この楽譜はPDFでは表示されません

部分練習

ピアノ曲のある部分だけを繰り返し再生して部分練習ができます。繰り返しをする範囲は自由に設定できます。

||||||| ここで使うボタン |||||||



||||||| 操作 |||||||

ガイド
ダンス
編

1 デモ/ピアノソング
DEMO/PIANO SONG
を押す 本編P52

2 ソングセレクト (選曲)
SONG SELECT
で練習したい曲番号を選ぶ

3 再生をスタートする
START/STOP
を押す

ヒント テンポを調節できます。 本編P50

本編P52

4 繰り返しをする範囲を設定する 本編P52



を押して繰り返しを始める位置 [A] を決める

ヒント 曲の先頭から繰り返しを始めたいときは、再生をスタートする前に【ファンクションFUNCTION】を押して始める位置 [A] を設定します。

もう一度



を押して繰り返しを終わる位置 [B] を決める

⇒ 自動的に繰り返し再生が始まる

ヒント 片手練習のときにもこの機能が使えます。 本編P51

ヒント もう1度【ファンクションFUNCTION】を押すと、A-Bの位置設定が解除されます。 本編P52

5 再生をストップする



を押す

6 DEMO/PIANO SONG を押しておわり



ディスクソフトの再生と演奏の録音

CLP-911/711ではフロッピーディスクが使えます。

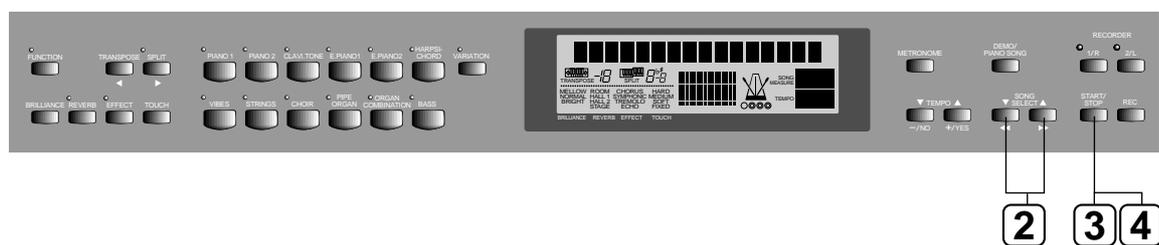
市販のピアノ曲のディスクソフト(演奏データの入ったディスク)を再生して鑑賞したり、カラオケ用のピアノ伴奏ディスクソフトを再生してカラオケを楽しんだり、録音用フロッピーディスクに自分の演奏を録音することができます。

録音した自分の演奏を再生して客観的に聞くことは、とても効果的な練習方法の一つですし、連弾や2台のピアノのための曲も、片方のパートをあらかじめ録音しておく一人でも楽しむことができます。

■ ディスクソフトの再生

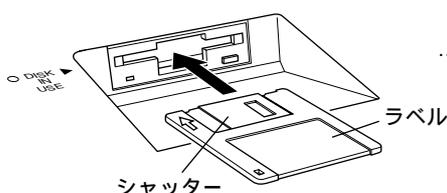
付属の「ピアノソフト紹介ディスク」を再生してみましょう。

||||||| ここで使うボタン |||



||||||| 操作 |||

- 1 ディスクドライブにピアノソフト紹介ディスクを入れる



..... 本編P60

ノート ラベルが貼ってある面を上向き、シャッター側を奥にして、カチッと音がするまでていねいに差し込みましょう。



で再生したい曲番号を選ぶ

ヒント ここで [ALL] を選ぶと全曲連続再生に、[RND] を選ぶと ^{ランダム} 順不同の全曲連続再生になります。 本編P60

ヒント パートキャンセル対応曲(右手パートと左手パートに分かれている曲)は「片手練習」や「部分練習」もできます。 本編P61、62
付属の「ピアノソフト紹介ディスク」の1曲めもこれにあたります。

3 再生をスタートする



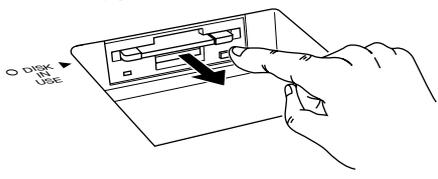
ヒント テンポを調節できます。 本編P61

ヒント 左のペダルを使ってもスタート/ストップができます。 本編P62

4 再生をストップする



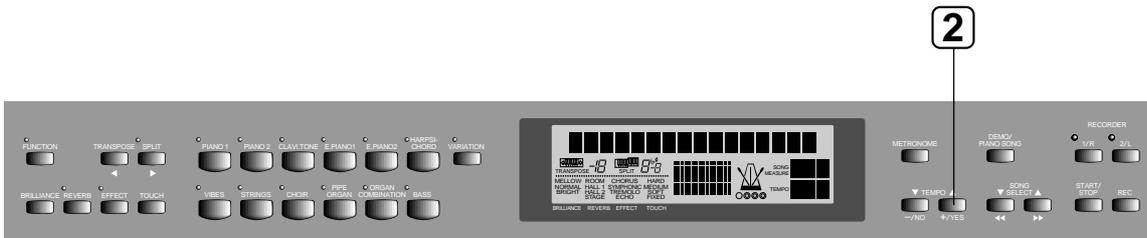
ノート ディスクソフトを使い終わったら、イジェクトボタンを押して、必ずディスクを抜いておきましょう。



■演奏の録音の準備(ディスクのフォーマット)

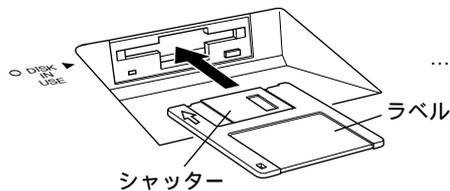
付属の録音用ディスクを初めて使うときは最初にフォーマット(初期化)をします。

||||||| ここで使うボタン |||||||



||||||| 操作 |||||||

1 ディスクドライブに
録音用ディスクを入れる

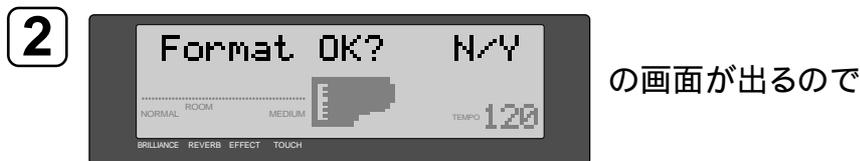


本編P65

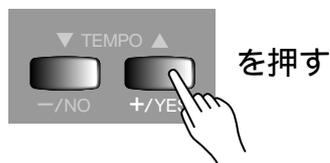
ノート ラベルを貼る面を上向き、シャッター側を奥にして、カチッと音がするまででいいに差し込みましょう。



の表示が3秒間出る



の画面が出るので



を押す



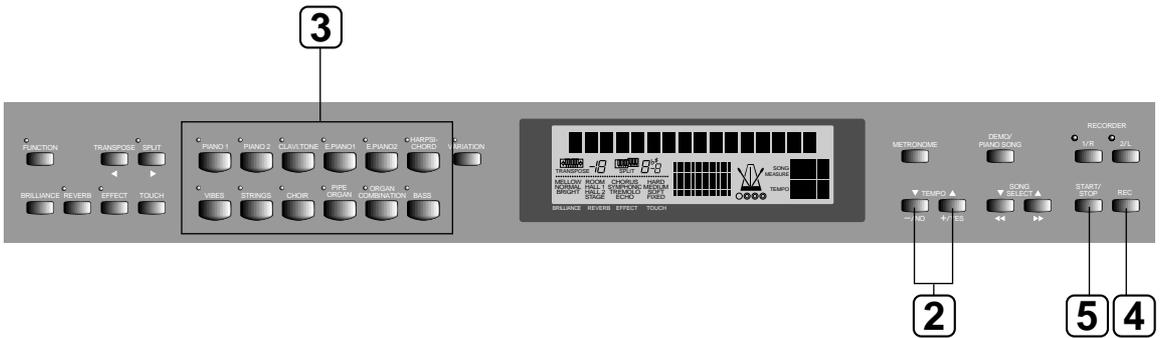
の画面で完了

録音

自分の演奏を録音してみましょう。

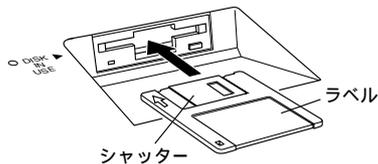
《例題曲》『きらきらぼし』

||||||| ここで使うボタン |||||||



||||||| 操作 |||||||

- 1** ディスクドライブに録音用ディスクを入れる



本編P66

ノート フォーマット済みのディスクを正しく入れましょう。

- 2** ソングセレクト (選曲)
SONG SELECT
で録音する曲番号を選ぶ



録音する音色を選ぶ 本編P67

- 3** PIANO 1, PIANO 2, CLAVI.TONE, E.PIANO1, E.PIANO2, HARPSI-CHORD, VIBES, STRINGS, CHOIR, PIPE ORGAN, ORGAN COMBINATION, BASS

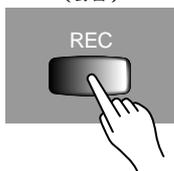
⇒ ランプ点灯

音色解説
付録P99

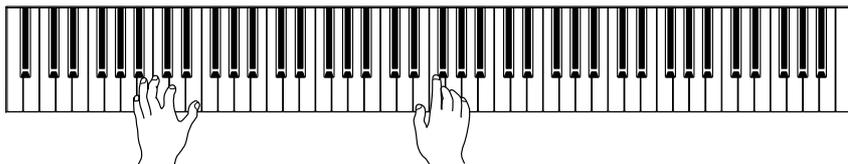
ヒント 音色以外にもリバーブやエフェクトの種類、
オン/オフ
バリエーションのON/OFFなども記録されます。 本編P68

4

レコード
(録音)



を押すと録音待機状態になり、
鍵盤を弾くと録音が始まる



ヒント



を押すと録音するトラックが選べます。..... 本編P67

⇒ 赤ランプ点灯

ヒント

【START/STOP(スタート/ストップ)】を押しても
録音が始まります。

ヒント

左のペダルを使ってもスタート/ストップができます。..... 本編

P67(欄外注)
P79

5

録音をストップする

スタート/ストップ



を押す

ヒント

すでに録音したパートを再生しながら
残りのパートを録音することができます。..... 本編P68

ヒント

すでに録音したパートを再生しながら、
それに合わせて演奏するとき、
シンクロスタートでスタートする方法も
あります。..... 本編P62

||||||| 演奏 |||||||

「きらきらぼし」を録音してみましょう。

【1/R】1トラック/R)にSTRINGS(ストリングス)パートを、
【2/R】2トラック/L)にPIANO1(ピアノ1)パートを録音してみましょう。
P36の手順4で、STRINGS(ストリングス)パートを弾くときは【1/R】1トラック/R)を、
PIANO1(ピアノ1)パートを弾くときは【2/L】2トラック/L)を選びます。

きらきらぼし

トラディショナル



||||||| 演奏 |||||||

連弾曲「メヌエット」の片パートを録音して一人でアンサンブル演奏をしてみましょう。

1つのソングに両方のパートを録音する場合

録音

まず、Primoを録音します。そして、録音したPrimoのパートを再生しながら
Secondoを録音しましょう。このとき、録音のスタートは左のペダルを使います。

再生

Primoの再生に合わせて、Secondoを再生OFFして自分で弾くときは、
左のペダルを使ってスタートします。

Secondoの再生に合わせて、Primoを再生OFFして自分で弾くときは、
シンクロスタートを使ってスタートします。

1つの曲番号に1パートずつ、計2つの曲番号に録音する場合

録音

PrimoもSecondoも、弾くと同時に演奏が始まるシンクロスタートで録音します。

再生

Primoを弾くときもSecondoを弾くときも、左のペダルを使って再生スタートします。

ヒント 録音の時メトロノームを使うと
テンポをとるのに便利です。

本編
P67(欄外注)

メヌエット

作曲：W.A.Mozart

この楽譜はPDFでは表示されません

この楽譜はPDF では表示されません

メヌエット

作曲：W.A.Mozart

この楽譜はPDF では表示されません

この楽譜はPDF では表示されません

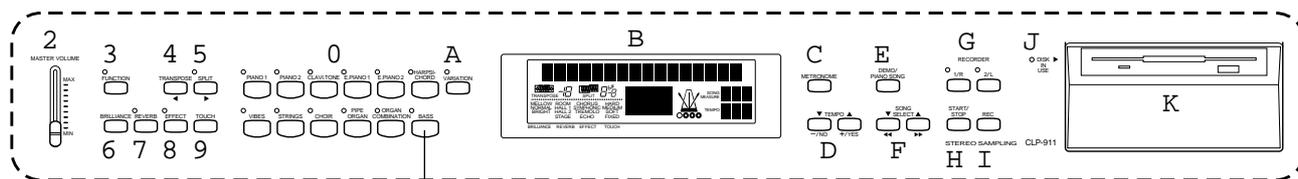
本編

詳細をお知りになりたいときにご覧ください。

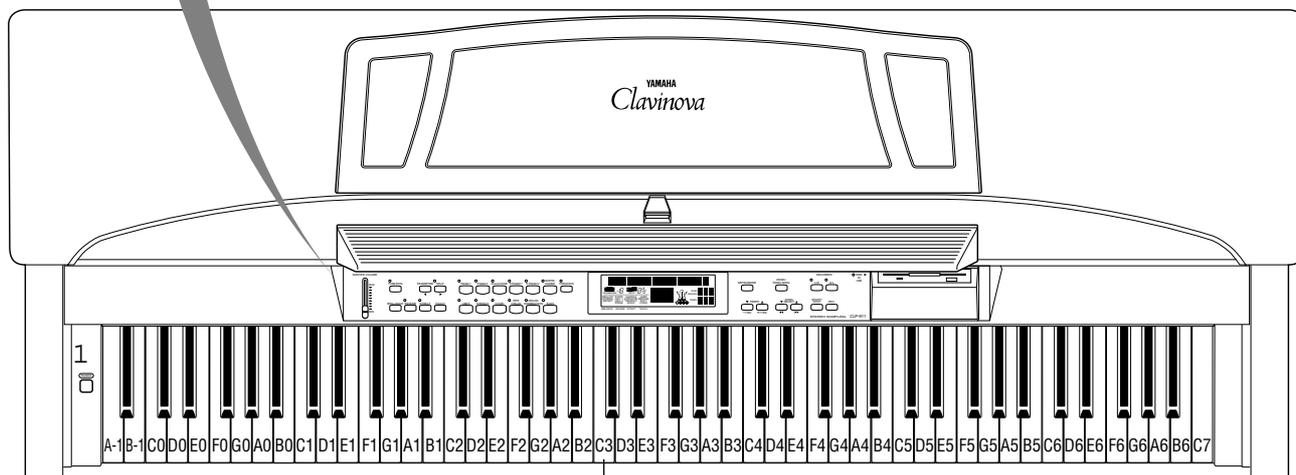
各部の名前	P 44	ファンクション	P 70
操作の基本と共通機能	P 46	ファンクションでの基本操作	P 72
デモ曲/ピアノ曲を楽しむ	P 48	各ファンクション項目の説明	P 73
デモ曲を聞く	P 49	・[F1.Tune](全鍵盤の音程の微調整)	P 73
ピアノ30曲を聞く	P 50	・[F2.KTune](鍵盤ごとの音程の微調整)	P 73
ピアノ30曲の片手練習	P 51	・[F3.Scale](音律(調律法)の選択)	P 74
ピアノ30曲の部分練習	P 52	・[F4.DualFunc.](デュアルの諸設定)	P 75
音色を選んで弾く	P 53	・[F5.SplitFunc.](スプリットの諸設定)	P 75
音色を選ぶ	P 53	・[F6.OrganEdit](【ORGAN COMBINATION】 音色のエディット)	P 76
ペダルを使う	P 54	・[F7.Metronome](メトロノームの諸設定)	P 78
音に変化を付ける...【VARIATION】 <small>パリエーション</small> <small>トリリファンズ</small> <small>リバーブ</small> <small>エフェクト</small>	P 54	・[F8.Display](画面表示モードの選択)	P 78
【BRILLIANCE】 <small>タッチ</small> 【REVERB】 <small>リバーブ</small> 【EFFECT】 <small>エフェクト</small>	P 54	・[F9.L.Pedal](左ペダル機能の設定)	P 79
【TOUCH】 <small>タッチ</small>	P 56	・[F10.DamperDpt](ダンパーペダル 付加音の深さの設定)	P 79
【TRANPOSE】 <small>トランスポーズ</small>	P 57	・[F11.Damper](ダンパーペダル効果方式の設定)	P 80
「デュアル」で弾く(2つの音色を混ぜて弾く)	P 57	・[F12.CancelVol](ピアノ30曲のパート再生 オフ時の音量設定)	P 80
「スプリット」で弾く(鍵盤を左右に分けて 別々の2つの音色で弾く)	P 58	・[F13.MIDIFunc.](MIDI機能の諸設定)	P 80
【METRONOME(メトロノーム)]を使う	P 59	・[F14.DiskFunc.](ディスクを使う操作と設定)	P 82
ディスクソフトと録音データの再生	P 60	・[F15.MicRevDpt](マイクリバーブの深さの設定)	P 88
再生の基本手順	P 60	・[F16.Backup](バックアップON/OFFの設定)	P 88
再生に関する便利な機能	P 61	・[F17.Language](画面表示言語の設定)	P 89
いろいろな種類の演奏データの再生について	P 63	メッセージ一覧	P 90
演奏の録音(記録)	P 65	他の機器と接続する端子	P 91
録音の準備(ディスクのフォーマット)	P 65	パーソナルコンピューターとの接続	P 93
録音の手順(1つのトラックへの録音)	P 66		
録音し直す場合	P 68		
続いて2つめのトラックへ録音する場合	P 68		
録音(記録)されるデータの種類	P 68		
初期値の変更	P 69		
ディスクを入れないで録音してしまったら	P 69		
録音した曲の再生	P 69		

各部の名前

トップパネル

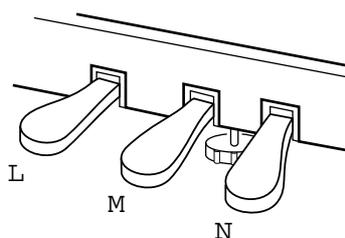
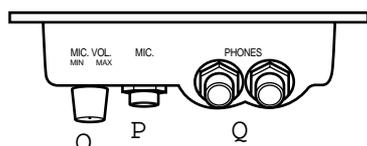


このボタンはCLP-711にはありません。
このボタン以外のトップパネルは、すべてCLP-911/711共通です。



中央の「ド」

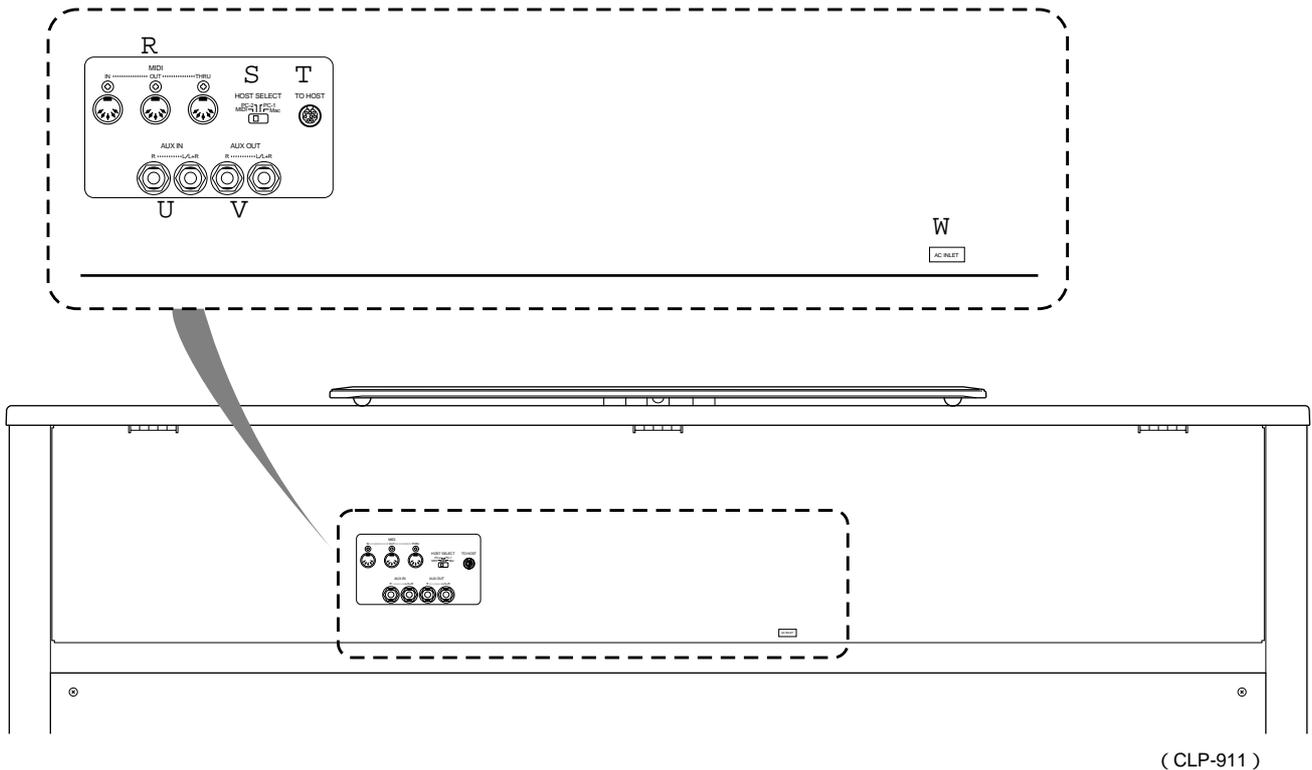
(CLP-911)



1	【POWER】 P8
2	【MASTER VOLUME】 P8
3	【FUNCTION】 P70
4	【TRANSPOSE】 / 【\cdot】 P57
5	【SPLIT】 / 【フ】 P58
6	【BRILLIANCE】 P55
7	【REVERB】 P55
8	【EFFECT】 P55
9	【TOUCH】 P56
0	音色ボタン P53

A	【VARIATION】 P54
B	画面 P46
C	【METRONOME(メトロノーム)】 P59
D	TEMPO(テンポ)【X】 / 【-/NO(-//)-】+ /YES(+//イ入)】 ... P46、59、72
E	【DEMO/PIANO SONG(デモ/ピアノソング)】 P48
F	SONG SELECT(選曲)【X】 / 【\cdot (巻き戻し)】【フ (早送り)】 ... P60、61、72
G	RECORDER(レコーダー) 【1/R(1トラック/R)】【2/L(2トラック/L)】 ... P61、67

リアパネル



(CLP-911)

H **【START/STOP (スタート/ストップ)】**..... P50、61、67
レコード
 I **【REC (録音)】** P67
ディスクインユース
 J **DISK IN USE (ディスク使用中)のランプ** P6
 K **ディスクドライブ** P6
 L **左のペダル (ソフトペダル)** P54
 M **まんな中のペダル (ソステヌートペダル)** P54
 N **右のペダル (ダンパーペダル)** P54
マイクボリューム
 O **【MIC.VOL】** P91
マイク
 P **【MIC.】** P91
フォーンズ
 Q **【PHONES】** P8、91

ミディ イン アウト スルー
 R **MIDI【IN】OUT【THRU】** P92、97
ホストセレクト
 S **HOST SELECT**
マックintosh
【MIDI】PC-2【PC-1】Mac】 P92、93
トゥーホスト
 T **【TO HOST】** P92、93
 U **AUX IN【R】L/L+R】** P92
 V **AUX OUT【R】L/L+R】** P92
エーシーインレット
 W **【AC INLET】** P8、107、109

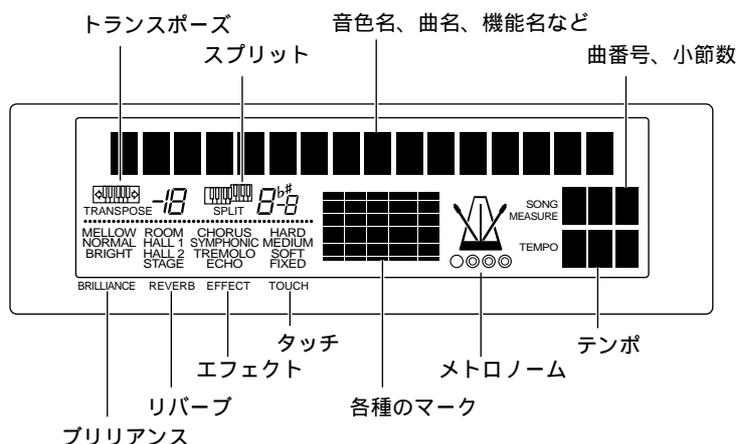
操作の基本と共通機能

取扱説明書の「本編」をお読みいただく上で必要な「操作の基本と共通機能」を説明します。必ずお読みください。

■ 操作の基本

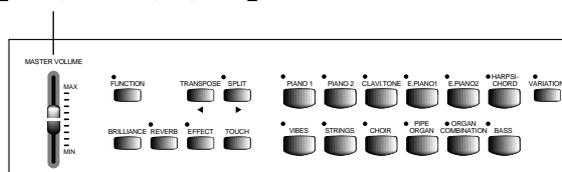
操作の基本はパネルのボタンを押すだけです。

操作の結果をパネル中央の画面で確認しながら進めてください。

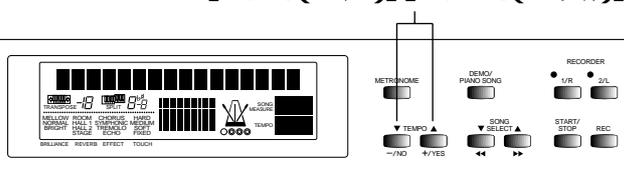


■ いろいろな場面でよく使うボタン

マスターボリューム
【MASTER VOLUME】



TEMPO(テンポ)【 X 】 /
【 - / NO(- / -) 】 【 + / YES(+ / +) 】



マスターボリューム
【MASTER VOLUME】

音量を調節します。

TEMPO(テンポ)【 X 】

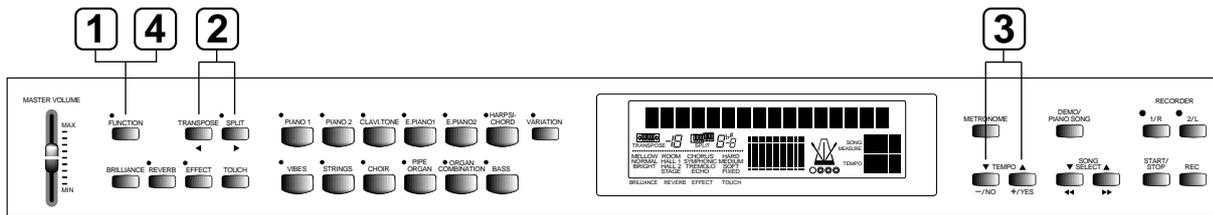
デモ曲/ピアノ曲やディスクソフトの再生、メトロノームを使うときなど、テンポを調節します。32～280(1分間の拍数)の範囲で設定できます。【 X 】と【 X 】を同時に押すと、標準テンポ(曲ごとに設定されているテンポ、または120)に戻ります。

覚えておくと便利な操作

- ・ TEMPO(テンポ)【 X 】 / 【 - / NO(- / -) 】 【 + / YES(+ / +) 】 SONG SELECT(選曲)【 X 】 / 【 ← (巻戻し) 】 【 ↻ (早送り) 】は、多くの場面で押し続けると値が連続して変わります。その場合項目によって、最大値、最小値でストップする場合と、循環して変わる場合があります。
- ・ 【 - / NO(- / -) 】 【 + / YES(+ / +) 】を同時に押すと、基本設定(工場出荷時の設定)に戻ります。

画面表示を日本語に変える操作

本書の説明で使用する画面のイラストはすべて画面が日本語表示の場合の例です。まだ画面を日本語表示に切り替えていない方は、ここで行ってください。



操作

1 ファンクションモードに入る

ファンクション
【FUNCTION】を押します。

⇒ ランプが点灯し、画面がファンクションモード用の表示に変わります。

2 [F17.Language] を選ぶ

ランゲージ
【・】を何回か押して画面に
ランゲージ イングリッシュ
[F17.Language ENG] を表示させます。



3 日本語表示を選ぶ

【 - / NO (- /) -) 【 + / YES (+ / 入) 】のどちらかを押して画面に
ランゲージ ジャパニーズ
[F17.Language JPN] を表示させます。



4 ファンクションモードを抜ける

ファンクション
【FUNCTION】を押します。

⇒ ランプが消灯し、画面が元に戻ります。

ファンクションとは...

CLP-911/711をお使いいただく上での各種の設定を、ご自分の使いやすい状態に設定する機能です。特に設定をしなくても工場出荷時に基本的な設定になっていますが、特に独自の設定をしたいときに、ご利用ください。

また、各種の応用的な操作がファンクションにまとめられています。(P70 ~ P89)

モードとは...

ある機能を実行できる状態を意味します。たとえば、ファンクションという機能を使える状態のことをファンクションモードと言います。また、「種類」と「方式」という意味に使われる場合もあります。

メモリーバックアップについて

基本設定(工場出荷時の設定)では、バックアップはすべてOFF(バックアップされない)になっています。バックアップON/OFFの設定は、ファンクション項目の「F16.Backup」で設定内容のグループごとに任意に切り替えることができます。ただし、「画面表示言語の設定」及び「バックアップON/OFFの設定」自体は常にバックアップされます。

バックアップの設定をONにしている場合、電源を切っても約1週間以上過ぎると、バックアップされている内容が消え、すべての設定内容が基本設定(工場出荷時の設定)に戻ってしまいます。したがって、バックアップされている内容を1週間以上保持したい場合は、少なくとも1週間以内に数分間は電源をONにしてください。

CLP-911/711の機能の全体構成

大きく下記4つの機能があります。

演奏に関する機能(P53 ~ P59)

ディスクソフトの再生に関する機能(P60 ~ P64)

録音に関する機能(P65 ~ P69)

ファンクションの各機能(P70 ~ P89)

メモリーとは...

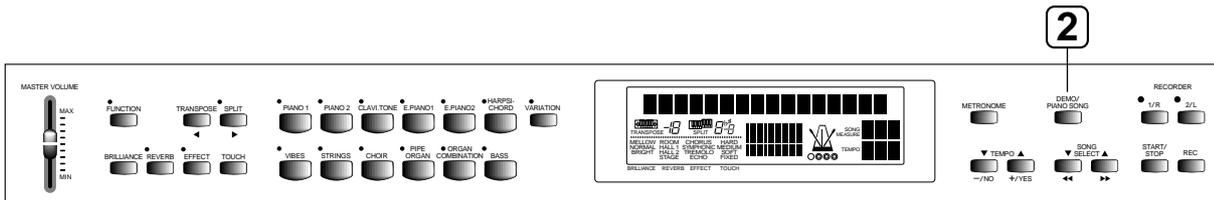
いろいろな設定が記憶される、CLP-911/711本体内部の記憶装置のことです。

バックアップとは...

メモリーに記憶されている内容を電源を切っても消さずに残しておくことを言います。バックアップをONにしておくと、次回電源を入れたときにも前回の設定が有効になります。バックアップをOFFにしておくと、次回電源を入れたときは基本設定(工場出荷時の設定)に戻ります。基本設定一覧表がP100に掲載されています。

デモ曲/ピアノ曲を楽しむ

CLP-911/711には、音色ごとに1曲ずつのデモ曲と、ピアノ模範演奏30曲が入っています。聞いてみましょう。ピアノ模範演奏30曲では、右手または左手パートを再生OFFにしてご自分で練習したり、曲中のフレーズを指定して繰り返し練習(部分練習)したりすることができます。



操作

1 電源を入れる

(まだ電源を入れていない場合【POWER】を押します。)

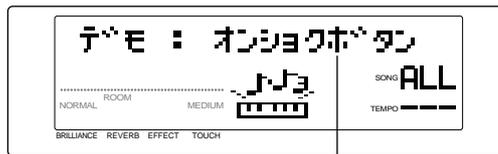
⇒ 電源が入ります。

音量はあとでデモ曲/ピアノ曲を実際に再生して聞きながら調節しますが、とりあえず【MASTER VOLUME】を中程まで上げておきます。

2 デモ曲/ピアノ曲モードに入る

パネル右ブロックの【DEMO/PIANO SONG (デモ/ピアノ曲)】を押します。

⇒ 音色ボタンのランプが流れるように点滅し、画面もデモ曲/ピアノ曲モード用の表示に変わります。



オンショクボタン カ センキョクボタン ヲ オンテクダサイ

このあと、音色デモ曲の聞き方と、ピアノ模範演奏30曲(以降「ピアノ30曲」と呼びます)の聞き方/楽しみ方に分けて説明します。

デモ曲/ピアノ曲の曲名リスト...

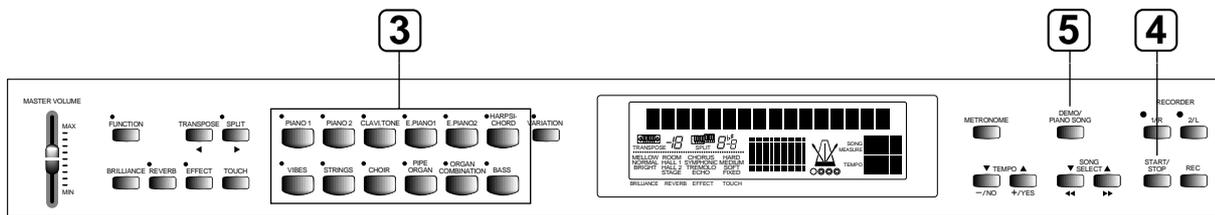
音色ごとのデモ曲には、各音色の特長がよくわかる曲が選ばれています。ピアノ模範演奏30曲にはピアノのレッスンでよく使われる曲が集められています。曲名と、ピアノ30曲の参考楽譜のリストをP99に掲載しています。

デモ曲/ピアノ曲の再生データはMIDI送信されません。また、デモ曲/ピアノ曲モード中はMIDI受信を行いません。

録音モード(P67)のときと、ディスクの曲の再生中(P60)は...デモ曲/ピアノ曲モードには入れません。

ソング SONGとは...クラビノーバでは、演奏データを総称して「ソング(SONG)」と呼んでいます。デモ曲/ピアノ曲も演奏データですので【DEMO/PIANO SONG (デモ/ピアノ曲)】と呼んでいます。

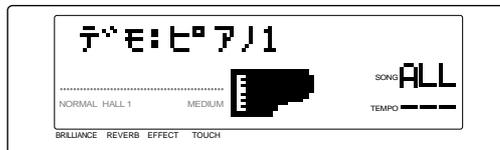
■ デモ曲を聞く



P 48 の操作 1、2 に続いて

3 選曲と再生スタート

聞きたいデモ曲の音色ボタンを押します。
 ⇨ デモ曲の再生がスタートします。

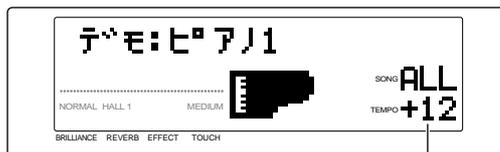


音量の調節

デモ曲を聞きながら【MASTER VOLUME】^{マスターボリューム}で音量を調節します。

テンポの調節

デモ曲ごとに固有のテンポが設定されていますが、再生中に【TEMPO(テンポ)】**【 I 】**を押してテンポを変更できます。
【 I 】を同時に押すと元のテンポに戻ります。



元のテンポに対してのプラスマイナスの値 (-99 ~ 0 ~ +99) で表示されます。元のテンポのときは「 」と表示されます

4 再生ストップ

再生をストップする場合は、【START/STOP(スタート/ストップ)】が再生中の音色ボタン(再生中は点滅しています)を押します。

5 デモ曲/ピアノ曲モードを抜ける

【DEMO/PIANO SONG(デモ/ピアノソング)】を押します。
 ⇨ 画面が元に戻ります。

連続再生...

デモ曲/ピアノ30曲すべてを順番に、または順不同に連続再生させることもできます。次項「ピアノ30曲を聞く」の操作3をご覧ください。

【パリエーション VARIATION】**【 X 】**を押すと...
 音色デモでなく、ピアノ30曲の中からランダムに曲が選ばれ再生されます。

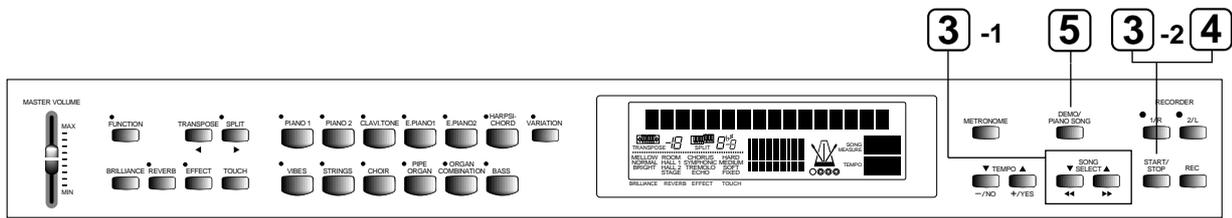
テンポのリセット(再設定)...

新しい曲を選ぶとまたは連続再生で新しい曲がスタートするとテンポは自動的にその曲の固有のテンポにリセットされます。

デモ曲/ピアノ30曲の早送り、巻戻しはできません。

デモ曲では「片手練習 (P51) や「部分練習 (P52) はできません。

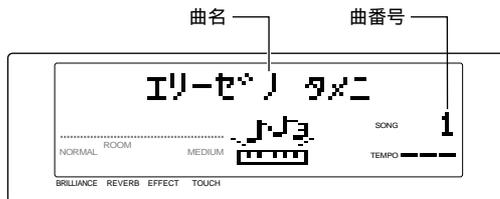
ピアノ30曲を聞く



P 48 の操作 1、2 に続いて

3 選曲と再生スタート

3-1 ソングセレクト **SONG SELECT(選曲)** **【SONG SELECT】** を押して聞くピアノ曲を選びます。



1、2、3～30: 聞く曲番号を指定します。
1曲だけ再生するモードです。

オール **ALL**: デモ曲とピアノ30曲を順番に連続再生するモードです。
ランダム **RND**: デモ曲とピアノ30曲を順不同に連続再生するモードです。

また、バリエーション **【VARIATION】** を押すとピアノ30曲の中からランダムに曲が選ばれ、再生がスタートします。(この場合は即スタートします。)

3-2 **【START/STOP(スタート/ストップ)】** を押すと再生がスタートします。

音量の調節

ピアノ曲を聞きながら マスターボリューム **【MASTER VOLUME】** で音量を調節します。

テンポの調節

ピアノ曲ごとに固有のテンポが設定されていますが、選曲後、再生スタート前または再生中に、**【TEMPO(テンポ)】** を押してテンポを変更できます。**【TEMPO】** を同時に押すと元のテンポに戻ります。



元のテンポに対してのプラスマイナスの値 (-99~0~+99) で表示されます。元のテンポのときは「1」と表示されます

4 再生ストップ

ピアノ曲の再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。再生途中に(または連続再生中に)ストップする場合は、**【START/STOP(スタート/ストップ)】** を押します。

・ 続いて他の曲を再生する場合は、操作3に戻ります。

5 デモ曲/ピアノ曲モードを抜ける

【DEMO/PIANO SONG(デモ/ピアノソング)】 を押します。
⇨ 画面が元に戻ります。

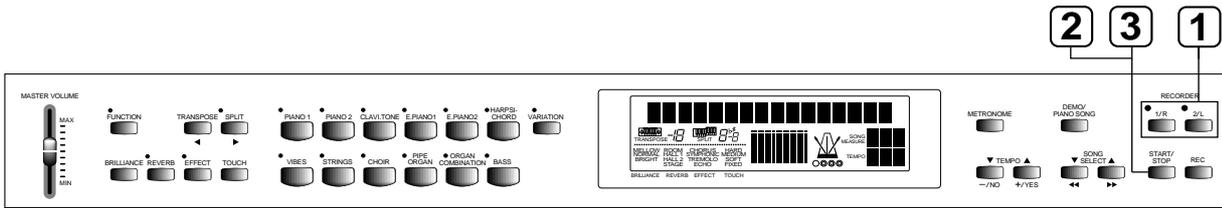
ALLを選んでから音色ボタンを押すと...
その音色のデモ曲から順番に連続再生します。

テンポのリセット(再設定)...
新しい曲を選ぶとまたは、連続再生で新しい曲がスタートするとテンポは自動的にその曲の固有のテンポにリセットされます。

次に、ピアノ30曲の、右手または左手パートを再生オフしてご自分で練習する方法(片手練習)と、曲中のフレーズを指定して繰り返し練習する方法(部分練習)を説明します。

ピアノ30曲の片手練習

ピアノ30曲では、右手パートと左手パートが別々のトラックに入っています。それぞれを再生ON/OFFし、再生OFFしたパートをご自分で練習することができます。右手パートが【1/R (1トラック/R)】に、左手パートが【2/L (2トラック/L)】に入っています。



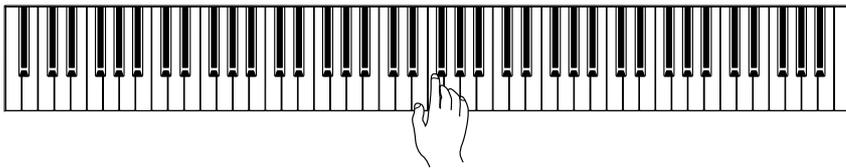
操作

1 練習するパートの再生をOFFにする

選曲したあと【1/R (1トラック/R)】【2/L (2トラック/L)】の再生OFFしたい方を押します。
 □⇒ 押した方のボタンのランプが消灯します。(選曲した時点では両方のランプが点灯します。)
 ・ それぞれのボタンは、押すごとに再生ON/OFFが切り替わります。

2 再生スタート/演奏

【START/STOP (スタート/ストップ)】を押して再生をスタートします。再生OFFしたパートをご自分で演奏してください。



弾くと同時に再生をスタートする(シンクロスタート)

鍵盤を弾くと同時に再生をスタート(シンクロスタート)することができます。
 再生ONのパートのボタンを押したまま【START/STOP (スタート/ストップ)】を押すとシンクロスタート待機状態になります。



□⇒ 画面中央にシンクロスタートのマークが表れます。

このあと鍵盤を弾くと、同時に再生もスタートします。

左のペダルでスタート/ストップする

左のペダルでスタート/ストップすることができます。
 「ファンクションF9 (P79)」で左のペダルの機能をスタート/ストップ(パネルの【START/STOP (スタート/ストップ)】と同じ機能)に切り替えます。

3 再生ストップ

ピアノ曲の再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。再生途中でストップする場合は、【START/STOP (スタート/ストップ)】を押します。

オールランダム (P50参照) のときはできません。

再生中の、パートごとの再生ON/OFF...

再生中でも、パートごとの再生ON/OFFを切り替えることができます。

再生OFFしたパートの音量調節...

再生OFFしたパートは演奏タイミングのガイドのために、完全に音を消すのではなく、少しだけ音を出しています。この音量加減の調整や、完全に音を消す設定が「ファンクションF12」(P80)でできます。

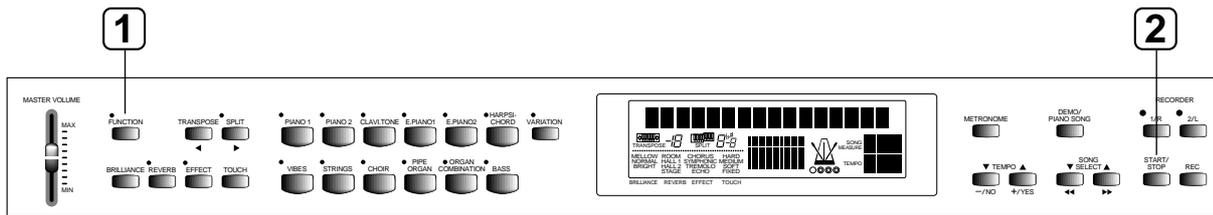
シンクロ = 同時の、同時に起こる

再生OFFのパートのボタンを押したまま【START/STOP (スタート/ストップ)】を押すと...
 そのパートの再生がONになると共に、シンクロスタート待機状態になります。

パート再生のリセット(再設定)...
 新しい曲を選ぶと自動的に両パート共再生ONにリセットされます。

ピアノ30曲の部分練習

曲中のフレーズを指定して繰り返し練習(部分練習)することができます。上記の「ピアノ30曲の片手練習」もいっしょにお使いいただけます。



操作

1 フレーズの始まり A点 と終わり B点 の指定と練習スタート

選曲し、再生をスタートします。聞きながら、始まり A点)にしたいところで【^{ファンクション}FUNCTION】を押します。

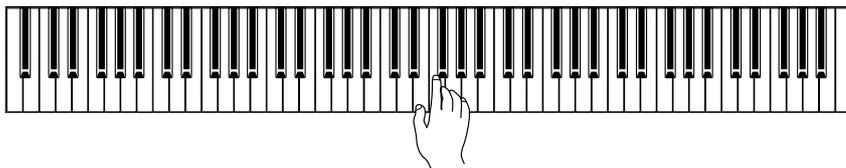
⇒ 始まり A点 が設定され、画面に「A-」と表示されます。



続いて、終わり B点)にしたいところでもう一度【^{ファンクション}FUNCTION】を押します。

⇒ 終わり B点 が設定され、画面に「A-B」と表示されます。

同時に、A点に戻って繰り返し再生が自動的にスタートします。練習してください。



2 練習ストップ

A点、B点の設定を保持したまま一時練習をストップするときは【START/STOP(スタート/ストップ)】を押します。(この場合、再度【START/STOP(スタート/ストップ)】を押すと、再びA点～B点の繰り返し再生がスタートします。)

A点、B点の設定を解除するときは【^{ファンクション}FUNCTION】を押します。

オールランダム ALLとRND(P50参照)のときはできません。

曲の先頭から繰り返しを始めたときは...

再生をスタートする前に【^{ファンクション}FUNCTION】を押して始まり A点 を設定します。

新しい曲を選ぶと...
A点、B点は自動的に解除されます。

音色を選んで弾く

CLP-911では12種類、CLP-711では11種類の音色をお楽しみいただけます。

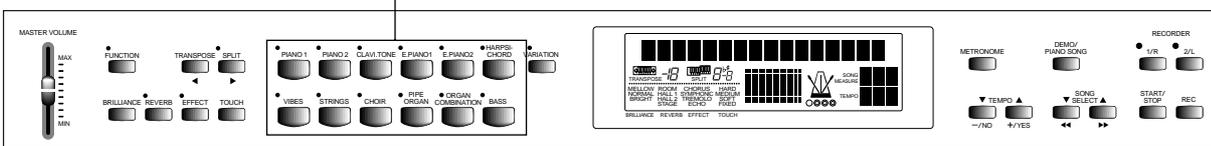
各音色で【**VARIATION**】バリエーションや【**BRILLIANCE**】ブリリアンス、【**REVERB**】リバーブ、【**EFFECT**】エフェクトを使っていろいろに表情を変えることもできます。

また、2種類の音色を混ぜた \times (=デュアル)、88個の鍵盤を左右の領域に分けて別々の音色で弾いた \times (=スプリット)もできます。

【**METRONOME**】(メトロノム)もお使いいただけます。

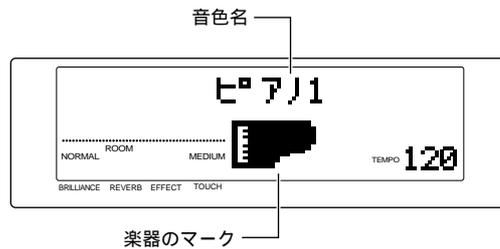
音色を選ぶ

音色ボタン

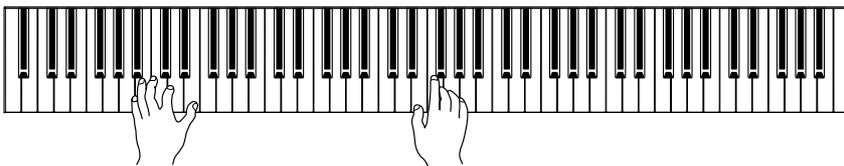


操作

使いたい音色ボタンを押します。
 ⇨ ランプが点灯します。



マスターボリューム
【MASTER VOLUME】で音量を調節しながら演奏してください。



音色の特長を掴むには...

「ガイダンス編」のP17～P21の譜例をお試しください。また、音色ごとのデモ曲を聞いてみてください。(P12)

音色解説...

P99をご覧ください。

エフェクト
【EFFECT】について...

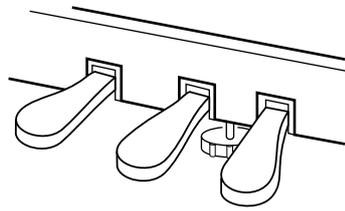
工場出荷時に、音色ごとに標準の設定がセットされていますが、任意に切り換えることもできます。詳しくは エフェクト
【EFFECT】 P55 をご覧ください。

オルガンコンビネーション
【ORGAN COMBINATION】音色について...

「ファンクションF6 (P77)で8種類のオルガン音色を選ぶことができます。

ペダルを使う

3本のペダルの使い方を説明します。



右のペダル(ダンパーペダル)

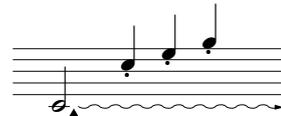
このペダルを踏んでいる間、弾いた音を、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く

まん中のペダル(ソステヌートペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く

左のペダル(ソフトペダル)

このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音の音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくすることができます。(ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい音を弾く直前に踏みます。)

工場出荷時には、ペダルを踏み込む深さに応じて8段階に長さが変わる設定になっています。段階の刻みの切り換えが「ファンクション F11」(P80)でできます。

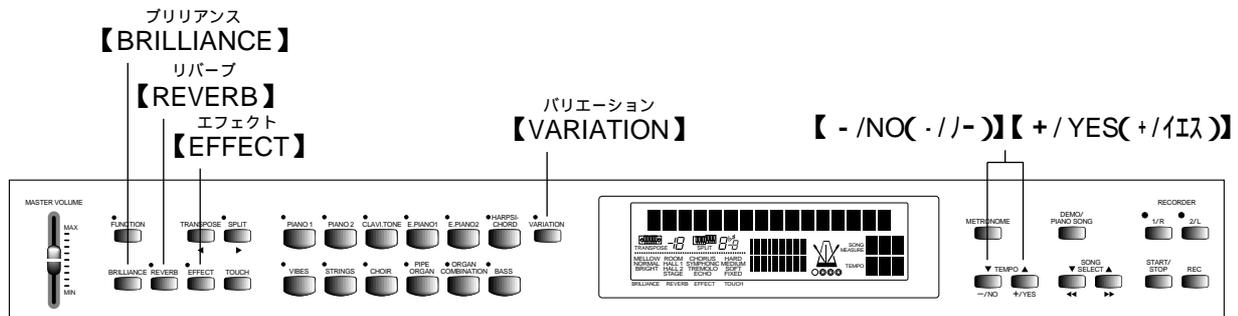
【STRINGS】【CHOIR】【PIPE ORGAN】【ORGAN COMBINATION】の音色では...ソステヌートペダルを踏むと、音が減衰せず、踏んでいる間鳴り続けます。

左のペダルの機能切り替え...「ファンクション F9」(P79)で左のペダルをパネルの【START/STOP (スタート/ストップ)】と同じ機能に切り替えることができます。

音に変化を付ける...【VARIATION】

ブリリアンス リバーブ エフェクト

【BRILLIANCE】【REVERB】【EFFECT】



【VARIATION】

違った表情の音にします。

操作

【VARIATION】を押すごとにON/OFFが切り替わります。
 ⇨ ランプが点灯したときがONです。

基本設定...OFF

ブリリアンス 【BRILLIANCE】

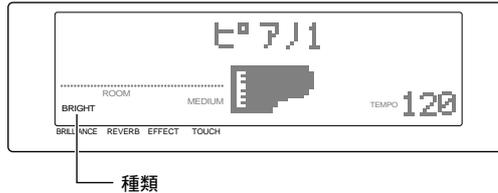
音質(音の明るさ)を3段階に切り換えます。

- MELLOW** : 柔らかくまろやかな音になります。
NORMAL : 標準的な音質です。(= 基本設定)
BRIGHT : 明るく鋭い音になります。

操作

【BRILLIANCE】を押すごとに種類が切り換わります。

- ⇒ 画面に選ばれている種類の名前が表示されます。



リバーブ 【REVERB】

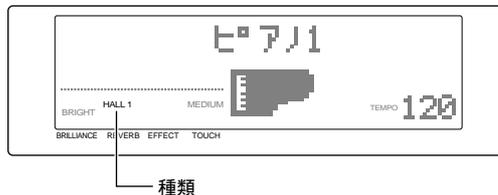
音に残響を付けます。種類により、その場所で演奏しているような臨場感を味わえます。その深さ(かかり具合)を変えることもできます。

- OFF** : リバーブはかかりません。
ROOM : 部屋の中にあるような響きになります。(= 基本設定)
HALL 1 : 小さいコンサートホールにあるような響きになります。
HALL 2 : 大きいコンサートホールにあるような響きになります。
STAGE : ステージにあるような響きになります。

操作

【REVERB】を押すごとに種類が切り換わります。

- ⇒ 画面に選ばれている種類の名前が表示されます。OFFの場合は何も表示されません。



深さ(かかり具合)を変える

【REVERB】を押している間は画面に「Reverb Depth ## (リバーブの深さの値)が表示されます。
【REVERB】を押したまま【- / NO (- / -)】または【+ / YES (+ / ｲﾝ)】を押すと、深さの値(0 ~ 20、基本設定 = 10)が変わります。



エフェクト 【EFFECT】

音を揺らしたり、音に広がり感を付けます。種類により、いろいろな効果を演出できます。その深さ(かかり具合)を変えることもできます。

- OFF** : エフェクトはかかりません。
CHORUS : 広がり感を付けます。
SYMPHONIC : 奥行き感を付けます。
TREMOLO : 音量を揺らします。
ECHO : 「こだま」のような反響を付けます。

【ORGAN COMBINATION】の音色にはブリリアンスの切り換えは無効です。ただし、「ファンクションF6」(P76)で音質をいろいろにエディットすることができます。

リバーブの種類は【REVERB】を押して離れたときに切り換わります。【REVERB】を押したまま深さを変更したときは、【REVERB】を離しても種類は切り換わりません。

デプス
Depth = 「深さ」

深さ0 : 効果なし
深さ20 : 深さ最大

リバーブの種類と深さは全音色に共通の設定となります。

エフェクトの種類は音色ごと、エフェクトの深さ(かかり具合)は音色ごと、及びエフェクトの種類ごとに独立して設定できます。

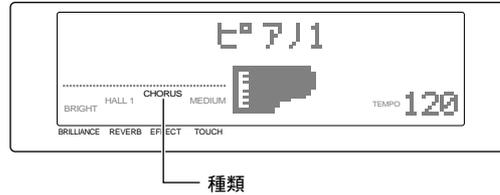
基本設定...

音色ごとに標準の種類が設定されています。

操作

【EFFECT】^{エフェクト}を押すごとに種類が切り換わります。

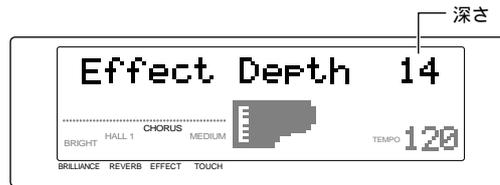
- ⇒ 画面に選ばれている種類の名前が表示されます。OFFの場合は何も表示されません。



深さ(かかり具合)を変える

【EFFECT】^{エフェクト}を押している間は画面に「Effect Depth ##」^{エフェクトデプス}(エフェクトの深さの値)が表示されます。(OFFのときは表示されません。)

【EFFECT】^{エフェクト}を押したまま【- / NO (- / -)】または【+ / YES (+ / ｲﾝ)】を押すと、深さの値(0~20)が変わります。



エフェクトの種類は【EFFECT】^{エフェクト}を押して離れたときに切り換わります。【EFFECT】^{エフェクト}を押したまま深さを変更したときは【EFFECT】^{エフェクト}を離しても種類は切り換わりません。

デプス
Depth = 「深さ」

深さ0 : 効果なし -
深さ20 : 深さ最大

基本設定...

音色ごと、及びエフェクトの種類ごとに標準の深さが設定されています。

タッチ

【TOUCH】

弾く強さに対する音の強弱の付きかた(タッチ感)を4種類から選びます。使う音色や演奏する曲、好みによって使い分けてください。

HARD : 強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。ピアノシモからフォルティッシモまで表現豊かな演奏ができます。

MEDIUM : 標準的なタッチです。(= 基本設定)

SOFT : 軽いタッチで大きい音を出すことができます。比較的音のつづがそりやすいタッチです。

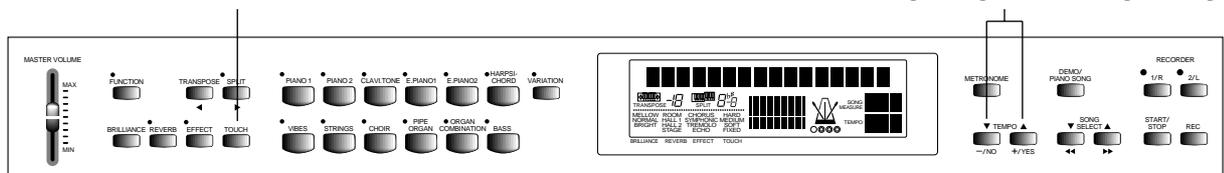
FIXED : タッチによる音の強弱は付かず、一定の音量が出ます。その場合の音量を任意に設定することもできます。

鍵盤の重さ自体は変わりません。

HARD = 「努力を要する、骨の折れる」
MEDIUM = 「中間の、中位の」
SOFT = 「やさしい、楽な」
FIXED = 「固定された」

タッチの種類は全音色に共通の設定となります。

タッチ 【TOUCH】



操作

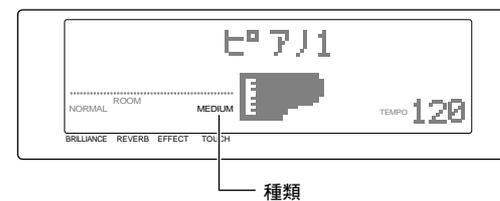
【TOUCH】^{タッチ}を押すごとに種類が切り換わります。

- ⇒ 画面に選ばれている種類の名前が表示されます。

FIXEDの場合の音量を変える

【TOUCH】^{タッチ}を押している間は画面に「Velocity ##」^{ベロシティ}(音量を示す値)が表示されます。

【TOUCH】^{タッチ}を押したまま【- / NO (- / -)】または【+ / YES (+ / ｲﾝ)】を押すと、音量を示す値(1~127、基本設定 = 64)が変わります。



ベロシティ
Velocity = 「速度 (CLP-911/711) では鍵盤が打鍵によって押し下げられる速度から打鍵の強さを測り、音量を導き出します。」

ベロシティ
Velocity 1 : 最小音量 -
Velocity 127 : 最大音量

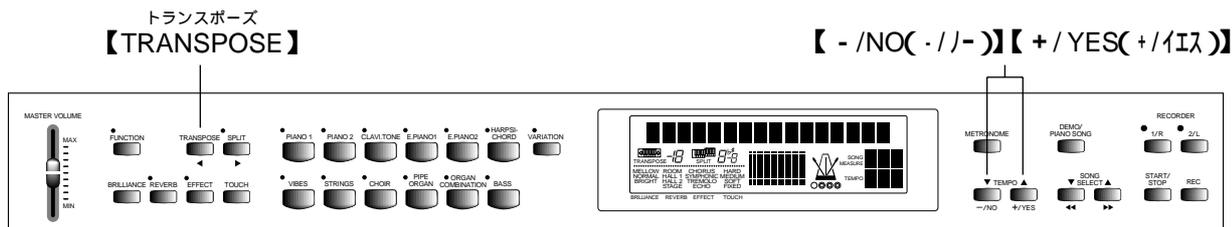
FIXEDの場合の音量も全音色に共通の設定となります。

タッチの種類は【TOUCH】^{タッチ}を押して離れたときに切り換わります。【TOUCH】^{タッチ}を押したままFIXEDの場合の音量を変更したときは【TOUCH】^{タッチ}を離しても種類は切り換わりません(FIXEDのままとなります)。

【TRANSPOSE】

弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー(調)を合わせたり、演奏する曲を移調したりします。半音単位でトランスポーズ量を設定できます。たとえばトランスポーズ量を「5」に設定すると、「ド」を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「八長調」の弾きかたで「へ長調」の演奏になります。

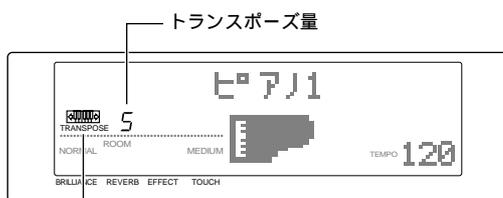
トランスポーズ
TRANSPOSE:移調する
移調:曲全体の音程を上げたり下げたりしてキー(調)を変えること。



操作

トランスポーズ

【TRANSPOSE】を押したまま【-/NO (-/-/-)】または【+/YES(+/+/+)】を押すと、トランスポーズ量の半音単位の値 -12 ~ 0 ~ 12、基本設定 = 0 が変わります。



トランスポーズ量が0以外に設定されているときは、操作後も引き続き、画面にトランスポーズのマークとその値が表示され続けます。

トランスポーズ量...

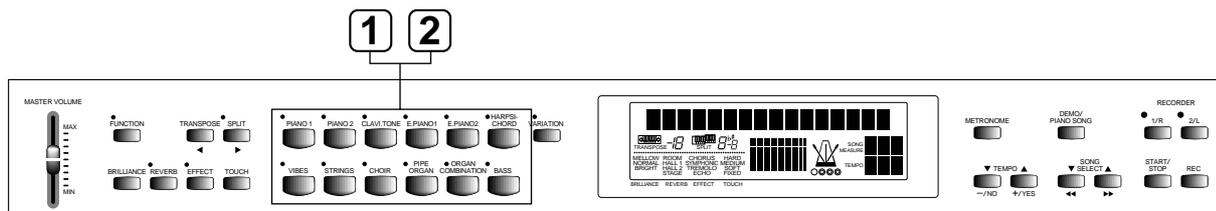
- 12 : -12半音(-1オクターブ)
- 0 : 標準音程
- 12 : 12半音(+1オクターブ)

トランスポーズをかけた場合の発音域について...

トランスポーズによって、元の88鍵の最高音(C7)より高くなる音は1オクターブ下の音で、元の88鍵の最低音(A-1)より低くなる音は1オクターブ上の音で発音します。

「デュアル」で弾く(2つの音色を混ぜて弾く)

2種類の音色を混ぜて使います。2つの音色でメロディをデュエットさせたり、同系統の音色を混ぜて厚みのある音を作り出したりできます。



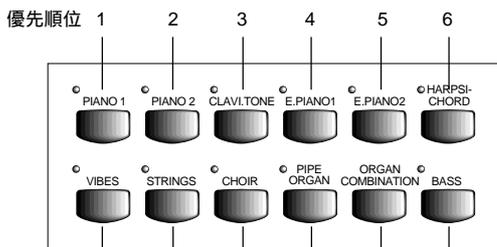
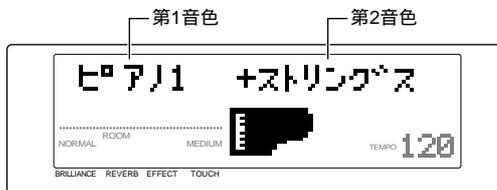
操作

1 デュアルモードに入る

2つの音色ボタンを同時に押しします。(=1つの音色ボタンを押したままもう1つの音色ボタンを押しします。)

⇒ 2つの音色ボタンのランプが点灯します。

右記の優先順位で2つの音色のうち番号の若い方の音色が第1音色になります。



デュアルとスプリット...

デュアルとスプリット(P58)を同時に使うことはできません。

デュアルのときの【VARIATION】...

両方または片方の音色の【VARIATION】がONになっているときにランプが点灯します。両音色ともOFFの場合には消灯します。その後【VARIATION】を押すごとに両音色ともON、両音色ともOFFを切り替えることができます。(片方だけONにしたい場合は、デュアルモードに入る前に音色ごとに【VARIATION】のON/OFFを設定しておく必要があります。)

デュアルでのいろいろな設定が「ファンクションF4 (P75)」でできます。(特に設定しなくても基本の設定が音色ごとに自動的に選ばれます。)
 「ファンクションF4」の中で、片方の音色に【STRINGS】を選んだときのストリングスのアタック(音の立ち上がり)の速さを遅くすることができます。

2 デュアルモードを抜ける

新たに1つの音色ボタンを押すとデュアルモードを抜けます。

デュアルのときの【EFFECT】..

基本の設定(種類と深さ)が音色の組み合わせごとに自動的に選ばれます。しかし、1つまたは両音色のエフェクトが任意に設定されていた場合は、下記のルールに従います。

[種類]

- ・2つの音色のエフェクトの種類が同じ場合: そのままの状態でもエフェクトがかかります。
- ・1つの音色のエフェクトがOFFで、もう1つの音色にエフェクトが設定されている場合: そのままの状態でもエフェクトがかかります。(1つの音色はOFF、もう1つの音色にエフェクトがかかります。)
- ・2つの音色のエフェクトの種類が異なる場合: 第1音色のエフェクトだけが有効になり、第2音色にはエフェクトは一時的にかからなくなります。
- ・デュアルモードに入ったあとで【EFFECT】の種類を切り換えた場合は、両音色にそのエフェクトがかかります。

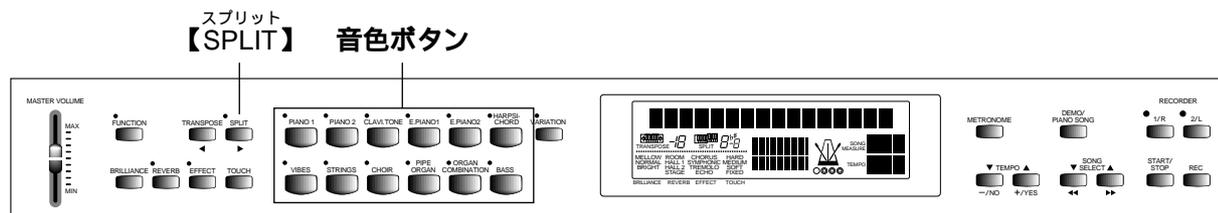
[深さ]

デュアルモードでのエフェクトの深さは「ファンクションF4 (P75)」で任意に設定することもできます。

付属のピアノソフト紹介ディスク、別売のピアノソフト「ピアノ・ア・ラ・モード」ディスクオーケストラ・コレクション(DOC)のディスクがディスクドライブに差し込まれていた場合、「DOCマイレパートリー」の曲が選ばれていた場合は...
 デュアルモード、スプリットモード(下記)に入ることはできません。
 (上記ディスクソフトや演奏データについては、「いろいろな種類の演奏データの再生について」(P63)「本体だけで再生できる別売ディスクソフトのご紹介」(P98)「音源モジュール(MU50など)とつないでDOCを楽しむ」(P96)をご参照ください。)

「スプリット」で弾く(鍵域を左右に分けて別々の2つの音色で弾く)

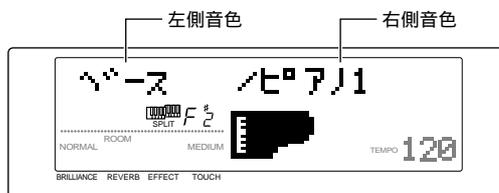
88個の鍵盤を左右の領域に分け、別々の音色で演奏します。



操作

1 スプリットモードに入る

スプリット【SPLIT】を押します。
 ⇨ ランプが点灯します。
 ⇨ この時点で、左側音色に基本設定の音色(CLP-911はベース BASS, CLP-711はストリングス STRINGS)が選ばれます。

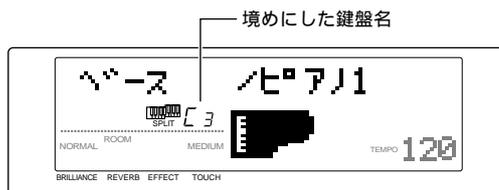


スプリットでのいろいろな設定が「ファンクションF5 (P75)」でできます。(特に設定しなくても基本の設定が音色ごとに自動的に選ばれます。)

2 スプリットポイント(2音色の境め)を決める

スプリット【SPLIT】を押したまま、境めにした鍵盤を押します。

スプリットポイントの基本設定は「F#2」です。変える必要がない場合はこの操作は必要ありません。



スプリットとデュアル...

スプリットとデュアル(P57)を同時に使うことはできません。

スプリットポイントの鍵盤は左側に含まれます。

スプリットのときの

【VARIATION】..

音色ごとに【VARIATION】のON/OFFが設定できます。

通常の状態では、パネルの音色ボタンは右側の音色の状態を示します。(右側の音色に選ばれている音色ボタンのランプが点灯し、【VARIATION】がONのとき、そのランプが点灯します。)

【SPLIT】を押している間は、パネルの音色ボタンは左側の音色の状態を示します。(左側の音色に選ばれている音色ボタンのランプが点灯し、【VARIATION】がONのとき、そのランプが点灯します。)

スプリットポイントは「ファンクションF5 (P75)」でも設定できます。

3 右側の音色を決める
演奏したい音色ボタンを押します。

4 左側の音色を決める
【**SPLIT**】を押したまま、演奏したい音色ボタンを押します。(【**SPLIT**】を押している間左側の音色ボタンのランプが点灯します。)

5 スプリットモードを抜ける
【**SPLIT**】を押します。
⇒ ランプが消灯します。

スプリットのときの【**EFFECT**】...
基本の設定(種類と深さ)が音色の組み合わせごとに自動的に選ばれます。しかし、1つまたは両音色のエフェクトが任意に設定されていた場合は、下記のルールに従います。

[種類]

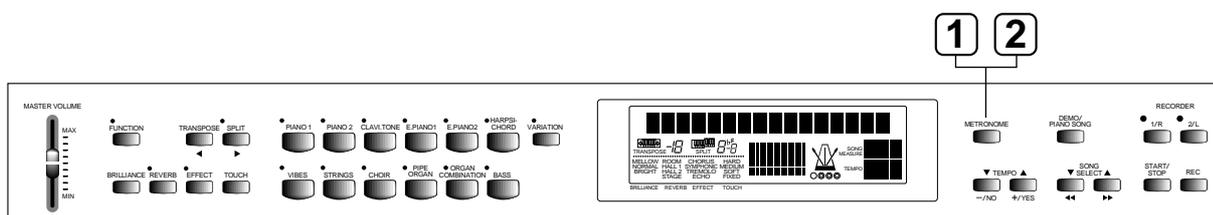
- ・ 2つの音色のエフェクトの種類が同じ場合: そのままの状態ではエフェクトがかかります。
- ・ 1つの音色のエフェクトがOFFで、もう1つの音色にエフェクトが設定されている場合: そのままの状態ではエフェクトがかかります。(1つの音色はOFF、もう1つの音色にエフェクトがかかります。)
- ・ 2つの音色のエフェクトの種類が異なる場合: 右側の音色のエフェクトだけが有効になり、左側の音色にはエフェクトは一時的にかからなくなります。
- ・ スプリットモードに入ったあとで【**EFFECT**】の種類を切り換えた場合は、両音色にそのエフェクトがかかります。

[深さ]

スプリットモードでのエフェクトの深さは「ファンクションF5 (P76)」で任意に設定することもできます。

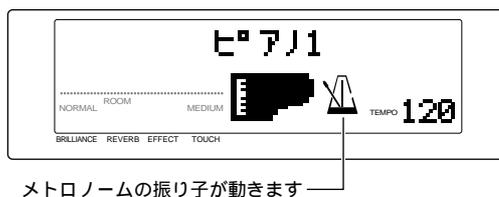
【METRONOME(メトロノーム)】を使う

CLP-911/711は、メトロノーム(ピアノの練習でよく使われる、正確なテンポを刻む道具)を備えています。お使いください。



操作

1 メトロノームを鳴らす
【**METRONOME(メトロノーム)**】を押します。
⇒ メトロノームが鳴り出します。



テンポの調節

【**TEMPO(テンポ)**】を押すとテンポの値 32 ~ 280、基本設定 = 120 が変わります。

メトロノーム音量の調節

【**METRONOME(メトロノーム)**】を押している間は画面に

「Metronome Vol. ## (メトロノーム音量の値)が表示されます。

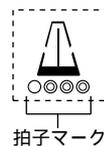
【**METRONOME(メトロノーム)**】を押したまま【**- / NO (- / 1)**】または【**+ / YES (+ / 1)**】を押すと、値 1 ~ 20、基本設定 = 10 が変わります。



2 メトロノームを止める

【**METRONOME(メトロノーム)**】を押します。
⇒ メトロノームが止まります。

メトロノームの音量は...
「ファンクションF7 (P78)」でも設定できます。また、「ファンクションF7」で拍子も設定できます。拍子を設定したときは、画面のメトロノームマークの下の拍子マークが点滅します。



ディスクソフトと録音データの再生

CLP-911/711は、付属の「ピアノソフト紹介ディスク」や別売の「ピアノソフト」ディスク、ご自身でCLP-911/711の録音機能(P65～)を使って録音した演奏データを再生することができます。付属の「ピアノソフト紹介ディスク」は、ヤマハの「ピアノソフト」(ピアノ演奏のデータの入った別売のディスクソフト)からいくつかの曲を抜粋、編集して作られた試聴版です。再生の手順と便利な機能を説明します。

【ノート】 フロッピーディスクの取り扱いについて...

CLP-911/711で再生できるディスクは、「フロッピーディスク」という種類のディスクです。フロッピーディスクの使用にあたっては注意事項がいくつかあります。「フロッピーディスクの取り扱い」(P6)をお読みいただいてから、先に進んでください。

【ノート】 ディスク再生モード中(未フォーマットや異なるフォーマット以外のディスクが入っていてクラビノーバで認識されているとき)は、手弾き音のデータ及びパネル情報はMIDI送信されません。(ただしローカルコントロールOFF(P81)のときはMIDI送信されます。)

なお、デモ曲/ピアノ曲モード、ファンクションモードのときは、ディスクの出し入れがCLP-911/711で認識されません。

操作中、画面に各種のメッセージ(情報や確認など)が表示されることがあります。P90に「メッセージ一覧」としてまとめてありますので参考にしてください。

「ピアノソフト」の中で一部クラビノーバではご利用いただけないタイトルがあります。

再生できる市販のディスクソフト...

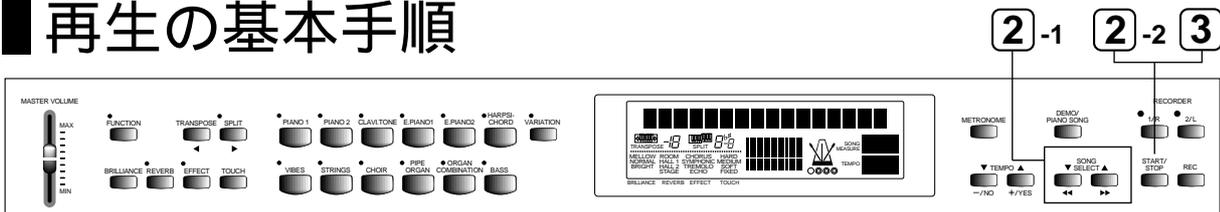
「付録」の本体だけで再生できる別売ディスクソフトのご紹介(P98)をご覧ください。

再生できる演奏データの種類...

「いろいろな種類の演奏データの再生について」(P63)をご覧ください。

曲の再生データは、MIDI送信されません。

再生の基本手順



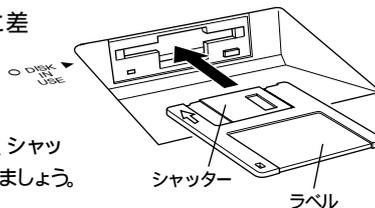
操作

1 ディスクを入れる(ディスク再生モードに入る)

再生したいデータの入ったディスクを、ディスクドライブに差し込みます。

⇒ ディスク再生モードになります。

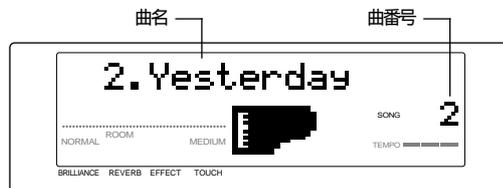
【ノート】 ラベルが貼ってある(ラベルを貼る)面を上向き、シャッター側を奥にして、カチッと音がするまで正しい向きに差し込みましょう。



2 選曲と再生スタート

2-1 **SONG SELECT(選曲)** を押して、再生する曲番号を選びます。

⇒ 選ばれた曲番号と曲名が画面に表示されます。



1、2、3、～60: 聞く曲番号を指定しま

す。選んだ曲だけ再生します。

曲を選ぶと画面に曲名が表示され、データが入っているトラック【1/R(1トラック/R)】【2/L(2トラック/L)】の片方または両方のランプが点灯します。

「ピアノソフト紹介ディスク」や「ピアノソフト」のディスクはデータのある曲番号だけ表示されますが、CLP-911/711で録音したディスクは、データの有無にかかわらず1～60まで表示されます。(画面に「No Song」と表示される曲番号にはデータがありません。)

ALL: データのある曲を順番に全曲連続再生します。

RND: データのある曲を順不同に全曲連続再生します。

デモ曲/ピアノ曲モード、ファンクションモードのときは...

ディスクを入れても(あるいはディスクが入っていても)ディスク再生モードにはなりません。ただし、ファンクションモードのときは【1/R(1トラック/R)】【2/L(2トラック/L)】を押すと、ディスク再生モードになります。

ソング SONGとは...

付属の「ピアノソフト紹介ディスク」や「ピアノソフト」の演奏データ、ご自身でCLP-911/711の録音機能(P65～)を使って録音した演奏データのことを、クラビノーバでは「SONG」と呼びます。

1枚のディスクに入っている曲数は...

CLP-911/711で録音したディスクの場合、1枚のディスクに最大で60曲まで入っています。

- 2**-2 **【START/STOP (スタート/ストップ)】**を押すと再生がスタートします。
 ⇨ 画面にはスタート後、曲番号に代わって、再生中の小節番号が表示されます。



音量の調節

マスターボリューム【MASTER VOLUME】で音量を調節します。

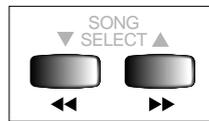
テンポの調節

曲ごとに固有のテンポが設定されていますが、選曲後、再生スタート前または再生中に、**TEMPO (テンポ) 【】 【】**を押してテンポを変更できます。**【】 【】**を同時に押すと元のテンポに戻ります。



テンポの値(フリーテンポの曲は「- - -」)が表示される

再生中に**【< (巻戻し)】**を押すと、再生位置が前に戻ります。(再生音は鳴りません。)



再生中に**【> (早送り)】**を押すと、再生位置が先に進みます。

3 再生ストップ

曲が終わると、自動的に再生が終了します。再生途中に(または連続再生中に)ストップする場合は、**【START/STOP (スタート/ストップ)】**を押します。

続いて他の曲を再生する場合は、操作2に戻ります。

4 (ディスクを使い終わったら)ディスクを抜く

イジェクトボタンを押してディスクを抜きます。

データのない曲番号では**【START/STOP (スタート/ストップ)】**を押しても再生はスタートしません。

フリーテンポの曲では、小節番号は実際の曲の小節番号とは一致せず、単に曲の進行を示す目安となります。

メトロノーム...

再生と一しょにメトロノームを使うこともできます(フリーテンポの曲以外)。この場合、再生ストップするとメトロノームも自動的に止まります。

フリーテンポの曲とは...

一定のテンポが設定されていない曲です。「- - -」と表示されます。

テンポのリセット(再設定)...

新しい曲を選ぶと(または、連続再生で新しい曲がスタートすると)テンポは自動的にその曲の固有のテンポにリセットされます。

【< (巻戻し)】と【> (早送り)】

再生中はSONG SELECT (選曲) **【】 【】**は【< (巻戻し)】 **【> (早送り)】**として機能します。

再生に関する便利な機能

トラックの再生ON/OFF

曲を選ぶと、その曲のデータが入っているトラック**【1/R (1トラック/R)】****【2/L (2トラック/L)】**の片方または両方のランプが緑に点灯します。(どちらも点灯しない場合は再生しても何も鳴りません。)ランプが点灯しているトラックのボタンを押すと、ランプが消灯し、そのトラックのデータが再生されなくなります。ボタンを押すごとに再生のON/OFFが切り替わります。

再生をOFFにしたトラックのパートを自分で弾く

「ピアノソフト」の中には、CLP-911/711に入っているピアノ模範演奏30曲のように、右手パートと左手パートが別々のトラックに入っているものもあり、練習したいパートのトラックの再生をOFFにして、(もう一つのパートを再生しながら)自分で弾くことができます。

また、「CLP-911/711の録音機能 P65 ~」を使って、連弾や2台のピアノのための曲の片パートを録音し、それを再生しながら自分でもう一つのパートを弾く」という方法で、1人でアンサンブルを楽しむこともできます。

トラックの再生ON/OFFの切り替えは...

再生前でも再生中でもできます。

再生をOFFにしたパートの音量は...

ディスクソフトや、ご自身でCLP-911/711の録音機能 P65 ~ を使って録音した演奏データの再生の場合は、再生をOFFにしたトラックの音量は0に固定です。

【ノート】 自分で弾く音色(=手弾き音色=パネル音色)について...

付属の「ピアノソフト紹介ディスク」、別売の「ピアノソフト『ピアノ・ア・ラ・モード』ディスクオーケストラコレクション(DOC)」の曲を再生する場合は、選曲した時点で、手弾き音色(=パネル音色)は自動的に再生される音色と同じ音色に切り換わりします。その後任意に変えることもできます。(変えた場合も、手弾き音色と再生音色が同時に変わります。)

CLP-911/711の録音機能を使って録音した曲を再生する場合は、再生音色と手弾き音色は連動しません。再生音色は録音された音色で鳴り、手弾き音色は選ばれているパネル音色で鳴ります。

(上記ディスクソフトや演奏データについては、「いろいろな種類の演奏データの再生について」(P63)、「本体だけで再生できる別売ディスクソフトのご紹介」(P98)、「音源モジュール(MU50など)とつないでDOCを楽しむ」(P96)をご参照ください。)

弾くと同時に再生をスタートする(シンクロスタート)

鍵盤を弾くと同時に再生をスタート(シンクロスタート)することができます。

再生^{オン}のトラックのボタンを押したまま【START/STOP(スタート/ストップ)】を押すとシンクロスタート待機状態になります。

- 画面中央にシンクロスタートのマークが表れ、画面のメトロノームの下の拍子マークの1拍目が現在のテンポのタイミングで点滅します。



このあと鍵盤を弾くと、同時に再生もスタートします。
再生しながら自分も弾くときに便利です。

左のペダルでスタート/ストップする

左のペダルでスタート/ストップすることができます。

「ファンクションF9」(P79)で左のペダルの機能をスタート/ストップ(パネルの【START/STOP(スタート/ストップ)】と同じ機能)に切り替えます。

自分が先に弾き出して、途中から再生パートをスタートさせたいときに便利です。

曲の一部(フレーズ)だけの繰り返し再生/練習

曲中のフレーズを指定して繰り返し再生することができます。前記の「再生を^{オフ}にしたトラックのパートを自分で弾く」といっしょに使うと練習に便利です。

1 フレーズの始まり(A点)と終わり(B点)の指定と、繰り返し再生スタート

選曲し、再生をスタートします。聞きながら、始まり(A点)にしたいところで^{ファンクション}【FUNCTION】を押します。

- 始まり(A点)が設定され、画面に「A-」と表示されます。



次に、終わり(B点)にしたいところでもう1度^{ファンクション}【FUNCTION】を押します。

- 終わり(B点)が設定され、画面に「A-B」と表示されます。
同時に、A点に戻って繰り返し再生が自動的にスタートします。



2 再生ストップ

A点、B点の設定を保持したまま一時再生をストップするときは【START/STOP(スタート/ストップ)】を押します。(この場合、再度【START/STOP(スタート/ストップ)】を押すと、再びA点～B点の繰り返し再生がスタートします。)

A点、B点の設定を解除してストップするときは繰り返し再生中に^{ファンクション}【FUNCTION】を押します。それから【START/STOP(スタート/ストップ)】を押します。

再生^{オフ}のトラックのボタンを押したまま【START/STOP(スタート/ストップ)】を押すと...
そのトラックの再生が^{オン}になると共に、シンクロスタート待機状態になります。

フリーテンポ(一定のテンポが設定されていない)曲では...
拍子マークの1拍目の点滅はありません。

シンクロ = 同時の、同時に起こる

ピアノ30曲の場合とは異なり、停止中に^{ファンクション}【FUNCTION】を押して曲の先頭を始まり(A点)に設定することはできません。停止中に^{ファンクション}【FUNCTION】を押すと、ファンクションモードに移行してしまいます。

新しい曲を選ぶと...
A点、B点は自動的に解除されます。

■ いろいろな種類の演奏データの再生について

CLP-911/711は、付属の「ピアノソフト紹介ディスク」や別売の「ピアノソフト」ディスク、ご自身でCLP-911/711の録音機能（P65～）を使って録音した演奏データのほかにも、各種の演奏データを再生することができます。

ただし演奏データの種類によって制約や、気をつけなければいけない点があります。それを見分けるための基準をまず紹介します。（「付録」の「データの互換性について」（P97）先ご参照ください。）

- ・ 「付録」に「本体だけで再生できる別売ディスクソフトのご紹介」（P98）を掲載しています。
- ・ CLP-911/711のディスクドライブで再生できるのは、MIDIデータとして記録されたものだけです。（オーディオ録音のものは再生できません。）

CLP-911/711で再生できる演奏データの各種フォーマット

CLP-911/711は下記の基準に該当する演奏データを再生することができます。

ディスクのフォーマット

MS-DOS 720KB（キロバイト）フォーマットの2DDディスク
MS-DOS 1.44MB（メガバイト）フォーマットの2HDディスク

ディスクのフォーマットとは...
データが書き込まれている書式の種類です。

シーケンスフォーマット

SMF（スタンダードMIDIファイル）フォーマット0
ESEQ（イーシーク）

- ・ CLP-911/711で録音される演奏データはSMF（スタンダードMIDIファイル）フォーマット0になります。

シーケンスフォーマットとは...
演奏データの記録方式の種類です。

音色配列フォーマット

XG音色配列
GMシステムレベル1音色配列
DOC音色配列

音色配列フォーマットとは...
音色を指定する番号のつけ方の種類です。

- ・ ただし、CLP-911/711が持っている音色はその一部ですので、持っていない音色が使われている演奏データは、正しく再生されません。
- ・ 他の音色配列で制作された演奏データは、正しく再生されません。
- ・ CLP-911/711で録音される演奏データはXG音色配列になります。

使用トラック数

CLP-911/711では2トラック分のデータだけ再生されます。3トラック以上使っている演奏データを再生する場合もCLP-911/711では2トラック分（通常は1トラックと2トラック）だけ再生します。（演奏データの種類によって、「ファンクションF14」で再生トラックを任意に選ぶことができるものもあります。）それ以外のトラックのデータはMIDI送信されますので、外部音源モジュール（再生する演奏データの音色配列に対応しているものをMIDI接続すると全トラックの再生ができます（「音源モジュール」MU50など）とつないでDOCを楽しむ」（P96）参照）

- ・ 本体で再生するトラックのデータはMIDI送信されません。（「ファンクションF14」で再生トラックをOFFにすると、すべてのトラックのデータがMIDI送信されます。）

市販のディスクソフト、ほかの機器で録音した演奏データの再生可否の例

- ・ ここでご紹介するソフトや演奏データについて、CLP-911/711で再生できる場合でも、音量バランスやエフェクトのかけかたなど、ソフトや演奏データの設定どおりの効果が得られない場合があります。

【ピアノソフト】（発売元：（株）ヤマハミュージックメディア）

ディスクのフォーマット： MS-DOS 720KBフォーマットの2DD
ディスク
シーケンスフォーマット： ESEQ
音色配列フォーマット： 持たない（音色ナンバーデータを持たない）
使用トラック数： 1または2

- ・ 問題なく再生できます。（一部、クラビノーバではご利用いただけないタイトルもあります。）
- ・ ピアノプレーヤーで録音した演奏データも、問題なく再生できます。

【ピアノ・ア・ラ・モード】（発売元：（株）ヤマハミュージックメディア）

ディスクのフォーマット： MS-DOS 720KBフォーマットの2DD
ディスク
シーケンスフォーマット： ESEQ
音色配列フォーマット： 持たない（音色ナンバーデータを持たない）
使用トラック数： 2

- ・ 問題なく再生できます。（デュエットピアノのデータ（PPファイル）だけが再生されます。多音色のファイル（DOCファイル）は再生されません。）
- ・ 上記はPPファイルのフォーマットです。

【XGソングデータライブラリー】（発売元：ヤマハ株式会社）

ディスクのフォーマット： MS-DOS 720KBフォーマットの2DD
ディスク
シーケンスフォーマット： SMF（スタンダードMIDIファイル）フォーマット0
音色配列フォーマット： XG音色配列
使用トラック数： ソフトにより異なる

- ・ シリーズ中の、「クラシックコレクション」ピアノ名曲アルバム”などのピアノ音色だけ使用しているソフトは問題なく再生できます。

CLP-911/711にない音色が使われているソフトや3トラック以上使っているソフトは、本体だけでは正しく再生されませんが、XG音色配列に対応している外部音源モジュール（YAMAHA MU50など）をMIDI接続すると正しい音色で全トラックのデータを再生できます（「音源モジュール（MU50など）とつないでDOCを楽しむ」（P96）参照）。

【ディスクオーケストラ・コレクション(DOC)】

（発売元：(株)ヤマハミュージックメディア）

ディスクのフォーマット：エムエスドス MS-DOS キロバイト 720KBフォーマットの2DD
ディスク
シーケンスフォーマット：イーシーエフ ESEQ
音色配列フォーマット：DOC音色配列
使用トラック数：3トラック以上

- ・手弾きのメインパート（1トラックと2トラック）だけ本体で再生することができます。DOC音色配列に対応している外部音源モジュール（YAMAHA MU50など）をMIDI接続すると、全トラックのデータを再生できます。この場合でもメインパート（1トラックと2トラック）は本体の音で再生されます（「音源モジュール（MU50など）とつないでDOCを楽しむ」（P96）参照）。

【ピアノプレーヤ・アンサンブルソフト】

【ピアノソフトプラス】（発売元：(株)ヤマハミュージックメディア）

ディスクのフォーマット：エムエスドス MS-DOS キロバイト 720KBフォーマットの2DD
ディスク
シーケンスフォーマット：イーシーエフ ESEQ
音色配列フォーマット：GMシステムレベル1音色配列
またはXG音色配列
使用トラック数：3トラック以上

- ・ピアノパート（1トラックと2トラック）だけ本体で再生することができます。GMシステムレベル1またはXGに対応している外部音源モジュール（YAMAHA MU50など）をMIDI接続すると、全トラックのデータを再生できます（「音源モジュール（MU50など）とつないでDOCを楽しむ」（P96）参照）。

「CLP-911/711以外のクラビノーバで録音した演奏データ」

ディスクのフォーマット：エムエスドス MS-DOS キロバイト 720KBフォーマットの2DD
ディスク、またはエムエスドス MS-DOS メガバイト 1.44MB
フォーマットの2HDディスク
シーケンスフォーマット：イーシーエフ ESEQまたはエスエムエフ SMF（スタンダードMIDIファイル）フォーマット0
音色配列フォーマット：DOC音色配列、GMシステムレベル1音色配列または独自の音色配列
使用トラック数：演奏データにより異なる

- ・「音色配列フォーマット」「使用トラック数」が機種により異なりますので、P63「CLP-911/711で再生できる演奏データの各種フォーマット」の基準にあてはめてお考えください。音色配列フォーマットは、機種により「DOC」「GM」あるいは独自の配列になっています。「DOC」「GM」の場合、CLP-911/711にない音色が使われている演奏データや3トラック以上使っている演奏データは、本体だけでは正しく再生されませんが、「DOC」「GM」

に対応している外部音源モジュール（YAMAHA MU50など）をMIDI接続すると正しい音色で全トラックのデータを再生できます（「音源モジュール（MU50など）とつないでDOCを楽しむ」（P96）参照）。

独自の配列の場合は、演奏データの音色ナンバーをCLP-911/711の音色ナンバー（P101参照）に変換する必要があります。CLP-911/711にない音色が使われている演奏データや3トラック以上使っている演奏データは、正しく再生されません。（音色ナンバーを「DOC」または「GM」に変換した上で、「DOC」または「GM」に対応している外部音源モジュール（YAMAHA MU50など）をMIDI接続して再生することは可能です。）

「GMソフト(SMFフォーマット)」（市販ディスクソフト）--- YAMAHA COMPUTER MUSIC COLLECTION

（発売元：(株)ヤマハミュージックメディア）など

ディスクのフォーマット：エムエスドス ソフトにより異なる（現状ではMS-DOS
キロバイト 720KBフォーマットの2DDディスクが多い）
シーケンスフォーマット：エスエムエフ SMF（スタンダードMIDIファイル）フォーマット0が多い）
音色配列フォーマット：GMシステムレベル1音色配列
使用トラック数：ソフトにより異なる

- ・「ディスクのフォーマット」「シーケンスフォーマット」「使用トラック数」がソフトにより異なりますので、P63「CLP-911/711で再生できる演奏データの各種フォーマット」の基準にあてはめてお考えください。CLP-911/711にない音色が使われているソフトや3トラック以上使っているソフトは、本体だけでは正しく再生されませんが、GMシステムレベル1に対応している外部音源モジュール（YAMAHA MU50など）をMIDI接続すると正しい音色で全トラックのデータを再生できます（「音源モジュール（MU50など）とつないでDOCを楽しむ」（P96）参照）。

* 上記のうち、(株)ヤマハミュージックメディア発売のソフトについてのお問い合わせは、お買い上げ店または下記までご連絡ください。

(株)ヤマハミュージックメディア

〒150 東京都渋谷区桜丘町8-27 TEL: 03-3462-621x(代表)

パーソナルコンピューター用ソフトについて

パーソナルコンピューター用の音楽ソフトを、CLP-911/711の【TO HOST】またはMIDI端子とパーソナルコンピューターをつないで楽しむことができます。

この場合CLP-911/711を音源として使いますが、ソフトによってCLP-911/711にない音色が使われている場合は、正しく再生されません。

パーソナルコンピューターとの接続方法についてはP93をご参照ください。

演奏の録音(記録)

CLP-911/711の録音機能を使ってご自分の演奏を録音する方法を説明します。

付属の「録音用ディスク」をご用意ください。

CLP-911/711で録音できる様式と特長は下記のとおりです。

- ・フロッピーディスクに録音します。
- ・1枚のディスクに最大で60曲まで録音できます。
- ・2つのパートをそれぞれ1トラックと2トラックに録音できます。
- ・録音後、音色やテンポ、効果などを変更できます。
- ・録音後、再生させながら演奏することができます。

【ノート】 フロッピーディスクの取り扱いについて...

付属の「録音用ディスク」は、「フロッピーディスク」という種類のディスクです。フロッピーディスクのご使用にあたっては注意事項がいくつかありますので、「フロッピーディスクの取り扱い」(P6)をお読みいただいてから、先に進んでください。

操作中、画面に各種のメッセージ(情報や確認など)が表示されることがあります。P90に「メッセージ一覧」としてまとめてありますので参考にご覧ください。

「録音」と「記録」...

カセットテープに録音するのとフロッピーディスクに録音(記録)するのでは、録音されるデータの形式が異なります。

カセットテープでは音そのものが「録音」されますが、フロッピーディスクでは音そのものではなく、「どの音をどのタイミングで弾いた。音色はこれで、テンポはいくつで...」という情報が「記録」されます。再生の際は記録された情報どおりに、「音源」部が鳴ります。

CLP-911/711では、本来「記録」といべきですが、広義に捉えて、本書では一般的に理解しやすい「録音」という言葉を使います。ただし、特に区別してご理解いただきたい場合は、「記録」という場合もあります。

CLP-911/711で録音される演奏データは、下記のフォーマットになります。

- ・シーケンスフォーマット:
SMF(スタンダードMIDIファイル)フォーマット0
- ・音色配列フォーマット: XG音色配列
(「SMF」「XG」については「データの互換性について」(P97)をご覧ください。)

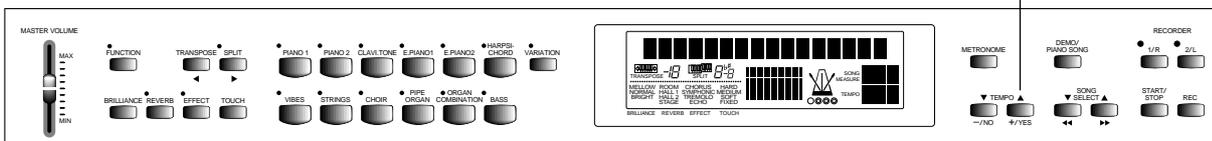
録音の準備(ディスクのフォーマット)

付属の「録音用ディスク」を初めて使うときは最初にフォーマット(初期化)をします。市販のフロッピーディスクの場合も同様です。これは、フロッピーディスクをCLP-911/711で最初に使うときだけ必要な作業です。

フォーマット(初期化)とは...

フロッピーディスクは、パーソナルコンピュータなどのいろいろな機器で、いろいろなデータの収納場所として使われます。その際、フロッピーディスクのデータの収納方式にはいくつかの種類があるため、その機器で対応している収納方式をフロッピーディスクに最初に指定する必要があります。(たとえば、白い紙に縦書きの線を入れるか横書きの線を入れるかというようなことです。これが「フォーマット(初期化)」することです。

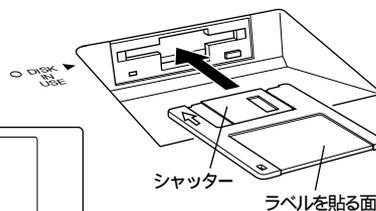
2



操作

1 ディスクを入れる

録音用ディスクをディスクドライブに差し込みます。



⇒ 3秒後



【ノート】 ラベルを貼る面を上向き、シャッター側を奥にして、カチッと音がするまで正しいに差し込んでください。

ディスクによって...

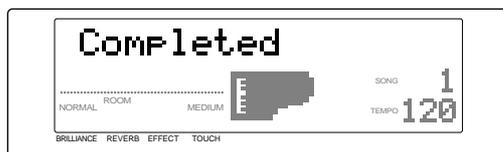
市販の(未フォーマットの)フロッピーディスクや、異なるフォーマットのフロッピーディスクの場合も同様です。フォーマット済みのフロッピーディスクを再フォーマットすることもできます。「ファンクションF14」(P82)。この場合、録音(記録)されているデータはすべて消されますのでご注意ください。

フォーマットの種類...

CLP-911/711でフォーマットすると、2DDディスクは720KB、2HDディスクは1.44MBにフォーマットされます。「2DD」「2HD」はディスクの種類を示す言葉、「720KB」「1.44MB」はデータの記憶可能容量を示す言葉ですが、フォーマットの種類を表すときに、このように言います。)

2 フォーマットを実行する

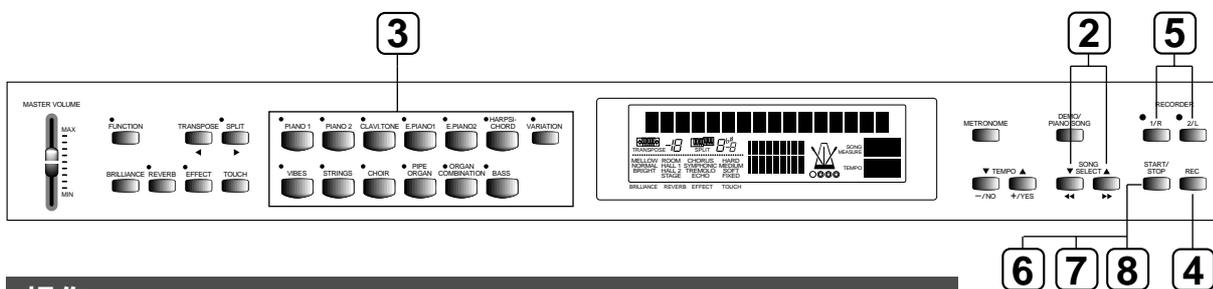
【+/YES(+/-)]を押します。
(フォーマットを中止する場合は、【-/NO(-/-)]を押します。)
⇒しばらくして下記の画面でフォーマットが完了します。



「ディスクが Protected Disk!」のメッセージが画面に表示された場合は...

- ・ライトプロテクトタブが書き込み禁止の位置になっています。書き込み可の位置にしてからフォーマットしてください (P6)。
- ・ライトプロテクトタブが書き込み可の位置になっていてもこの表示が出る場合は、市販のディスクソフトなどで、データ保護のため内部的にプロテクト(保護)がかかっているディスクです。このようなディスクはフォーマットできません。

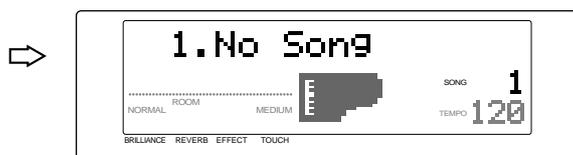
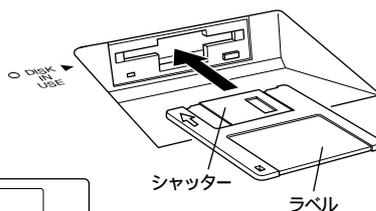
録音の手順(1つのトラックへの録音)



操作

1 フォーマット済みのディスクを入れる

フォーマット済みのディスクをディスクドライブに挿入します。



ノート ラベルを貼る面を上向き、シャッター側を奥にして、カチッと音がするまでていねいに差し込んでください。

未フォーマットのディスクや異なるフォーマットのディスクを入れた場合は...

「フォーマット」の画面が自動的に出ます。まず前記「フォーマット」の操作をしてから録音の操作に入ってください。

2 録音する曲番号を選ぶ

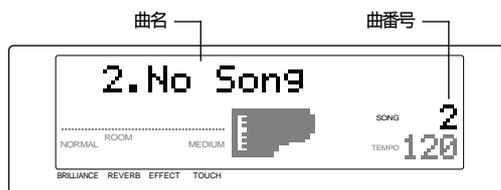
ソングセレクト
SONG SELECT(選曲)【I】で録音する曲番号を選びます(1~60)。

⇒画面に選ばれた曲番号と曲名が表示されます。

未録音の(データがない)曲を選んでください。未録音の曲の場合は、曲名に「##.No Song」(##は曲番号1~60)と表示されます。

録音済みの曲の場合は、その曲の曲名表示になります。

録音済みの曲に再録音すると、録音したトラックに入っていた録音済みの曲のデータは消えてしまいますのでご注意ください。



録音モードに入ったあと、(操作4以降)は、曲番号を選ぶことはできません。

3 録音する音色(とそのほかの設定)を選ぶ

音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。必要に応じてそのほかの設定(テンポ、リバーブなど)も選んでください。

4 録音モードに入る

レコード
【REC(録音)】を押します。

⇒ 【1/R(1トラック/R)】または【2/L(2トラック/L)】のランプが赤く点灯します。画面の曲名表示の右側に、そのディスクの記憶残容量の数値(KBの数値)が表示されます。曲名が「No Song」だった場合は、この時点で自動的に「NewSong」に変わります。



・ 録音を中止する場合は、もう一度レコード
【REC(録音)】を押します。

5 録音トラックを選ぶ

CLP-911/711では、2つのパートをそれぞれ1トラックと2トラックに録音できます。

【1/R(1トラック/R)】【2/L(2トラック/L)】で録音するトラックを選びます。

⇒ ランプが赤く点灯します。

6 録音をスタートする

演奏を始めると自動的に録音がスタートします。または、【START/STOP(スタート/ストップ)】を押すと録音がスタートします。

⇒ 画面に録音中の小節番号がリアルタイムで表示されます。



7 録音をストップする

レコード
【START/STOP(スタート/ストップ)】または【REC(録音)】を押します。

⇒ 画面に「Working」が数秒間表示されたあと、録音したトラックのランプが緑に点灯します。(録音モードは自動的に解除されます。)

8 録音した演奏を聞いてみる

【START/STOP(スタート/ストップ)】を押すと、今録音した演奏が再生されます。

もう一度【START/STOP(スタート/ストップ)】を押すと再生が止まります。

デモ曲/ピアノ曲モードのときは...

録音モードに入ることはできません。

記憶残容量とは...

そのディスクに録音できるスペースがあとどれだけ残っているかを示す値です。データの量を表す単位KB(キロバイト)で示されます。何も録音されていないディスクの場合で

・ 2DDディスク: 701KB(およそ50,000音符分)

・ 2HDディスク: 1411KB(およそ100,000音符分)

となります。

「**ディスクが保護されています(Protected Disk!)**」のメッセージが画面に表示された場合は...

・ ライトプロテクトタブが書き込み禁止の位置になっています。書き込み可の位置にしてから録音してください(P6)。
・ ライトプロテクトタブが書き込み可の位置になっていてもこの表示が出る場合は、市販のディスクソフトなどで、データ保護のため内部的にプロテクト(保護)がかかっているディスクです。このようなディスクには録音できません。

「**曲が保護されています(Protected Song!)**」のメッセージが画面に表示された場合は...

CLP-911/711では他の機器で録音された曲に再録音できません。このメッセージは、その曲が他の機器で録音されたデータであるため、CLP-911/711では再録音できないことを示しています。別の曲を選んでください。

メトロノームを使う...

【METRONOME(メトロノーム)】を使って録音することもできます。ただしメトロノームの音は、録音されません。

左のペダルを使ってスタートする...

「ファンクションF9(P79)」で左のペダルをパネルの【START/STOP(スタート/ストップ)】と同じ機能に切り替えることができます。そうすると、左のペダルで録音をスタートすることができます。

録音中にディスクの記憶残容量が少なくなってきた場合...

録音中のトラックのランプが赤く点滅します。そして0になると画面に「**ディスクがいっぱいです(Disk Full!)**」のメッセージが出て録音が自動的にストップします。(それまでの演奏データは記録されます。)

「Working」の表示中は...

録音したデータがディスクに書き込まれている作業中です。このあいだは、DISK IN USE(ディスク使用中)のランプも点灯しています。

DISK IN USE(ディスク使用中)のランプが点灯しているあいだは、絶対にディスクを取り出さないでください。

ディスクのデータがこわれるだけでなく、ディスクドライブユニットの故障の原因になります。

録音した曲の名前...

録音した曲には自動的に「SONG##(##は曲番号)」の名前が付けられます。曲名は「ファンクションF14(P84)」で任意に付け変更することができます。

トラックのデータの削除...

【START/STOP(スタート/ストップ)】で録音をスタートし、何もせず【START/STOP(スタート/ストップ)】で録音をストップすると、そのトラックのデータがすべて削除されます。

曲のコピーと削除...

「ファンクションF14(P83, 84)」で行えます。

録音し直す場合

録音した演奏がうまくいかなかった場合など、もう1度録音し直したい場合の手順を説明します。

1 必要に応じて、録音する音色(とそのほかの設定)を選び直す
先に録音したときと設定を変えたい場合に行ってください。

2 再び録音モードに入る
再び【REC(録音)】を押します。
□> 今録音したトラックが自動的に録音トラックとして選ばれ、ランプが赤く点灯します。

これ以降、前記「6」以降の手順(P67)に従って録音します。

続いて2つめのトラックへ録音する場合

続いて2つめのトラックに録音する場合の手順を説明します。

1 録音する音色(とそのほかの設定)を選ぶ
音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。必要に応じてそのほかの設定も選んでください。

2 再び録音モードに入る
再び【REC(録音)】を押します。
□> 今録音したトラックが自動的に録音トラックとして選ばれ、ランプが赤く点灯します。

3 録音トラックを選ぶ
今録音したトラックと違う方のトラックを選びます。
□> ランプが赤く点灯します。(今録音したトラックのランプは緑に点灯します。)
今録音したトラックのデータを再生させながら録音することができます。

これ以降、前記「6」以降の手順(P67)に従って録音します。

今録音したトラックのデータの再生をOFFにして録音するには...
再び録音モードに入る前に、今録音したトラックのボタンを押します。
緑のランプが消灯します。

録音(記録)されるデータの種類の種類

実際には、弾いた音や音色のほかにも録音(記録)されるデータがあります。以下にそれを示します。

[トラックごとに録音されるデータ]

- ・ ノートデータ(弾いた音)
初期値としては記録されません。
- ・ 音色
- ・ ダンパーペダルのON/OFF
- ・ ソステヌートペダルのON/OFF
初期値としては記録されません。
- ・ ソフトペダルのON/OFF
- ・ 【VARIATION】のON/OFF
- ・ 【BRILLIANCE】の種類
- ・ 【EFFECT】の深さ
- ・ デュアルの音色
- ・ 「ファンクションF4」でのデュアルの諸設定(録音途中での変更、初期値の変更(次項参照)はできません。)
- ・ スプリットの音色
- ・ 「ファンクションF5」でのスプリットの諸設定(録音途中での変更、初期値の変更(次項参照)はできません。)

初期値とは...
曲の先頭に記録されるデータです。

デュアル、スプリットでの録音の場合...
内部的には、1トラックに録音すると「1と3」のトラックに、2トラックに録音すると「2と4」のトラックに録音されます。

【曲ごと(2つのトラックで共通)に録音されるデータ】

- ・ テンポ
- ・ ^{リバーブ}【REVERB】の種類と深さ
- ・ ^{エフェクト}【EFFECT】の種類

■ 初期値の変更

録音を終えたあとでも、曲の初期値を変更することができます。変更できるデータは前記「録音(記録)されるデータの種類」のリストをご参照ください。

1 録音モードに入り、初期値を変更するトラックを選びます。

☞ ランプが赤く点灯します。(曲ごと(2つのトラックで共通)に録音されるデータはどちらのトラックを選んで変更されます。)

2 パネルを操作して初期値を変更します。

ここで鍵盤や【START/STOP(スタート/ストップ)】を押さないようご注意ください。録音が始まってしまい、そのトラックの録音済みのデータが消えてしまいます。

3 【REC(録音)】を押して録音モードを抜けます。

ここで【START/STOP(スタート/ストップ)】を押さないようご注意ください。録音が始まってしまい、そのトラックの録音済みのデータが消えてしまいます。

たとえば1トラックに録音した^{ピアノ}【PIANO1】の音色を【E. PIANO 1】に変更する場合...

操作1で1トラックを選び、
操作2で【E. PIANO 1】を押す、
操作3の【REC(録音)】を押して完了です。

初期値変更の中止...

操作2のあと、初期値を変更するトラックを変えて、何もしないで操作3で録音モードを抜けると初期値変更は中止されます(曲ごと(2つのトラックで共通)に録音されるデータの変更も中止されます)。

■ ディスクを入れずに録音してしまったら...

ディスクを入れて録音することが基本ですが、ディスクを入れていなくても録音モードに入って録音することはできます。

ただし、次のような制約があります。

- ・ CLP-911/711のメモリー(本体内部の記憶装置)に録音されますが、9KB(およそ1000音符分)しか録音できません。
- ・ 下記の条件で録音データは消えてしまいます。
 - ・ 電源を^{オフ}OFFにしたとき。
 - ・ CLP-911/711で録音したディスクを差し込んで^{ソングセレクト}SONG SELECT(選曲)【X】を押したとき
 - ・ 「ピアノソフト紹介ディスク」や「ピアノソフト」のディスク、種類により他の市販ディスクを差し込んだとき(差し込んだ時点で消えてしまいます。)

したがって、ディスクを入れずに録音してしまったデータを保存しておきたい場合は、消えてしまう前に「ファンクションF14(P83)」でディスクにコピーすることが必要です。

「メモリーがいっぱい(Memory Full)」のメッセージが画面に表示された場合は...

メモリーがいっぱいになって、これ以上録音できなくなったことを示しています。自動的に録音がストップします。(それまでの演奏データは記録されます。)

メモリーの録音データの削除...

【START/STOP(スタート/ストップ)】で録音スタートし、何もせず【START/STOP(スタート/ストップ)】で録音をストップすると、録音トラックのデータがすべて削除されます。この方法でトラックごとにデータを消します。

■ 録音した曲の再生

「ディスクソフトと録音データの再生(P60~)」の方法で再生できます。

ファンクション

CLP-911/711をお使いいただく上での各種の設定を、基本設定(工場出荷時の設定)以外のご自分の使いやすい設定に変更する機能です。

そのほかに、各種の便利な機能や応用的な機能が、ファンクションの中にまとめられています。

まず、ファンクションの各項目を概観してください。

ファンクションには大項目が17個あります(F1~F17)。

大項目の中には小項目をいくつか持つものもあります。

ファンクション一覧表

大項目	小項目	ページ
チューニング [F1.Tune](全鍵盤の音程の微調整)		73
キーチューニング [F2.KTune](鍵盤ごとの音程の微調整)		73
スケール [F3.Scale](音律(調律法)の選択)		74
デュアルファンクション [F4.DualFunc.](デュアルの諸設定)	デュアルバランス 4-1 D.Balance(2音色の音量バランスの設定) デュアルデチューン 4-2 D.Detune(2音色の音程を微妙にずらす設定) ボイス1オクターブ 4-3 Vc1.Octave(第1音色のオクターブシフトの設定) ボイス2オクターブ 4-4 Vc2.Octave(第2音色のオクターブシフトの設定) ボイス1エフェクトデプス 4-5 Vc1.EffDpt(第1音色のエフェクトの深さの設定) ボイス2エフェクトデプス 4-6 Vc2.EffDpt(第2音色のエフェクトの深さの設定) ストリングスアタック 4-7 Str.Atk(ストリングスのスローアタックの設定) リセットOK? 4-8 ResetOK?(基本設定に戻す操作)	75 75 75 75 75 75 75 75
スプリットファンクション [F5.SplitFunc.](スプリットの諸設定)	スプリットポイント 5-1 SplitPoint(スプリットポイントの設定) スプリットバランス 5-2 S.Balance(2音色の音量バランスの設定) ボイスRオクターブ 5-3 VcR.Octave(右側音色のオクターブシフトの設定) ボイスLオクターブ 5-4 VcL.Octave(左側音色のオクターブシフトの設定) ボイスRエフェクトデプス 5-5 VcR.EffDpt(右側音色のエフェクトの深さの設定) ボイスLエフェクトデプス 5-6 VcL.EffDpt(左側音色のエフェクトの深さの設定) サステインペダル 5-7 Sus.Pedal(ダンパーペダルの有効域の設定) リセットOK? 5-8 ResetOK?(基本設定に戻す操作)	75 76 76 76 76 76 76 76
オルガンエディット [F6.OrganEdit] (ORGAN COMBINATION 音色のエディット)	ジャズオルガン1 (JAZZ ORGAN1などの音色名が入ります) (オルガンの種類の選択) ボイスエディット 6-2 VoiceEdit(音色の編集) アタックモード 6-3 AtkMode(アタック音の出し方の設定) ロータリースピーカースピード 6-4 RotSP.Spд(ロータリースピーカー効果の速さの設定) ロータリースピーカーデプス 6-5 RotSP.Dpt(ロータリースピーカー効果の深さの設定) リセットOK? 6-6 ResetOK?(基本設定に戻す操作)	76, 77 77 77 77 77 77
メトロノーム [F7.Metronome] (メトロノームの諸設定)	ビート 7-1 Beat(拍子の設定) ボリューム 7-2 Volume(メトロノーム音量の設定)	78 78
ディスプレイ [F8.Display](画面表示モードの選択)		78
レフトペダル [F9.L.Pedal](左ペダル機能の設定)		79
ダンパーデプス [F10.DamperDpt] (ダンパーペダル付加音の深さの設定)		79
ダンパー [F11.Damper] (ダンパーペダル効果方式の設定)		80

tune = 音程を合わせること

Scale = 音階

Reset = 再設定

COMBINATION = 組み合わせ

エディット = 編集

アタック音 = 音の立ち上がり部分の鋭い音

ロータリースピーカー効果 = スピーカー自体を回転させることにより音を揺らす効果

大項目	小項目	ページ
キャンセル ボリューム [F12.CancelVol](ピアノ30曲のパート再生OFF時の音量設定)		80
ミディ ファンクション [F13.MIDIFunc.] (MIDI機能の諸設定)	トランスミット チャンネル 13-1 TxCh.(MIDI送信チャンネルの設定) レシーブ チャンネル 13-2 RxCh.(MIDI受信チャンネルの設定) ローカル 13-3 Local(ローカルコントロールON/OFFの設定) プログラム チェンジ 13-4 PrgChg(プログラムチェンジ送受信ON/OFFの設定) コントロール チェンジ 13-5 CtrlChg(コントロールチェンジ送受信ON/OFFの設定) ミディトランスポート 13-6 MIDITrans(MIDI送信データにトランスポートをかける設定) セットアップ センド 13-7 SetupSnd(セットアップファイルのMIDI送信)	80 80 81 81 81 81 81
ディスク ファンクション [F14.DiskFunc.] (ディスクを使う操作と設定)	フォーマット 14-1 Format(ディスクのフォーマット) ファイル コピー 14-2 FileCopy(曲ファイル、セットアップファイルのコピー) ファイル ネーム 14-3 FileName(曲ファイル、セットアップファイル名の設定) ファイル デリート 14-4 FileDel(曲ファイル、セットアップファイルの削除) トラック セレクト 14-5 TrackSel(ディスクの再生トラック選択) ピアノプレーヤ レジストレーション 14-6 PP.Reg.(録音データのピアノプレーヤ様式への登録) スタンダードMIDIファイル、イニシーク 14-7 SMF ESEQ(録音データのESEQフォーマットへの変換) セットアップ データ 14-8 SetupDat(セットアップデータの保存と再現)	82 83 84 84 85 86 86 87
マイク リバース デプス [F15.MicRevDpt] (マイクリバースの深さの設定)		88
バックアップ [F16.Backup] オン/オフ (バックアップON/OFFの設定)	ボイス 16-1 Voice(音色関連項目のバックアップ設定) ミディ 16-2 MIDI(MIDI関連項目のバックアップ設定) チューニング 16-3 Tune(音程、音律関連項目のバックアップ設定) ペダル 16-4 Pedal(ペダルに関する項目のバックアップ設定) ディスプレイ 16-5 Display(画面表示モードのバックアップ設定)	88 88 88 88 88
ランゲージ [F17.Language](画面表示言語の設定)		89

ファイルとは...

あるデータのまとまりを1つの単位として保存したものをファイルと言います。

セットアップファイルとは...

CLP-911/711のパネル設定状態一式のデータファイルです。

曲ファイルとは...

曲データを曲番号単位で曲ファイルと言います。

Reg. = Registration(登録)

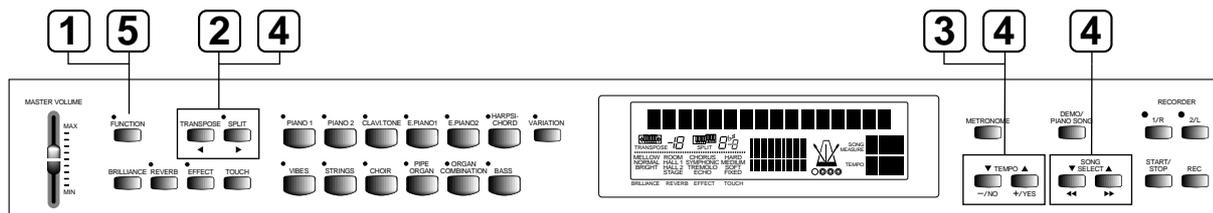
「SMF」ESEQ」...

「データの互換性について」(P97)をご参照ください。

■ ファンクションでの基本操作

ファンクションの各項目は以下の手順で操作します。

(ファンクションの各項目の説明で、操作がわからなくなった場合はここに戻ってご覧ください。)



操作

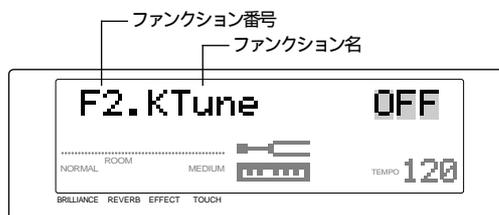
1 ファンクションモードに入る

ファンクション
【FUNCTION】を押します。

⇒ ランプが点灯し、ファンクションモードの画面になります。

2 大項目を選ぶ

ファンクション
【FUNCTION】右横の【・】**【F】**
(ボタン下の印刷)でファンクション
の大項目(F1~F17)を選びます。



3 画面右横の【-/NO(-/ノ)】【+/YES(+/イェス)】ボタン下の印刷で...

小項目がない場合： 直接設定の操作に入ります。

小項目がある場合： 【+/YES(+/イェス)】で小項目を選択する操作に進みます。

4 これ以降の3種類のボタンを使って操作します。

ファンクション
【・】**【F】**(【FUNCTION】右横のボタン)

大項目または小項目の選択に使います。

【-/NO(-/ノ)】【+/YES(+/イェス)】(画面右横のボタン)

画面中の点滅している項目について、NO/YESの選択、種類の選択、数値の設定をします。

【-/NO(-/ノ)】【+/YES(+/イェス)】を同時に押すと基本設定(工場出荷時の設定)に戻ります。

ノート 「N/Y (=NO/YES)が点滅している場合に【-/NO(-/ノ)】を押すと1つ前の画面に戻ります。「YES」だけが点滅している場合に【-/NO(-/ノ)】を押しても何も変わりません。

ソングセレクト
SONG SELECT(選曲) **【 I 】** (画面右横のボタン)

設定項目(画面中の点滅している項目)の移動(設定したい項目に設定位置を合わせる[点滅させる])、入力位置(画面中の点滅している位置)の移動に使います。(設定可能項目にだけしか移動しません。その画面中に移動できる設定可能項目がない場合は、SONG SELECT(選曲) **【 I 】** を押しても何も変わりません。)

5 操作が完了したら...

ファンクション
【FUNCTION】を押してファンクションモードから抜けます。

⇒ ランプが消灯し、画面が元に戻ります。

デモ曲/ピアノモードのときと、ディスク再生中、録音中は... ファンクションモードに入ることはできません。

ファンクションモードのときは... ディスクを入れても(ディスクが入っていても)ディスク再生モードにはなりません。ただし、【1/R(1トラック/R)】2/L(2トラック/L)を押すと、ディスク再生モードになります。

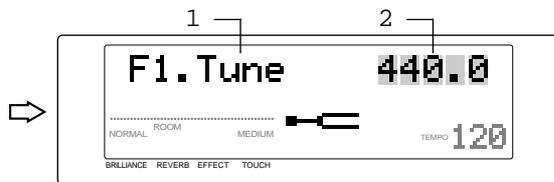
各ファンクション項目の説明

チューニング 【F1.Tune】全鍵盤の音程の微調整

・ tune = 音程を合わせること

楽器全体(88鍵盤すべて)の音程を微調整する機能です。合奏のときなどほかの楽器と音程を正確に合わせたいときなどに使用します。

- 1 ファンクションモードに入り、大項目【F1.Tune】を選びます。



- 2 A3の鍵盤の音程をヘルツの数値で示します。
【-/NO(-/ノ)】【+/YES(+/イェ)】で数値を設定します(約0.2Hz単位)。

設定範囲: 427.0 ~ 453.0 (Hz)

基本設定: 440.0 (Hz)

・ ヘルツとは...

音の高さを示す単位です。(音の高さは音波の振動数によって決まります。1秒間に何回振動するかという数値の単位がヘルツです。)

ノート 別の設定方法もあります...(ファンクションモードでないときに操作できます。)

音程を上げる(約0.2 Hz単位)...

A-1とB-1(左端の白鍵2つ)を同時に押したまま、C3~B3の1つの鍵盤を押す

音程を下げる(約0.2 Hz単位)...

A-1とA#-1(左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、C3~B3の1つの鍵盤を押す

基本設定に戻す...

A-1とA#-1とB-1(左端の白鍵2つと黒鍵1つ)を同時に押したまま、C3~B3の1つの鍵盤を押す

ノート 約1 Hz単位で設定する方法もあります...(ファンクションモードでないときに操作できます。)

約1 Hz単位で音程を上下させる...

「A-1とB-1」または「A-1とA#-1」(左端の白鍵2つ、または左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、【-/NO(-/ノ)】【+/YES(+/イェ)】を押す

基本設定に戻す...

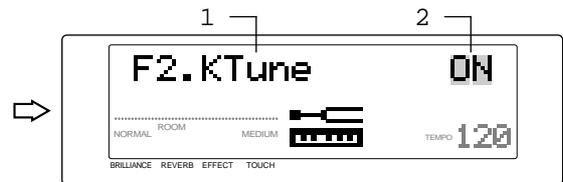
「A-1とB-1」または「A-1とA#-1」(左端の白鍵2つ、または左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、【-/NO(-/ノ)】【+/YES(+/イェ)】を同時に押す

(上記操作中、画面が【Tune 440.0】に切り換わります。操作後元の画面に戻ります。)

キーチューニング 【F2.KTune】鍵盤ごとの音程の微調整

鍵盤ごとの音程を微調整する機能です。特定の鍵盤の音程を微調整するとか、ご自分で特別な音律や調律カーブを作ることもできます。

- 1 ファンクションモードに入り、大項目【F2.KTune】を選びます。



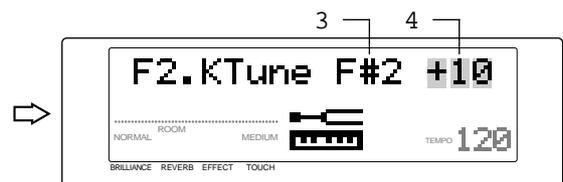
- 2 【-/NO(-/ノ)】【+/YES(+/イェ)】でこの機能のON/OFFを設定します。ONにすると次の操作で値を設定することができます。

設定範囲: ON/OFF

基本設定: OFF

・ 1度値を設定したあとは、この操作でONにすると設定した値が有効になり、OFFにすると無効になります。

- 3 ONにしたあと設定する鍵盤を押します。



押した鍵盤名(=設定する鍵盤名)が表示されます。

- 4 その鍵盤の音程(標準音程からの+/-のセント値)を【-/NO(-/ノ)】【+/YES(+/イェ)】で設定します。

設定範囲: -50 ~ 0 ~ +50 (セント)

基本設定: すべての鍵盤で0 (セント)

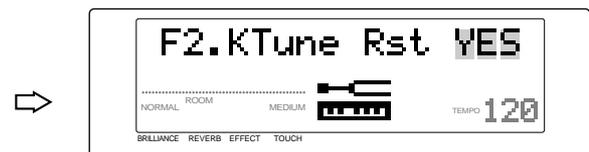
必要に応じて、別の鍵盤を押してその鍵盤の音程を設定する操作を繰り返します。

・ セントとは...

半音を100等分した音程の単位です。(100セント=半音)

すべての鍵盤を0に戻すには...

A-1とA#-1とB-1(左端の白鍵2つと黒鍵1つ)を同時に押します。



【+/YES(+/イェ)】を押すとすべての鍵盤が0に戻ります。

スケール 【F3.Scale】(音律(調律法)の選択)

・ Scale = 音階

音律(調律法)を選ぶ機能です。

現在もっとも一般的なピアノの調律法「平均律」が完成するまでには、時代と共に様々な音律が考えられ、またそれによる音楽が誕生しました。

当時の調律法で演奏することでその曲が誕生した時の響きを味わうことができます。

次の7種類の音律(調律法)が用意されています。

平均律(Equal Temperament)

イコールテンペラメント

1オクターブを12の間隔で等分した音律です。現在もっともポピュラーなピアノの調律法です。

純正律(長調)(Pure Temperament Major)

ピュアテンペラメント メジャー

純正律(短調)(Pure Temperament minor)

ピュアテンペラメント マイナー

自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特長です。現在でも合唱のハーモニーなどで見られます。

ピタゴラス音律(Pythagorean Temperament)

ピタゴリアンテンペラメント

ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた5度音程だけの組み合わせからできた音律です。3度はうなりが生じますが5度と4度の音程が美しく、旋律の演奏に向いています。

中全音律(Meantone Temperament)

ミントーンテンペラメント

ピタゴラス音律の3度の音程のうなりをなくすために改良された音律です。

十六世紀後半から十八世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用しました。

ヴェルクマイスター音律(Werckmeister)

ヴェルクマイスター

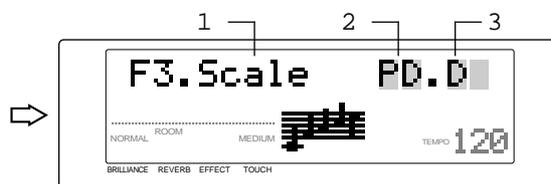
キルンベルガー音律(Kirnberger)

キルンベルガー

中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者はその組み合わせ方が異なります。転調により曲想が変化するのが特長です。

バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の音楽をハープシコード(=チェンバロ)などで演奏するときにはしばしば用いられます。

- 1 ファンクションモードに入り、大項目【F3.Scale】^{スケール}を選びます。



- 2 ソングセレクト SONG SELECT(選曲【Ⅰ】)で設定位置を合わせ(点滅させ)音律(調律法)の種類を【-/NO(-/-)】【+/YES(+/+)】で選びます。

選択範囲: [EQ.]..平均律

[PM.]..純正律(長調)

[Pm.]..純正律(短調)

[PY.]..ピタゴラス音律

[ME.]..中全音律

[WE.]..ヴェルクマイスター音律

[KI.]..キルンベルガー音律

基本設定: [EQ.]..平均律

- 3 ソングセレクト SONG SELECT(選曲【Ⅰ】)で設定位置を合わせ(点滅させ)平均律以外のおき、基音(演奏する曲の調の主音)を【-/NO(-/-)】【+/YES(+/+)】で設定します。(平均律以外のおきは、基音を設定する必要があります。設定した基音の調に対して各音律の効果が得られます。)

設定範囲: C, D^b, D, E^b, E, F, F[#], G, A^b, A, B^b, B

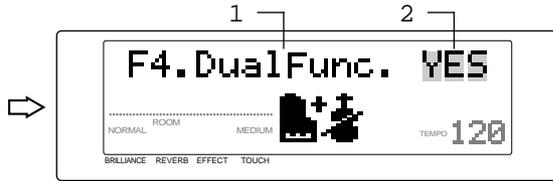
基本設定: C

2または3の点滅している項目について【-/NO(-/-)】【+/YES(+/+)】で設定できます。設定項目(画面中の点滅している項目)の移動にはソングセレクトSONG SELECT(選曲【Ⅰ】)を使います。

デュアル ファンクション 【F4.DualFunc.】(デュアルの諸設定)

デュアルモードでの各種設定をします。

- 1 デュアルモードで音色を選んでからファンクションモードに入り、大項目【F4.DualFunc.】デュアル ファンクションを選びます。



- 2 【+/YES (+/↵)]を押して確定し、【・【マ]】で以下の小項目を選び、【-/NO(・/↵)]【+/YES (+/↵)]で設定します。

ノート デュアルモードでないときには...

表示の「YES」の部分が「 - - - 」になり、【+/YES (+/↵)]を押しても反応しません。

ファンクションモードに入ったあとで、デュアルモードに入ることできます。

小項目

デュアル バランス 【4-1 D.Balance】(2音色の音量バランスの設定)

設定範囲: 0~20(20に近付くほど第1音色の音量が大きくなる、10で同音量)

基本設定: 音色の組み合わせごと

片方の音をメインにしてもう片方の音を薄く混ぜるなど、2音色の音量バランスを工夫してみてください。

デュアル デチューン 【4-2 D.Detune】(2音色の音程を微妙にずらす設定)

設定範囲: -10~0~+10(+方向で第1音色の音程が高くなる、-方向で第2音色の音程が上がる)

基本設定: 音色の組み合わせごと

2音色の音程を微妙にずらすと音に厚みが出ます。

ボイス1オクターブ 【4-3 Vc1.Octave】(第1音色のオクターブシフトの設定)

ボイス2オクターブ 【4-4 Vc2.Octave】(第2音色のオクターブシフトの設定)

設定範囲: -1、0、+1

基本設定: 音色の組み合わせごと

音程を1オクターブ上下にシフトさせます。第1音色と第2音色別々に設定できます。音の響き方が違ってきます。

ボイス1エフェクトデプス 【4-5 Vc1.EffDpt】(第1音色のエフェクトの深さの設定)

ボイス2エフェクトデプス 【4-6 Vc2.EffDpt】(第2音色のエフェクトの深さの設定)

設定範囲: 0~20

基本設定: 音色の組み合わせごと

エフェクトの深さを第1音色と第2音色別々に設定します。エフェクトがOFFのときは設定できません。(ファンクションモードに入ってからではエフェクトの種類を選ぶことができませんので、ファンクションモードを一度抜けてからエフェクトの種類を選んでください。)

・「第1音色」「第2音色」については、P57をご覧ください。

ストリングスアタック 【4-7 Str.Atk】(ストリングスのスローアタックの設定)

設定範囲: SLOW, FAST

基本設定: FAST

片方の音色にストリングスを選んだ場合の、ストリングスのアタック(音の立ち上がり)の速さを切り替えます。曲によりSLOWにすると雰囲気が出ます。

リセットOK? 【4-8 ResetOK?】(基本設定に戻す操作)

【+/YES (+/↵)]を押すと上記すべての設定が、その音色の組み合わせが持つ基本設定に戻ります。

ノート ショートカット操作...

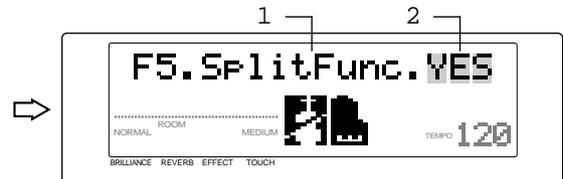
デュアルの2つの音色ボタンを押したまま【FUNCTION】ファンクションを押すと直接ファンクションモードの【F4.DualFunc.】画面に入ることができます。

この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作(【FUNCTION】を押す ⇨ ランプ消灯)が必要です。

スプリット ファンクション 【F5.SplitFunc.】(スプリットの諸設定)

スプリットモードでの各種設定をします。

- 1 スプリットモードで音色を選んでからファンクションモードに入り、大項目【F5.SplitFunc.】スプリット ファンクションを選びます。



- 2 【+/YES (+/↵)]を押して確定し、【・【マ]】で以下の小項目を選び、【-/NO(・/↵)]【+/YES (+/↵)]で設定します。

ノート スプリットモードでないときには...

表示の「YES」の部分が「 - - - 」になり、【+/YES (+/↵)]を押しても反応しません。

ファンクションモードに入ってからではスプリットモードに入ることができませんので、ファンクションモードを一度抜けてからスプリットモードに入ってください。

小項目

スプリットポイント 【5-1 SplitPoint】(スプリットポイントの設定)

設定範囲: 全鍵盤

基本設定: F#2

左鍵域と右鍵域の境目(スプリットポイント)にする鍵盤を指定します。スプリットポイントの鍵盤自体は左鍵域に含まれます。

- ・【-/NO(・/↵)]【+/YES (+/↵)]の代わりに、スプリットポイントにしたい鍵盤を押しても設定できます。
- ・ファンクションモードでないとき、【SPLIT】スプリットを押しながら鍵盤を押しても設定できます。(P58)

スプリット バランス 【5-2 S.Balance】(2音色の音量バランスの設定)

設定範囲: 0~20(20に近付くほど右側音色の音量が大きくなる、10で同音量)

基本設定: 音色の組み合わせごと

組み合わせる音色により、2音色の音量バランスを好みの状態に設定します。

ボイスR オクターブ 【5-3 VcR.Octave】(右側音色のオクターブシフトの設定)

ボイスL オクターブ 【5-4 VcL.Octave】(左側音色のオクターブシフトの設定)

設定範囲: -1、0、+1

基本設定: 音色の組み合わせごと

音程を1オクターブ上下にシフトさせます。右側音色と左側音色別々に設定できます。弾く曲の音域などに応じて選んでください。

ボイスR エフェクト デプス 【5-5 VcR.EffDpt】(右側音色のエフェクトの深さの設定)

ボイスL エフェクト デプス 【5-6 VcL.EffDpt】(左側音色のエフェクトの深さの設定)

設定範囲: 0~20

基本設定: 音色の組み合わせごと

エフェクトの深さを右側音色と左側音色別々に設定します。エフェクトがOFFのときは設定できません。(ファンクションモードに入ってからではエフェクトの種類を選ぶことができませんので、ファンクションモードを一度抜けてからエフェクトの種類を選んでください。)

サステイン ペダル 【5-7 Sus.Pedal】(ダンパーペダルの有効域の設定)

設定範囲: L、L+R、R

基本設定: L+R

ダンパーペダル効果を両音色にかけるか(=L+R)、左側音色にだけかけるか(=L)、右側音色にだけかけるか(=R)を設定します。

リセットOK? 【5-8 ResetOK?】(基本設定に戻す操作)

【+/YES(+/はい)]を押すと上記すべての設定がその音色の基本設定に戻ります。

ノート ショートカット操作...

【SPLIT】を押したまま【FUNCTION】を押すと直接ファンクションモードの【F5.SplitFunc.】画面に入ることができます。この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作(【FUNCTION】を押す⇒ランプ消灯)が必要です。

オルガン エディット 【F6.OrganEdit】(ORGAN コンビネーション COMBINATION)音色のエディット)

- ・ COMBINATION = 組み合わせ
- ・ エディット = 編集

CLP-911/711は8種類のオルガン音色を持っています。ここで8種類の中から指定したオルガン音色が【ORGAN COMBINATION】を押したときに選ばれます。また、それぞれのオルガン音色をエディットしてオリジナルのオルガン音色を作ることもできます。

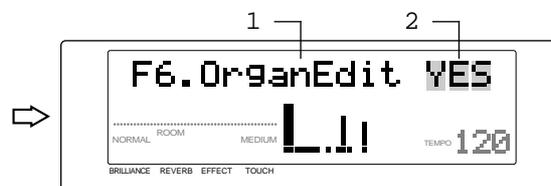
- ・ エディットした音色のバックアップの設定について、【F16.Backup】(P88)をご覧ください。

エディットのしかたは、複数のパー(音栓)を調節して音色を作るオルガンをシミュレートしています。下記設定の組み合わせにより、さまざまなオルガン音色を作ることができます。

- ・ Footage(オルガンのパー(音栓)に相当する8種類の持続系音色)の音量設定とResponse(音の立ち上がりの速さ)の設定
- ・ Attack Footage(3種類の減衰系音色[アタック音として使います])の音量設定とAttack Length(アタック音の長さ)の設定
- ・ Attack Mode(EACH/FIRST)の設定
- ・ Rotary Speaker効果のSpeed(速さ)とDepth(深さ)の設定
 - ・ アタック音 = 音の立ち上がり部分の鋭い音
 - ・ ロータリースピーカー効果 = スピーカー自体を回転させることにより音を揺らす効果

たとえば、減衰系音色の音量とAttack Length(アタック音の長さ)をうまく設定し持続系音色に加えることにより、パーカッシブなオルガンサウンドを作ったり、Responseを大きく設定してアタック感の弱いパイプオルガン風の音色を作ったりすることができます。

- 1 【ORGAN COMBINATION】の音色を選んでからファンクションモードに入り、大項目【F6.OrganEdit】を選びます。



- 2 【+/YES(+/はい)]を押して確定し、【・【7)]で以下の小項目を選び、【-/NO(-/いいえ)]【+/YES(+/はい)]で設定します。

ノート 【ORGAN COMBINATION】音色が選ばれていないときには...

表示の「YES」の部分が「-」になり、【+/YES(+/はい)]を押しても反応しません。

ファンクションモードに入ったあとで【ORGAN COMBINATION】音色を選ぶこともできます。

小項目

[6-1 *****](ジャズオルガン1 JAZZ ORGAN1などの音色名が入ります)

(オルガンの種類の選択)

オルガンの種類を選びます。

エディットされたオルガンの種類には、音色名のあとに「*」が付きます。

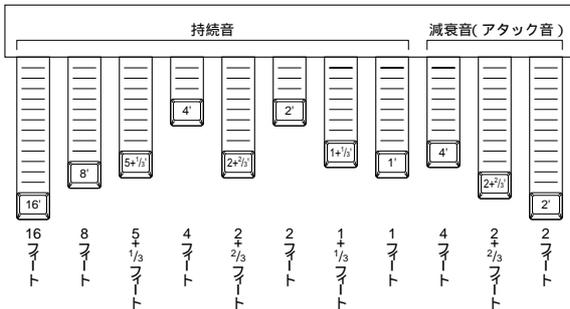
設定範囲: ジャズオルガン JAZZ ORGAN1、JAZZ ORGAN2、
ジャズ JAZZ ORGAN3、ベーシック JAZZ 16'1、BASIC 16'8、
シアター THEATER 16、オールドオルガン OLD ORGAN、
ワンダフル WONDERFUL

基本設定: ジャズオルガン JAZZ ORGAN1

[6-2 VoiceEdit](ボイスエディット 音色の編集)

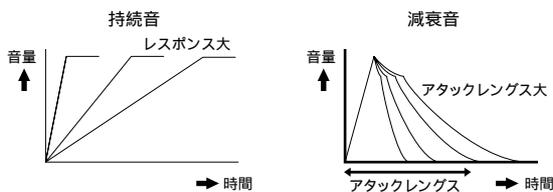
8種類の持続系音色の音量設定とResponse(音の立ち上がりの速さ)及び3種類の減衰系音色(アタック音)の音量設定とAttack Length(アタック音の長さ)を設定します。

音色の種類と音量のイメージ



- 8フィートを基音(基本となる音程)として、1オクターブ上が4フィート、2オクターブ上が2フィート、3オクターブ上が1フィート、1オクターブ下が16フィートです。

持続音のレスポンス、減衰音のアタックレングスのイメージ



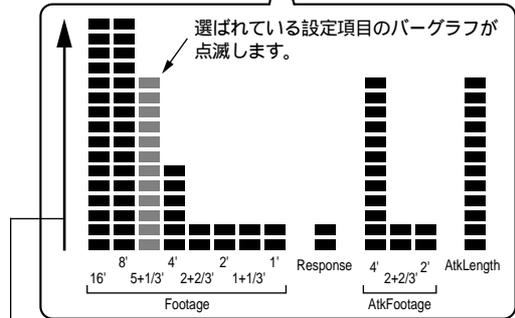
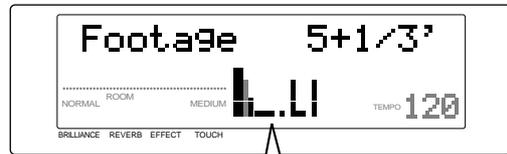
操作

[6-2 ボイスエディット VoiceEdit]の画面から ソングセレクト SONG SELECT(選曲) 【 】を押します。

⇒ 設定項目画面に移ります。

ソングセレクト SONG SELECT(選曲) 【 】で設定項目画面を切り換え【 - /NO(・/ー)】【 + /YES(+ /ゝ入)】で音量またはレベルを設定する操作を繰り返します。

終わったら、【・】で次に設定する小項目へ移動します。



音量またはレベルが8段階でバーグラフ表示されます。

設定項目: フッター Footage 16(持続音) \ Footage 8(持続音) \ Footage 5+1/3(持続音) \ Footage 4(持続音) \ Footage 2+2/3(持続音) \ Footage 2(持続音) \ Footage 1+1/3(持続音) \ Footage 1(持続音)

レスポンス Response(音の立ち上がりの速さ)

アタック フッター AtkFootage 4(減衰音)

アタック AtkFootage 2+2/3(減衰音)

アタック AtkFootage 2(減衰音)

アタック レングス AtkLength(アタック音の長さ)

[6-3 アタックモード AttackMode](アタック音の出し方の設定)

EACHとFIRSTを切り替えます。(基本設定: イーチ EACH)
イーチ EACHは、弾いた各音すべてにアタック音を付ける設定です。
ファースト FIRSTは、最初に鍵盤を弾いた音だけにアタック音を付け、その後レガート奏法(音のつながりがとぎれないように音を十分伸ばして弾く奏法)で弾いた音にはアタック音を付けない設定です。

[6-4 ロータリースピーカースピード RotSP.Spд](ロータリースピーカー効果の速さの設定)

[6-5 ロータリースピーカーデプス RotSP.Dpt](ロータリースピーカー効果の深さの設定)

ロータリースピーカー効果の速さと深さをそれぞれ設定します。速さは、スピーカーを回転させる速度による効果の設定です。深さはロータリースピーカー効果のかかり具合の設定です。

設定範囲: 0~20(両設定項目共)

基本設定: 音色ごと(両設定項目共)

[6-6 リセットOK? ResetOK?](基本設定に戻す操作)

【 + /YES(+ /ゝ入)】を押すと上記すべての設定がその音色の基本設定に戻ります。

ノート ショートカット操作...

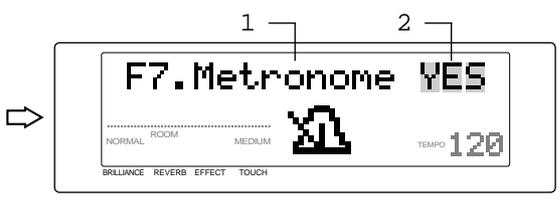
オルガン コンビネーション [ORGAN COMBINATION]を押したまま ファンクション [FUNCTION]を押すと直接ファンクションモードの オルガンエディット [F6.OrganEdit]画面に入ることができます。

この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作 ファンクション ([FUNCTION]を押す ⇒ ランプ消灯)が必要です。

メトロノーム
【F7.Metronome】(メトロノームの諸設定)

メトロノームの拍子と音量を設定します。

- 1 ファンクションモードに入り、大項目【F7.Metronome】^{メトロノーム}を選びます。



- 2 【+/YES (+/右入)]を押して確定し、【・】^{メトロノーム}で以下の小項目を選び、【-/NO (-/左)]【+/YES (+/右入)]で設定します。

小項目

ビート
【7-1 Beat】(拍子の設定)

設定範囲: ^{ノーマル} NORMAL(無拍子)、2拍子、3拍子、4拍子、5拍子、6拍子
 基本設定: ^{ノーマル} NORMAL(無拍子)

ボリューム
【7-2 Volume】(メトロノーム音量の設定)

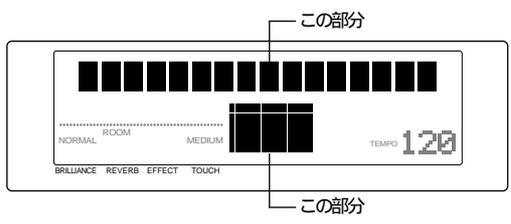
設定範囲: 1~20
 基本設定: 10

ノート メトロノーム音量の別の設定方法もあります...
 (ファンクションモードでないときに操作できます。)
 【METRONOME(メトロノーム)]を押したまま【-/NO (-/左)]【+/YES (+/右入)]を押します。

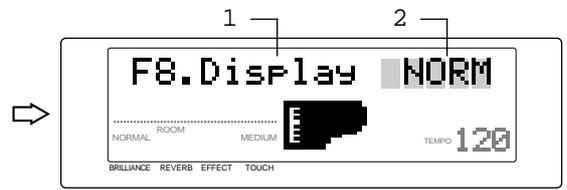
ノート ショートカット操作...
 【METRONOME(メトロノーム)]を押したまま【FUNCTION]^{ファンクション}を押すと直接ファンクションモードの【F7.Metronome】^{メトロノーム}画面に入ることができます。
 この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作【FUNCTION]^{ファンクション}を押す⇨ランプ消灯が必要で

ディスプレイ
【F8.Display】(画面表示モードの選択)

画面表示の下記の部分について、何を表示させるか(=画面表示モード)を選ぶことができます。用途に応じてお決めください。



- 1 ファンクションモードに入り、大項目【F8.Display】^{ディスプレイ}を選びます。

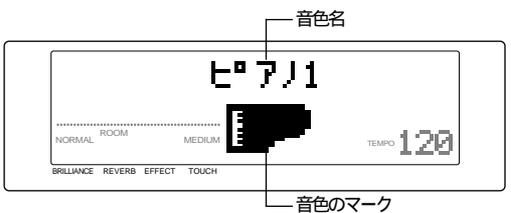


- 2 【-/NO (-/左)]【+/YES (+/右入)]で設定します。

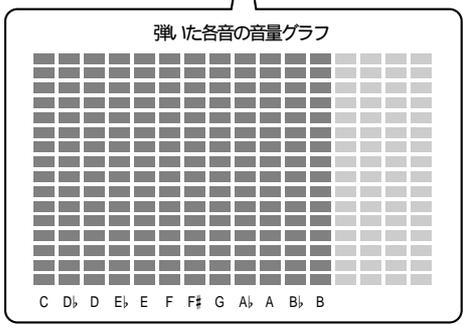
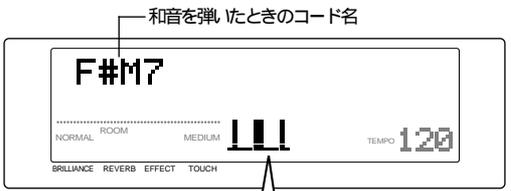
選択範囲: [^{ノーマル} NORM] [^{コード} CHORD] [^{ベロシティ} VELO] [^{ミディ} MIDI]
 基本設定: [^{ノーマル} NORM]

各画面表示モードの説明

^{ノーマル}
【NORM】

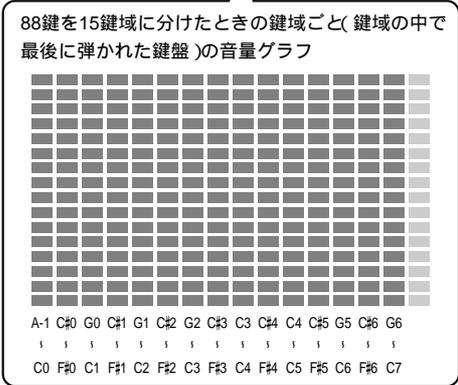


^{コード}
【CHORD】

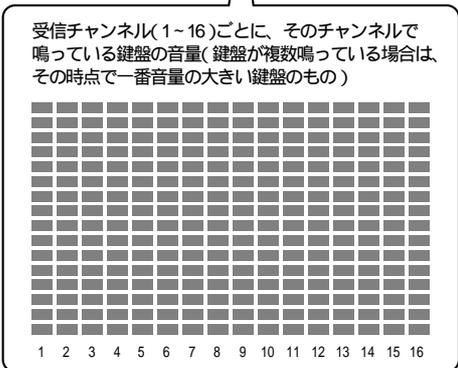


・「弾いた各音の音量グラフ」...
 弾いた各音の音量がグラフ表示されます。同じ音名の鍵盤が複数同時に押されている場合は、そのうち一番音量の大きい鍵盤のものを表示します。

ペロシティ
【VELO】



ミディ
【MIDI】



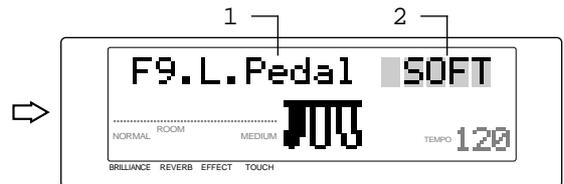
・「リアルタイムのMIDI受信データ」...

ノート(鍵盤名):「xxx: Vel=yyy」(xxx=鍵盤名、yyy=音量)
 プログラムチェンジ
 Program Change:「 Prog # 」
 コントロールチェンジ
 Control Change:「 Ctrl #***: 」
 エクスクルーシブ
 Exclusive:「 Ex.Data 」
 アフタータッチ ピッチベンド
 (After TouchとPitch Bendは表示されません。)

レフトペダル
【F9.L.Pedal】(左ペダル機能の設定)

左のペダルの機能を設定します。基本設定ではソフトペダルとして機能しますが、ここで、スタート/ストップ機能(パネルの【START/STOP(スタート/ストップ)】と同じ機能)に切り替えることができます。

- 1 ファンクションモードに入り、大項目[F9.L.Pedal]^{レフトペダル}を選びます。



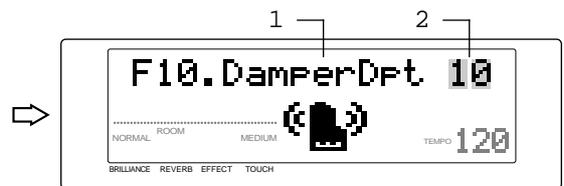
- 2 【-/NO(-/ノ)】+/YES(+/イェ)で設定します。

選択範囲: ソフト、スタート
 基本設定: ソフト

ダンパーデプス
【F10.DamperDpt】(ダンパーペダル付加音の深さの設定)

【PIANO 1】の音色では、アコースティックピアノ(生ピアノ)でダンパーペダルを踏んだときに付加される共鳴音まで表現されます。その共鳴音の深さ(かかり具合)を調節します。

- 1 ファンクションモードに入り、大項目[F10.DamperDpt]^{ダンパーデプス}を選びます。



- 2 【-/NO(-/ノ)】+/YES(+/イェ)で深さの値を調節します。

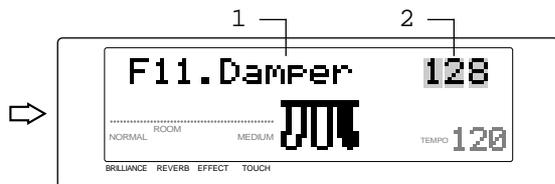
選択範囲: 0~10~20
 基本設定: 10

【ノート】 この設定は【PIANO 1】以外の音色では無効です。

ダンパー [F11.Damper] (ダンパーペダル効果方式の設定)

ダンパーペダルを踏んだときに音の響く長さが、踏み込み方に応じて変わる段階のきざみを選択します。曲の録音時などは2段階(ON/OFF式)に設定しておく、8段階とか128段階で使用した場合に比べてデータ量を少なくすることができます。

- 1 ファンクションモードに入り、大項目[F11.Damper]^{ダンパー}を選びます。



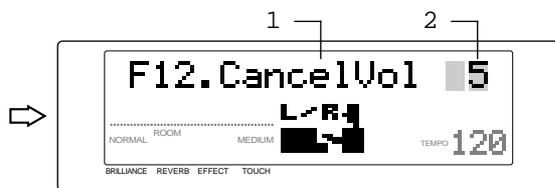
- 2 【 - /NO(- /-)】 + /YES(+ /入)】で設定します。

選択範囲: 2(段階) 8(段階) 128(段階)
基本設定: 8(段階)

キャンセル ボリューム [F12.CancelVol] (ピアノ30曲のパート再生OFF時の音量設定)

CLP-911/711に入っているピアノ30曲の再生時、再生をOFFにしたパートの音量を設定します。ガイドとして小さく鳴らしたい場合と、まったく音を鳴らしたくない場合とに応じて、音量を調節してください。

- 1 ファンクションモードに入り、大項目[F12.CancelVol]^{キャンセル ボリューム}を選びます。



- 2 【 - /NO(- /-)】 + /YES(+ /入)】で設定します。

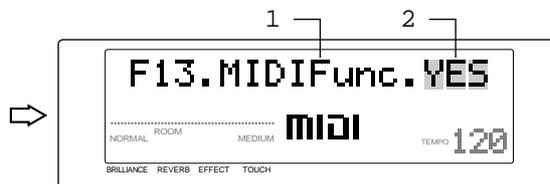
選択範囲: 0 ~ 20
基本設定: 5

ノート この機能はディスクの曲の再生時には無効です。ディスクの曲の再生時には、再生をOFFにしたパート(トラック)の音量は0(音が出ない)に固定です。

ミディ ファンクション [F13.MIDIFunc.] (MIDI機能の諸設定)

MIDIに関する各種設定/操作をします。MIDIについての基礎的な解説が「MIDI及びデータの互換性について」(P97)にあります。ご参照ください。

- 1 ファンクションモードに入り、大項目[F13.MIDIFunc.]^{ミディ ファンクション}を選びます。



- 2 【 + /YES(+ /入)】を押して確定し、【・【7】】で以下の小項目を選び、【 - /NO(- /-)】【 + /YES(+ /入)】で設定します。

小項目

トランスミット チャンネル [13-1 TxCh.] (MIDI送信チャンネルの設定)

MIDI楽器どうして、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1~16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでCLP-911/711からMIDIデータを送信するときのチャンネルを設定します。

選択範囲: 1~16、OFF(送信しない)
基本設定: 1

- ・デュアルのときの第2音色、スプリットのときの左側音色は... 2チャンネルに固定です。ただし、上記設定チャンネルをOFFに設定した場合は送信されません。
- ・ここでの設定は、手弾き音のデータ及びパネル情報のMIDI送信について有効です。ディスクの曲の再生時のMIDI送信(P63 「使用トラック数」 P85参照)には影響しません。
- ・ディスク再生モード中(フォーマットされたディスクが入っていてクラビノーバで認識されているとき)は、手弾き音のデータ及びパネル情報はMIDI送信されません。
- ・デモ曲/ピアノ30曲の再生データ、ディスクの曲の再生データはMIDI送信されません。

レシーブチャンネル [13-2 RxCh] (MIDI受信チャンネルの設定)

MIDI楽器どうして、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1~16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでCLP-911/711がMIDIデータを受信するときのチャンネルを設定します。

選択範囲: オール ALL、1&2、1~16
基本設定: オール ALL

- ・オールの場合... 「マルチティンパー」と呼ばれる仕様になっており、外部MIDI機器から送信される複数のチャンネルのデータを、同時にチャンネルごとに独立して受信します。この状態で、シーケンサーなどから送信される複数のチャンネルを使って作られた演奏データを、CLP-911/711で受信して再生させることができます。
- ・「1 & 2」の場合... シーケンサーなどの外部MIDI機器から1、2チャンネルのデータだけ受信し、CLP-911/711本体で再生することができます。
- ・CLP-911/711では、CLP-911/711本体のパネル設定や手弾き音は、送信されてくるプログラムチェンジ(音色切り換え)などのチャンネルメッセージから影響を受けません。
- ・デモ曲/ピアノノ曲モード中は、MIDI受信を行いません。

[13-3 Local](ローカル^{ローカル}コントロール^{オン/オフ}ON/OFFの設定)

通常、CLP-911/711の鍵盤を弾くと本体内部の「音源部」から音が出ます。この状態は「ローカルコントロール^{オン}ON」と呼ばれます。「ローカルコントロールを^{オフ}OFF」にすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いてもCLP-911/711からは音が出なくなります。一方、鍵盤を弾いた演奏情報はMIDI送信されますので、CLP-911/711では音を鳴らさずにMIDI接続した外部の音源を鳴らしたいときなどに、ローカルコントロールを^{オフ}OFFにします。

選択範囲: ^{オン/オフ} ON/OFF

基本設定: ^{オン} ON

[13-4 PrgChg](プログラム^{プログラム}チェンジ^{チェンジ}送受信^{送受信}ON/OFFの設定)

MIDIで送信側の機器から受信側の機器の音色を切り換える情報をプログラムチェンジと言います。たとえばCLP-911/711からプログラムチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器の音色を切り換えることができます。(CLP-911/711のパネル上で音色を切り換えたときに、切り換えた音色のプログラムチェンジナンバーが送信されます。)逆にMIDI接続した外部機器から送信されたプログラムチェンジをCLP-911/711が受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データの音色が切り換わります。(このとき鍵盤での手弾き音色は切り換わりません。)

このプログラムチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合(=MIDI接続した外部機器と音色切替を連動させたい場合)と、できないほうが便利な場合(=MIDI接続した外部機器と音色切替を連動させたくない場合)があります。音色切替を連動させたい場合は^{オン}ONに、連動させたくない場合は、^{オフ}OFFにします。

- CLP-911/711のプログラムチェンジナンバーは...
XG音色配列に準拠しています。各音色のプログラムチェンジナンバーについては「MIDIデータフォーマット」のP101をご覧ください。

選択範囲: ^{オン/オフ} ON/OFF

基本設定: ^{オン} ON

[13-5 CtrlChg](コントロール^{コントロール}チェンジ^{チェンジ}送受信^{送受信}ON/OFFの設定)

MIDIで送信側の機器から受信側の機器にダンパーペダルの操作やエフェクト、ボリュームなどの演奏表現を伝える情報をコントロールチェンジと言います。たとえばCLP-911/711からコントロールチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器の演奏をコントロールすることができます。(CLP-911/711でダンパーペダルを操作をしたときなどにコントロールチェンジが送信されます。)逆にMIDI接続した外部機器から送信されたコントロールチェンジをCLP-911/711が受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データがそれに反応します。(このとき鍵盤での手弾き音は影響を受けません。)

このコントロールチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合と、できないほうが便利な場合があります。送/受信ができたほうが便利な場合は^{オン}ONに、できないほうが便利な場合は、^{オフ}OFFにします。

- CLP-911/711がコントロールチェンジとして扱える情報...
「MIDIデータフォーマット」のP101をご覧ください。

選択範囲: ^{オン/オフ} ON/OFF

基本設定: ^{オン} ON

[13-6 MIDITrans](MIDI送信^{ミディトランスポート}データにトランス^{ポート}ポーズをかける設定)

MIDI送信データにトランスポーズをかける設定です。(本体のトランスポーズの設定とは連動しません。)

選択範囲: -12~0~+12(半音単位)

基本設定: 0

[13-7 SetupSnd](セットアップ^{セットアップ}ファイルのMIDI^{センド}送信)

CLP-911/711のパネル設定状態のセットアップファイルをMIDI接続したシーケンサーなどに送信します。外部シーケンサーに演奏データを録音する際、演奏データの頭に、録音データを再生しながら自分で演奏するためのセットアップファイルを送信して記録しておく、再生しながらの演奏の際、便利です。

- ファイルとは...
あるデータのまとまりを1つの単位として保存したものをファイルと言います。
- セットアップファイルとは...
CLP-911/711のパネル設定状態一式のデータファイルです。

操作

送信するパネル設定を作ります。

- ▶ シーケンサーなどとMIDI接続し、シーケンサー側のセットアップファイル受信準備を整えます。
- ▶ ファンクションモードに入って[13.7 SetupSnd]^{セットアップセンド}を選びます。
- ▶ **[+ / YES (+ / 入)]**を押すと送信が実行されます。

• 送信される「セットアップファイル」の内容...

「MIDIデータフォーマット」のP102「パネルデータ詳細」に掲載されている内容に加えて、[F2.KTune]^{キーチューニング}(鍵盤ごとの音程の微調整)で設定したデータが送信されます。

• 送信したデータの受信方法...

データを送信した機器とCLP-911/711をMIDI接続します。

- ▶ データを送信した機器側で送信操作をします。

□> 自動的にCLP-911/711がそのデータを受信し、パネルの設定状態に反映されます。

(送信した機種と同じ機種でだけ受信することができます。たとえばCLP-911から送信したセットアップファイルは、CLP-911で受信することができますが、CLP-711で受信することはできません。)

- セットアップファイルMIDI送受信の操作については、接続する外部機器の取扱説明書もご覧ください。

ディスクファンクション 【F14.DiskFunc.】(ディスクを使う操作と設定)

各種のディスクを使う操作/設定をします。
各項目の操作や設定をする前に該当するディスクを
本体のディスクドライブに差し込んでください。

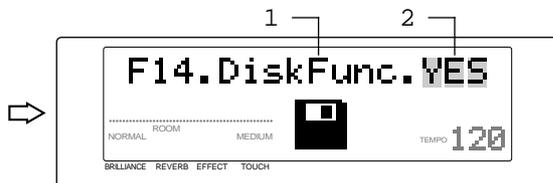
([14-5 TrackSel](^{トラックセレクト} ディスクの再生トラック選択) だけはディスクが差し込まれていなくても操作できます。)

【ノート】 フロッピーディスクの取り扱いについて...

フロッピーディスクのご使用にあたっては注意事項がいくつかありますので、「フロッピーディスクの取り扱い」(P6) をお読みいただき、先に進んでください。

- ・ 操作中、画面に各種のメッセージ(情報や確認など) が表示されることがあります。P90に「メッセージ一覧」としてまとめてありますので参考にしてください。

- 1 ファンクションモードに入り、大項目[^{ディスクファンクション} F14.DiskFunc.] を選びます。



- 2 【 + / YES (+ / イ入) 】 を押して確定し、
▶▶ 【 ・ 【 冫冫 】 】 で以下の小項目を選び、
▶▶ 再度【 + / YES (+ / イ入) 】 で確定します。
そのあとは、小項目ごとに設定、操作の流れに沿って、
- 3 ^{ソングセレクト} SONG SELECT (選曲 【 冫冫 】) で設定項目(または入力位置) を移動(設定位置を合わせ冫冫 点滅させる)
- 4 【 - / NO (- / ノ) 】 【 + / YES (+ / イ入) 】 で設定(または確定、実行、入力)
ですべての操作が行えます。

小項目

[14-1 ^{フォーマット} Format](ディスクのフォーマット)

フロッピーディスクをCLP-911/711用にフォーマットします。
付属の録音用ディスクなどの未フォーマットのディスクや、異なるフォーマットのディスクのフォーマットについてはP65をご覧ください。

ここでの操作は、既にフォーマットされていて使用中のディスクを、すべてのデータを消去するために再フォーマットする場合の操作になります。

【ノート】 未フォーマットのディスクや違うフォーマットのディスクでも...

通常はP65の操作でフォーマットしますが、ファンクションモード、デモ曲/ピアノ曲モードのときと録音中は、このようなディスクをディスクドライブに差し込んででも自動的にフォーマットの画面になりません。その場合は、ここの操作でフォーマットしてください。

【ノート】 既にフォーマットされていて使用中のディスクを再フォーマットすると...

ディスクに記録されているデータがすべて消されます。ご注意ください。

操作

[^{ディスクファンクション イエス} F14.DiskFunc. YES] ▶▶ 【 + / YES (+ / イ入) 】 ▶▶ 【 ・ 【 冫冫 】 】

⇒ [^{フォーマット イエス} 14-1Format YES] ▶▶ 【 + / YES (+ / イ入) 】

⇒ [^{フォーマットOK? ノー/イエス} Format OK? N/Y] ▶▶ 【 + / YES (+ / イ入) 】

⇒ [^{ディスクフォーマット} DiskFormat 80] 【 フォーマット実行中の画面 】

本体内部でのフォーマットの進行状況が数字で表示されます。

⇒ フォーマット完了後 ^{コンプリート} [Completed] が数秒表示されたあと自動的に ^{フォーマット イエス} [14-1Format YES] の画面に戻ります。

・ フォーマットの種類...

CLP-911/711でフォーマットすると、2DDディスクは720KB、2HDディスクは1.44MBにフォーマットされます。(「2DD」「2HD」はディスクの種類を示す言葉、「720KB」「1.44MB」はデータの記憶可能容量を示す言葉ですが、フォーマットの種類を表すときに、このように言います。)

ファイルコピー [14-2 FileCopy] (曲ファイル、セットアップファイルのコピー)

CLP-911/711で録音した曲ファイルや、CLP-911/711のパネル状態のセットアップファイルを別のファイルにコピーします。同一ディスクのファイルにでも別ディスクのファイルにでもコピーできます。

ノート コピーを実行すると...

コピー先にそれまであったデータは消されますのでご注意ください。

・ディスクでなく本体メモリーに録音した曲についての注意...

この機能を実行すると、本体メモリーに録音した曲は消されますのでご注意ください。

本体メモリーに録音した曲を保存したい場合は、最初にそれをディスクにコピーする必要があります。その場合でもコピー後は、本体メモリーに録音した曲は消されます。

・ファイルとは...

あるデータのまとまりを一つの単位として保存したものをファイルと言います。

・曲ファイルとは...

曲データを曲番号単位で曲ファイルと言います。(CLP-911/711で録音する場合、1枚のディスクに最大60個の曲ファイルが持てます。)

・セットアップファイルとは...

CLP-911/711のパネルの設定状態一式のデータファイルです。(CLP-911/711で記録する場合、1枚のディスクに、曲ファイルとは別に最大60個のセットアップファイルが持てます。) セットアップデータをファイルとしてディスクに記録し保存する方法、そのファイルを本体へ読み込み再現する方法についてはファンクション小項目[14-8 SetupDat] セットアップデータの保存と再現 (P87) をご覧ください。

・「ディスクオーケストラ・コレクション(DOC)」のコピーについては...

通常の曲コピーとは異なる方式でコピーされます。「DOCマイレパートリー」の作り方 (P96) をご参照ください。

操作

ディスクファンクション YES [F14.DiskFunc.YES] ➡【 + / YES (+ / 入) 】 ➡【 ・ 【 X 】 】

➡ [14-2FileCopy YES] ➡【 + / YES (+ / 入) 】

➡ [SONG File N/Y または
SETUPFile N/Y]
[1] [2]

➡ [1] コピーするファイルの種類「SONG File」か「SETUPFile」を選びます。
(SONG SELECT(選曲) X) で設定位置を合わせ(点滅させ)【 - / NO(・ / 入) X + / YES(+ / 入) 】で選びます。)

[2] SONG SELECT(選曲) X) で設定位置を合わせ(点滅させ)【 + / YES(+ / 入) 】で確定します。(【 - / NO(・ / 入) 】を押すと1つ前の画面に戻ります。)

➡ [## ## ***** N/Y または
DISK2 N/Y]
[1] [2] [3]

同一ディスク内のコピーで、コピー先に既にデータがある場合にそのファイル名、またコピー先が別ディスクの場合「DISK2」が表示されます。

➡ [1] コピー元のファイル番号を選びます。

(SONG SELECT(選曲) X) で設定位置を合わせ(点滅させ)【 - / NO(・ / 入) X + / YES(+ / 入) 】で選びます。)

選択範囲: 1 ~ 60、(CLP)

(ディスクでなく本体メモリーに録音した曲がある場合は、その曲を指して「CLP」が表示されます。)

[2] コピー先のファイル番号を選びます。

(SONG SELECT(選曲) X) で設定位置を合わせ(点滅させ)【 - / NO(・ / 入) X + / YES(+ / 入) 】で選びます。)

選択範囲: 1 ~ 60 ~ " 1 DISK2 " ~ " 60 DISK2 "

(別ディスクへのコピーの場合に「## DISK2」を選びます。)

[3] SONG SELECT(選曲) X) で設定位置を合わせ(点滅させ)【 + / YES(+ / 入) 】でコピー元、コピー先を確定すると共にコピーの実行が開始されます。(【 - / NO(・ / 入) 】を押すと1つ前の画面に戻ります。)

別ディスクへのコピーの場合だけ、コピーが完了するまでに必要なディスクの入れ替え回数が表示されます。

➡ [Working # / # 1] (実行中の画面)

本体内部でのコピーの進行状況が1-100の数字で表示されます。

(➡) 別ディスクへのコピーの場合、コピーするデータ量によって、コピーが完了するまでに何回かコピー元とコピー先のディスクを入れ替える必要がある場合があります。[Change Disk 2 または Change Disk 1] の表示が現れますので、画面の指示に従ってディスクを入れ替えてください。(「2」の場合はコピー先のディスクに、「1」の場合はコピー元のディスクに入れ替えます。)

・最初にコピー先のディスクを入れたとき、そのディスクの指定したファイル番号にデータがある場合は、[##.File が アリス(##.File Exists!) が数秒表示されたあと ツツ クラスか? N/Y (Continue? N/Y)] に変わります。コピーを続ける場合は【 + / YES(+ / 入) 】を、コピーを中止する場合は【 - / NO(・ / 入) 】を押してください。

➡ コピー完了後 [Completed] が数秒表示されたあと自動的に [14-2FileCopy YES] の画面に戻ります。

[1 4-3 File Name] (曲ファイル、セットアップファイル名の設定)

ファイルに名前を付けます。

ここで名前を付けなくても、自動で、曲ファイルの場合は「SONG##」(##は曲ファイル番号)セットアップファイルの場合は「SET##」(##はセットアップファイル番号)の名前が付けられますが、ここでオリジナルの名前を付けることができます。

操作

[F14.DiskFunc.YES] ➡ [+ / YES (+ / ｲﾝ)] ➡ [⋅] [㊦]

⇒ [14-3File Name YES] ➡ [+ / YES (+ / ｲﾝ)]

⇒ [SONG File N/Y または
SETUPFile N/Y]

[1] [2]

➡ [1] 名前を付けるファイルの種類「SONG File」か「SETUPFile」を選びます。
(SONG SELECT (選曲) [X] で設定位置を合わせ(点滅させ) [- / NO (- / ｲﾝ)] [+ / YES (+ / ｲﾝ)] で選びます。)

[2] SONG SELECT (選曲) [X] で設定位置を合わせ(点滅させ) [+ / YES (+ / ｲﾝ)] で確定します。
([- / NO (- / ｲﾝ)] を押すと1つ前の画面に戻ります。)

⇒ [##.***** N/Y]

[1] [2]
現在のファイル名が表示されます

➡ [1] 名前を付けるファイル番号を選びます。
(SONG SELECT (選曲) [X] で設定位置を合わせ(点滅させ) [- / NO (- / ｲﾝ)] [+ / YES (+ / ｲﾝ)] で選びます。)
選択範囲: 1 ~ 60

[2] SONG SELECT (選曲) [X] で設定位置を合わせ(点滅させ) [+ / YES (+ / ｲﾝ)] で確定します。
([- / NO (- / ｲﾝ)] を押すと1つ前の画面に戻ります。)

⇒ [***** N/Y]

[1] [2]

➡ [1] 名前を入力します。
(SONG SELECT (選曲) [X] で入力位置を合わせ [- / NO (- / ｲﾝ)] [+ / YES (+ / ｲﾝ)] でその位置の入力文字を選ぶ操作を繰り返します。)
・12文字まで入力できます。

文字の選択範囲

A	Z	a	z	0	9	(スペース)
!	"	#	\$	%	&	'
()	*	+	,	-	.
/	:	;	<	=	>	?
@	[]	^	_	~	{
	}	ア	ナ	オ	ヤ	ユ
ヨ	ッ	ヴ	ワ	カ	キ	ク
ケ	コ	セ	ソ	タ	チ	ツ
テ	ト	ナ	ニ	ノ	ハ	ヒ
フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ
モ	ヤ	ユ	ヨ	ワ	カ	キ
ク	ケ	コ	セ	ソ	タ	チ
ツ	テ	ト	ナ	ニ	ノ	ハ
ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム
メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ワ	カ
キ	ク	ケ	コ	セ	ソ	タ
チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ
ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ワ
カ	キ	ク	ケ	コ	セ	ソ
タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ
ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ
ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ
ワ	カ	キ	ク	ケ	コ	セ
ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ
ニ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ
ヨ	ワ	カ	キ	ク	ケ	コ
セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
ナ	ニ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ
ホ	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ
ユ	ヨ	ワ	カ	キ	ク	ケ
コ	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ
ト	ナ	ニ	ノ	ハ	ヒ	フ
ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ	ユ	ヨ	ワ	カ	キ	ク
ケ	コ	セ	ソ	タ	チ	ツ
テ	ト	ナ	ニ	ノ	ハ	ヒ
フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ
モ	ヤ	ユ	ヨ	ワ	カ	キ
ク	ケ	コ	セ	ソ	タ	チ
ツ	テ	ト	ナ	ニ	ノ	ハ
ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム
メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ワ	カ
キ	ク	ケ	コ	セ	ソ	タ
チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ
ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ワ
カ	キ	ク	ケ	コ	セ	ソ
タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ
ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ
ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ
ワ	カ	キ	ク	ケ	コ	セ
ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ
ニ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ
ヨ	ワ	カ	キ	ク	ケ	コ
セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
ナ	ニ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ
ホ	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ
ユ	ヨ	ワ	カ	キ	ク	ケ
コ	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ
ト	ナ	ニ	ノ	ハ	ヒ	フ
ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ	ユ	ヨ	ワ	カ	キ	ク
ケ	コ	セ	ソ	タ	チ	ツ
テ	ト	ナ	ニ	ノ	ハ	ヒ
フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ
モ	ヤ	ユ	ヨ	ワ	カ	キ
ク	ケ	コ	セ	ソ	タ	チ
ツ	テ	ト	ナ	ニ	ノ	ハ
ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム
メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ワ	カ
キ	ク	ケ	コ	セ	ソ	タ
チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ
ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ワ
カ	キ	ク	ケ	コ	セ	ソ
タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ
ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ
ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ
ワ	カ	キ	ク	ケ	コ	セ
ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ
ニ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ
ヨ	ワ	カ	キ	ク	ケ	コ
セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
ナ	ニ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ
ホ	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ
ユ	ヨ	ワ	カ	キ	ク	ケ
コ	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ
ト	ナ	ニ	ノ	ハ	ヒ	フ
ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ	ユ	ヨ	ワ	カ	キ	ク
ケ	コ	セ	ソ	タ	チ	ツ
テ	ト	ナ	ニ	ノ	ハ	ヒ
フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ
モ	ヤ	ユ	ヨ	ワ	カ	キ
ク	ケ	コ	セ	ソ	タ	チ
ツ	テ	ト	ナ	ニ	ノ	ハ
ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム
メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ワ	カ
キ	ク	ケ	コ	セ	ソ	タ
チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ
ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ワ
カ	キ	ク	ケ	コ	セ	ソ
タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ
ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ
ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ
ワ	カ	キ	ク	ケ	コ	セ
ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ
ニ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ
ヨ	ワ	カ	キ	ク	ケ	コ
セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
ナ	ニ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ
ホ	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ
ユ	ヨ	ワ	カ	キ	ク	ケ
コ	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ
ト	ナ	ニ	ノ	ハ	ヒ	フ
ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ	ユ	ヨ	ワ	カ	キ	ク
ケ	コ	セ	ソ	タ	チ	ツ
テ	ト	ナ	ニ	ノ	ハ	ヒ
フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ
モ	ヤ	ユ	ヨ	ワ	カ	キ
ク	ケ	コ	セ	ソ	タ	チ
ツ	テ	ト	ナ	ニ	ノ	ハ
ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム
メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ワ	カ
キ	ク	ケ	コ	セ	ソ	タ
チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ
ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ワ
カ	キ	ク	ケ	コ	セ	ソ
タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ
ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ
ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ
ワ	カ	キ	ク	ケ	コ	セ
ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ
ニ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ
ヨ	ワ	カ	キ	ク	ケ	コ
セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
ナ	ニ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ
ホ	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ
ユ	ヨ	ワ	カ	キ	ク	ケ
コ	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ
ト	ナ	ニ	ノ	ハ	ヒ	フ
ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ	ユ	ヨ	ワ	カ	キ	ク
ケ	コ	セ	ソ	タ	チ	ツ
テ	ト	ナ	ニ	ノ	ハ	ヒ
フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ
モ	ヤ	ユ	ヨ	ワ	カ	キ
ク	ケ	コ	セ	ソ	タ	チ
ツ	テ	ト	ナ	ニ	ノ	ハ
ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム
メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ワ	カ
キ	ク	ケ	コ	セ	ソ	タ
チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ
ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ワ
カ	キ	ク	ケ	コ	セ	ソ
タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ
ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ
ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ
ワ	カ	キ	ク	ケ	コ	セ
ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ
ニ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ
ヨ	ワ	カ	キ	ク	ケ	コ
セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
ナ	ニ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ
ホ	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ
ユ	ヨ	ワ	カ	キ	ク	ケ
コ	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ
ト	ナ	ニ	ノ	ハ	ヒ	フ
ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ	ユ	ヨ	ワ	カ	キ	ク
ケ	コ	セ	ソ	タ	チ	ツ
テ	ト	ナ	ニ	ノ	ハ	ヒ
フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ
モ	ヤ	ユ	ヨ	ワ	カ	キ
ク	ケ	コ	セ	ソ	タ	チ
ツ	テ	ト	ナ	ニ	ノ	ハ
ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム
メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ワ	カ
キ	ク	ケ	コ	セ	ソ	タ
チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ
ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ワ
カ	キ	ク	ケ	コ	セ	ソ
タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ
ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ
ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ
ワ	カ	キ	ク	ケ	コ	セ
ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ
ニ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ
ヨ	ワ	カ	キ	ク	ケ	コ
セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
ナ	ニ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ
ホ	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ
ユ	ヨ	ワ	カ	キ	ク	ケ
コ	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ
ト	ナ	ニ	ノ	ハ	ヒ	フ
ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ	ユ	ヨ	ワ	カ	キ	ク
ケ	コ	セ	ソ	タ	チ	ツ
テ	ト	ナ	ニ	ノ	ハ	ヒ
フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ
モ	ヤ	ユ	ヨ	ワ	カ	キ
ク	ケ	コ	セ	ソ	タ	チ
ツ	テ	ト	ナ	ニ	ノ	ハ
ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム
メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ワ	カ
キ	ク	ケ	コ	セ	ソ	タ
チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ
ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ワ
カ	キ	ク	ケ	コ	セ	ソ

トラックセレクト [14-5 TrackSel] (ディスクの再生トラック選択)

XGやGMの曲を再生する際、CLP-911/711本体で再生する2つのトラックを任意に選びます。

・「XG」「GM」...

「データの互換性について」(P98)をご参照ください。

・こんなときにお使いください...

- ・3トラック以上使っているディスクの曲の、1、2トラック以外のトラックを本体で再生したい場合
- ・ディスクの曲の全トラックをMIDI送信して全トラックのデータを外部音源モジュールで再生したい場合

本体で再生するトラックとMIDI送信するトラックについて...

CLP-911/711本体では2トラック分のデータだけ再生されません。3トラック以上使っている演奏データを再生する場合も本体では2トラック分(通常は1、2トラック)だけ再生します。それ以外のトラックのデータはMIDI送信されますので、外部音源モジュール(再生する演奏データの音色配列に対応しているもの)をMIDI接続して全トラックのデータを再生することもできます。(本体で再生するトラックのデータはMIDI送信されません。)

また、XGやGMの曲を再生する際、ここで本体の再生トラックを2つともOFFにすることもでき、この場合は全トラックのデータがMIDI送信されますので、全トラックのデータを外部音源モジュールで再生することができます。

(「音源モジュール」(MU50など)とつないでDOCを楽しむ)(P96)もご覧ください。)

操作

ディスクファンクション イエス
[F14.DiskFunc.YES] ➡【+/YES(+ / イス)】 ➡【・】 ➡

トラックセレクト イエス
⇒ [14-5TrackSel YES] ➡【+/YES(+ / イス)】

【1/R(1トラック/R)】で再生されるディスクの曲のトラックを選ぶことを示します

⇒ [1 ## 2 ## イエス]
[1] [2] [3]

【2/L(2トラック/L)】で再生されるディスクの曲のトラックを選ぶことを示します

➡ [1] 【1/R(1トラック/R)】で再生されるディスクの曲のトラックを選びます。
(項目の点滅を合わせ【-/NO(- / -)】 + / YES(+ / イス) で選びます。)

選択範囲: AT(AUTO:自動) - -(OFF:どのトラックも再生しない) 1~16

基本設定: AT(AUTO:自動)

[2] 【2/L(2トラック/L)】で再生されるディスクの曲のトラックを選びます。

(SONG SELECT(選曲) 【】 で設定位置を合わせ(点滅させ)【-/NO(- / -)】 + / YES(+ / イス) で選びます。)

選択範囲: AT(AUTO:自動) - -(OFF:どのトラックも再生しない) 1~16

基本設定: AT(AUTO:自動)

・AT(AUTO:自動)...

AT(AUTO:自動)では、【1/R(1トラック/R)】にディスクの曲の1トラックが、【2/L(2トラック/L)】にディスクの曲の2トラックが選ばれます。

・- -(OFF):どのトラックも再生しない...

再生トラックを2つともOFFにすると全トラックのデータがMIDI送信されます。全トラックのデータを外部音源モジュールで再生する場合に使います。(OFFに設定されたトラック【1/R(1トラック/R)】 【2/L(2トラック/L)】)のランプは【1/R(1トラック/R)】 【2/L(2トラック/L)】を押しても点灯しません。

ノート 付属の「ピアノソフト紹介ディスク」、別売の「ピアノソフト」「ピアノ・ア・ラ・モード」「ディスクオーケストラ・コレクション(DOC)」のディスク、また「DOCマイレバートリー」(P96 参照)の曲の場合は...

ここでの設定は適用されず、必ず「AT(AUTO:自動)」で再生されます。

(これらの曲を再生した場合でも、ここでの設定が「AT(AUTO:自動)」に切り換わるわけではなく設定そのものは有効です。したがって、他の種類の曲を再生する場合は、ここでの設定が生かされます。)

(「いろいろな種類の演奏データの再生について」(P63) 「音源モジュール」(MU50など)とつないでDOCを楽しむ(P96)も参考にしてください。)

上記(*印)以外のディスクソフトや演奏データの場合の

「AT(AUTO:自動)」での注意...

XG対応の音源モジュールが双方向にMIDI接続されていた場合(CLP-911/711と外部音源モジュール双方のMIDI【OUT】とMIDI【IN】が接続されていた場合) 再生する曲の1または2トラックの音色がピアノ以外であったときは、その音色のトラックは本体で再生されず、MIDI送信されて音源モジュール側で再生されます。

(「音源モジュール」(MU50など)とつないでDOCを楽しむ)(P96)も参考にしてください。)

[3] SONG SELECT(選曲) 【】 で設定位置を合わせ(点滅させ)【+/YES(+ / イス)】で確定します。

⇒ [14-5TrackSel YES] の画面に戻ります。

[14-6 PP.Reg.] (録音データのピアノプレーヤ様式への登録)

・ Reg. = Registration(登録)

CLP-911/711で録音した曲を、YAMAHA「ピアノプレーヤ」(録音/再生装置付きのアコースティックピアノ)で再生できるようにデータ形式を登録します。

【ノート】 2DDディスクで行ってください...

この操作自体は2HDディスクでも2DDディスクでもできますが、ピアノプレーヤでは2HDディスクは再生できません。したがってこの操作は2DDディスクで行ってください。

操作

[F14.DiskFunc.YES] ➡【+/YES(+/ｲﾝ)】 ➡【・】 ➡【?】

➡ [14-6PP.Reg YES] ➡【+/YES(+/ｲﾝ)】

➡ [Song ## NORM N/Y]
[1] [2] [3]

➡ [1] 登録するファイル番号を選びます。
(**SONG SELECT(選曲) 【 X】** で設定位置を合わせ(点滅させ)【-/NO(-/ｲﾝ)】【+/YES(+/ｲﾝ)】で選びます。)

選択範囲: 1 ~ 60

[2] 登録様式を選びます。(再生しようとするピアノプレーヤの機種によって2種類の登録様式があります。)

選択範囲: NORM(= NORMAL)
MX(= MXシリーズ)

- ・ NORM(= NORMAL)
ピアノプレーヤSXシリーズ、RFシリーズ、HG、HQ、HQ Grandで再生するための登録様式です。
- ・ MX(= MXシリーズ)
ピアノプレーヤMXシリーズで再生するための登録様式です。

[3] **SONG SELECT(選曲) 【 X】** で設定位置を合わせ(点滅させ)【+/YES(+/ｲﾝ)】で、登録するファイル番号と登録様式を確定すると共に登録の実行が開始されます。(【-/NO(-/ｲﾝ)】を押すと1つ前の画面に戻ります。)

➡ [Working 1] (実行中の画面)

本体内部での登録の進行状況が1 ~ 100の数字で表示されます。

➡ 登録完了後 [Completed ##] が数秒表示されたあと自動的に [14-6PP.Reg YES] の画面に戻ります。「 ## 」は登録された先のファイル番号を示します。(登録先のファイル番号は空いているファイル番号の中から自動的に選ばれます。任意に指定することはできません。)

・登録前の曲データは...

そのまま残ります。(消されることはありません。)

・ディスクでなく本体メモリーに録音した曲についての注意...

この機能を実行すると本体メモリーに録音した曲は消されますのでご注意ください。
また、本体メモリーに録音した曲をそのままピアノプレーヤ様式へ登録することはできません。本体メモリーに録音した曲をピアノプレーヤ様式へ登録したい場合は、いったんディスクにコピーし、コピーした曲を登録してください。

- ・登録後の曲には追加録音することはできません。
- ・登録後の曲をコピーすることはできません。
- ・登録後の曲をCLP-911/711で再生しても、音が鳴りません。

スタンダードメディアファイル イーシーク
[14-7 SMF ESEQ] (録音データのESEQ)

フォーマットへの変換)

CLP-911/711で録音した曲(SMFフォーマット)をESEQフォーマットへ変換します。CLP-911/711で録音した曲をESEQフォーマットのデータが再生できる機種で再生させたい場合に使います。

- ・音色配列も自動的にXG音色配列からDOC音色配列に変換されます。
- ・「SMF」「ESEQ」「XG音色配列」「DOC音色配列」...
「データの互換性について」(P97)をご参照ください。

・2HDディスクと2DDディスク...

この操作自体は2HDディスクでも2DDディスクでもできますが、変換して再生させたい機種で2HDディスクが再生できない場合があります。そのことを確認して使用するディスクの種類を選んでください。

操作

[F14.DiskFunc.YES] ➡【+/YES(+/ｲﾝ)】 ➡【・】 ➡【?】

➡ [14-7SMF ESEQ YES] ➡【+/YES(+/ｲﾝ)】

➡ [##:***** N/Y]
[1] [2]

変換するファイル名が表示されます

➡ [1] 変換するファイル番号を選びます。
(**SONG SELECT(選曲) 【 X】** で設定位置を合わせ(点滅させ)【-/NO(-/ｲﾝ)】【+/YES(+/ｲﾝ)】で選びます。)

選択範囲: 1 ~ 60

[2] **SONG SELECT(選曲) 【 X】** で設定位置を合わせ(点滅させ)【+/YES(+/ｲﾝ)】で、変換するファイル番号を確定すると共に変換の実行が開始されます。(【-/NO(-/ｲﾝ)】を押すと1つ前の画面に戻ります。)

➡ [Working 1] (実行中の画面)

本体内部での変換の進行状況が1 ~ 100の数字で表示されます。

⇒ 登録完了後 ^{コンプリート} Completed ## が数秒表示されたあと自動的に ^{スタンダードメディアファイル} 14-7SMF ^{イーシーク イエス} ESEQ YES の画面に戻ります。「##」は変換された先のファイル番号を示します。(変換先のファイル番号は空いているファイル番号の中から自動的に選ばれます。任意に指定することはできません。)

・変換前の曲データは...

そのまま残ります。(消されることはありません。)

・ディスクでなく本体メモリーに録音した曲についての注意...

この機能を実行すると本体メモリーに録音した曲は消されますのでご注意ください。
また、本体メモリーに録音した曲をそのまま変換することはできません。本体メモリーに録音した曲を変換したい場合は、いったんディスクにコピーし、コピーした曲を変換してください。

・変換後の曲には追加録音することはできません。

・変換後の曲をコピーすることはできません。

・変換後の曲はCLP-911/711でも再生できます。

・CLP-911/711本体で作成した曲をCVP-50/70/55/65/75、DOM-30で再生させたい場合は、以下の手順でESEQフォーマットへの変換を行ってください。

新しいディスクを用意し、CLP-911/711でフォーマットする。(P65)

CVP-50/70/55/65/75、DOM-30で再生させたい曲をフォーマットしたディスクにコピーする。(P83)
(コピー先の曲番号を選択する際には、空き番号を作らないように若い番号からつけてください。)

コピーしたディスクをCLP-911/711に差し込み、ESEQ変換を行う。

この手順で変換した場合、CVP-50/70/55/65/75、DOM-30では、曲ファイルとして認識される2つの管理ファイルが新たに作成されるため、変換された曲の曲番号はCLP-911/711本体で表示される番号に2を足したものになります。

^{セットアップデータ} [14-8 SetupDat] (セットアップデータの保存と再現)

・セットアップデータとは...

CLP-911/711のパネルの設定状態一式のデータです。その内容は、「MIDIデータフォーマット」のP102に掲載されている内容に加えて、^{キータッチ} [F2.KTune] 鍵盤ごとの音程の微調整で設定したデータです。

CLP-911/711のパネルの設定状態一式のデータをファイルとしてディスクに記録し保存します。保存したデータファイルが必要なときにCLP-911/711本体に読み込み再現します。

・CLP-911/711で記録する場合、1枚のディスクに、曲ファイルとは別に最大60個のセットアップデータのファイルが持てます。

操作

(記録する場合はパネル設定を作ってから ^{セットアップデータ} [14-8 SetupDat] に入ります。)

[F14.DiskFunc.YES] ^{ディスクファンクション イエス} ⇒ 【 + / YES (+ / イス) 】 ⇒ 【 ・ 【 7 】 】

⇒ [14-8SetupDat YES] ^{セットアップデータ イエス} ⇒ 【 + / YES (+ / イス) 】

⇒ [Setup SAVE ^{セットアップセーブ} N/Y または ^{セットアップロード} Setup LOAD N/Y]
[1] [2]

⇒ [1] ファイル操作の種類 (「 ^{セーブ} SAVE (保存) 」か「 ^{ロード} LOAD 」 (読み込み)) を選びます。
(**SONG SELECT (選曲)** 【 **X** 】 で設定位置を合わせ (点滅させ) 【 - / NO (- / ノ) 】 【 + / YES (+ / イス) 】 で選びます。)

[2] **SONG SELECT (選曲)** 【 **X** 】 で設定位置を合わせ (点滅させ) 【 + / YES (+ / イス) 】 で確定します。(【 - / NO (- / ノ) 】 を押すと1つ前の画面に戻ります。)

⇒ [##:***** ^{イニイ} N/Y または]
[1] [2]
「 ^{セーブ} SAVE (保存) または ^{ロード} LOAD (読み込み) するファイル名が表示されます

⇒ [1] 「 ^{セーブ} SAVE (保存) または ^{ロード} LOAD (読み込み) するファイル番号を選びます。
(**SONG SELECT (選曲)** 【 **X** 】 で設定位置を合わせ (点滅させ) 【 - / NO (- / ノ) 】 【 + / YES (+ / イス) 】 で選びます。)
選択範囲: 1 ~ 60

[2] **SONG SELECT (選曲)** 【 **X** 】 で設定位置を合わせ (点滅させ) 【 + / YES (+ / イス) 】 で操作するファイルを確認すると共に「 ^{セーブ} SAVE (保存) または ^{ロード} LOAD (読み込み) の実行が開始されます。
(【 - / NO (- / ノ) 】 を押すと1つ前の画面に戻ります。)

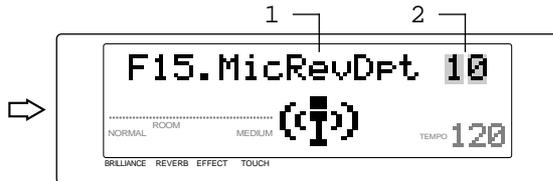
⇒ [Working ^{ワーキング}] 実行中の画面)

⇒ 完了後 ^{コンプリート} Completed が数秒表示されたあと自動的に ^{セットアップデータ イエス} [14-8SetupDat YES] の画面に戻ります。

マイク リバーブデプス 【 F15.MicRevDpt 】(マイクリバーブ の深さの設定)

CLP-911/711の【 MIC. ^{マイク} 】に接続したマイクの入力音にかかるとリバーブの深さを設定します。

- 1 ファンクションモードに入り、大項目【 F15.MicRevDpt ^{マイク リバーブデプス} 】を選びます。



- 2 【 - /NO (- /ノ) 】【 + /YES (+ /イェス) 】で設定します。

選択範囲: 0 ~ 20

基本設定: 10

- ・ リバーブの種類は本体と共通になりますが、リバーブの深さの設定は本体とは連動しません。

バックアップ ^{オン/} 【 F16.Backup 】(バックアップON/ ^{オフ}OFFの設定)

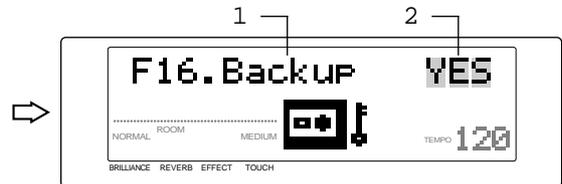
・バックアップとは...

メモリー(CLP-911/711本体内部の記憶装置)に記憶されている内容を電源を切っても消さずに残しておくことを言います。バックアップをONにしておくと、次回電源を入れたときにも前回の設定が有効になります。バックアップをOFFにしておくと、電源をOFFにした時点でメモリーの内容は消され、次回電源を入れたときには基本設定(=工場出荷時の設定)に戻ります。(基本設定一覧表がP100に掲載されています。)

- ・ バックアップの設定をONにしても、電源をOFFにして約1週間以上過ぎると、バックアップされている内容が消え、すべての設定内容が基本設定(=工場出荷時の設定)に戻ってしまいます。したがって、バックアップされている内容を1週間以上保持したい場合は、少なくとも1週間以内に数分間は電源をONにしてください。

機能グループごと(以下の小項目ごと)にバックアップのON/OFFを設定します。

- 1 ファンクションモードに入り、大項目【 F16.Backup ^{バックアップ} 】を選びます。



- 2 【 + /YES (+ /イェス) 】を押して確定し、【 ・ 【 7 】 】で以下の小項目を選び、【 - /NO (- /ノ) 】【 + /YES (+ /イェス) 】で設定します。

小項目

【 16-1 Voice ^{ボイス} 】(音色関連項目のバックアップ設定)

【 16-2 MIDI ^{ミディ} 】(MIDI関連項目のバックアップ設定)

【 16-3 Tune ^{チューニング} 】(音程、音律関連項目のバックアップ設定)

【 16-4 Pedal ^{ペダル} 】(ペダルに関する項目のバックアップ設定)

【 16-5 Display ^{ディスプレイ} 】(画面表示モードのバックアップ設定)

設定範囲: ON/OFF ^{オン/オフ}

基本設定: OFF (すべてのグループ) ^{オフ}

ただし「画面表示言語の設定【 F17.Language ^{ランゲージ} 】(P89) ことでの「バックアップON/OFF ^{オン/オフ}の設定」自体は常にバックアップされます。

・各小項目の内容

[16-1 Voice](音色関連項目のバックアップ設定)

- ・ 音色選択
- ・ デュアルモードのON/OFFと音色
- ・ デュアルの諸設定([F4.DualFunc.]の設定内容)と音色の組み合わせごと)
- ・ スプリットモードのON/OFFと音色
- ・ スプリットの諸設定([F5.SplitFunc.]の設定内容)と音色の組み合わせごと)
- ・ リバーブの種類と深さ
- ・ エフェクトの種類と深さ(音色ごと)
- ・ ブリリアンスの設定
- ・ パリエーションのON/OFF(音色ごと)
- ・ タッチの設定
- ・ 【ORGAN COMBINATION】音色のエディット内容([F6.OrganEdit]の設定内容)
- ・ メトロノームの諸設定([F7.Metronome]の設定内容)
- ・ マイクリバーブの深さの設定([F15.MicRevDpt]の設定内容)

[16-2 MIDI](MIDI関連項目のバックアップ設定)

MIDI機能の諸設定([F13.MIDIFunc.]の設定内容)
(「F13-7 セットアップファイルのMIDI送信」を除く)

[16-3 Tune](音程、音律関連項目のバックアップ設定)

- ・ トランスポーズの設定
- ・ 全鍵盤の音程の微調整([F1.Tune]の設定)
- ・ 鍵盤ごとの音程の微調整([F2.KTune]の設定)
- ・ 音律(調律法)の選択([F3.Scale]の設定)

[16-4 Pedal](ペダルに関する項目のバックアップ設定)

- ・ 左ペダル機能の設定([F9.L.Pedal]の設定)
- ・ ダンパーペダル付加音の深さの設定([F10.DamperDpt]の設定)
- ・ ダンパーペダル効果方式の設定([F11.Damper]の設定)

[16-5 Display](画面表示モードのバックアップ設定)

画面表示モードの選択([F8.Display]の設定内容)

基本設定(工場出荷時の設定)に戻すには...

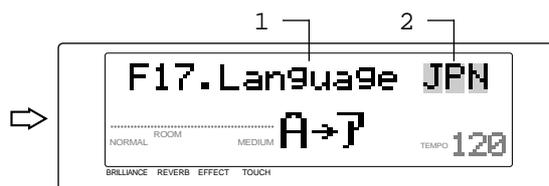
いったん電源をOFFにし、右端の鍵盤(C7)を押したまま電源をONにします。

...この操作でいつでも基本設定(工場出荷時の設定)に戻すことができます。(すべての項目が基本設定に戻ります。)
(基本設定一覧表がP100に掲載されています。)

ランゲージ [F17.Language](画面表示言語の設定)

画面表示の言語(英語か日本語(カタカナ))を切り替えます。

- 1 ファンクションモードに入り大項目 [F17.Language] を選びます。



- 2 【-/NO(・/ノ)】【+/YES(+/イェス)】で設定します。

選択範囲: イングリッシュ ENG(=ENGLISH:英語)
ジャパニーズ JPN(=JAPANESE:日本語)

基本設定: イングリッシュ ENG(=ENGLISH:英語)

- ・ ジャパニーズ JPN(=JAPANESE:日本語)にすると下記の項目が日本語(カタカナ)で表示されます。
 - ・ 音色名
 - ・ デモ曲/ピアノ曲の曲名
 - ・ 各種メッセージ P90参照)

メッセージ一覧

操作中、画面に各種のメッセージ(情報や確認など)が表示されることがあります。ここにまとめてありますので参考にしてください。

ディスクがいっぱい(Disk Full!)

差し込まれているディスクに、これ以上データを入れることができない場合に表示されます。ディスク上にある不要なデータを削除するか、空き容量のある別のディスクを用意してもう一度操作してください。曲の録音中にこのメッセージが表示された場合は、自動的に録音がストップします。(それまでの演奏データは記録されます。)

メモリーがいっぱい(Memory Full!)

CLP-911/711本体のメモリーに録音しているとき、メモリーがいっぱいになってこれ以上録音できなくなったときに表示されます。自動的に録音がストップします。(それまでの演奏データは記録されます。)

フォーマットされていない(Unformatted Disk)

未フォーマットのディスクや異なるフォーマットのディスクを差し込んだときに表示されます。引き続き自動的にフォーマットを行う画面に移行しますので、フォーマットを行ってください。(フォーマットを行うとそれまでディスクに記録されていたデータはすべて消されますのでご注意ください。消されては困る場合はそのディスクを抜き、別のディスクを用意してください。)

- 別ディスクへのコピー(P83)のとき、コピー先のディスクがこのようなディスクだった場合は、このメッセージが表示されたあと、フォーマット画面に移行せず「14-2 FileCopy YES」の画面に戻るだけとなります。この場合は、【**FUNCTION**】右横のボタンで「14-1 Format YES」に戻り、フォーマットしてください。

ディスクがありません(No Disk!)

ディスクを使用する操作のとき、ディスクがCLP-911/711本体のディスクドライブに差し込まれていない場合に表示されます。該当するディスクを差し込んでください。

保護されたディスク(Protected Disk!)

- ディスクのライトプロテクトタブが書き込み禁止の位置になっていることを示しています。ディスクをいったん抜き、書き込み可の位置にしてから再度挿入し、操作してください(P6)。
- ライトプロテクトタブが書き込み可の位置になっていてもこの表示が出る場合は、市販のディスクソフトなどで、データ保護のため内部的にプロテクト(保護)がかかっているディスクです。このようなディスクではフォーマットや録音、コピー(そのディスクから、またはそのディスクへのコピー)削除などができません。

保護された曲(Protected Song!)

他の機器で録音された曲に再録音しようとしたときや、演奏データの種類によってコピーやデータ登録/変換操作ができないときなどに表示されます。別の曲を選び直すか、操作を中止してください。

ヘッドがクリーン(Clean Disk Head!)

CLP-911/711のディスクドライブのヘッドが汚れてきていることを示しています。市販の「乾式ヘッドクリーニングディスク」を使用してディスクヘッドを清掃してください。(P6)

ディスクエラー(Disk Error!)

データのディスクへの書き込み中やディスクからの読み込み中に、データ上のエラーが発生したときに表示されます。もう一度操作し直してください。それでもエラーが起こる場合はディスクが壊れているかディスクドライブユニットの故障が考えられます。ディスクドライブユニットの故障と考えられる場合はお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に修理をご依頼ください。

曲がありません(No Song!)

データのない曲をピアノプレーヤ様式へ登録、ESEQフォーマットへ変換しようとした場合などに表示されます。該当データのある曲を選び直し再操作してください。

ファイルがありません(No File!)

ファイルの削除やセットアップファイルの読み込み時、指定したファイルにデータがなかった場合などに表示されます。該当データのあるファイルを指定し直し再操作してください。

##.ファイルがあります(##.File Exists!)

続きますか? N/Y (Continue? N/Y)

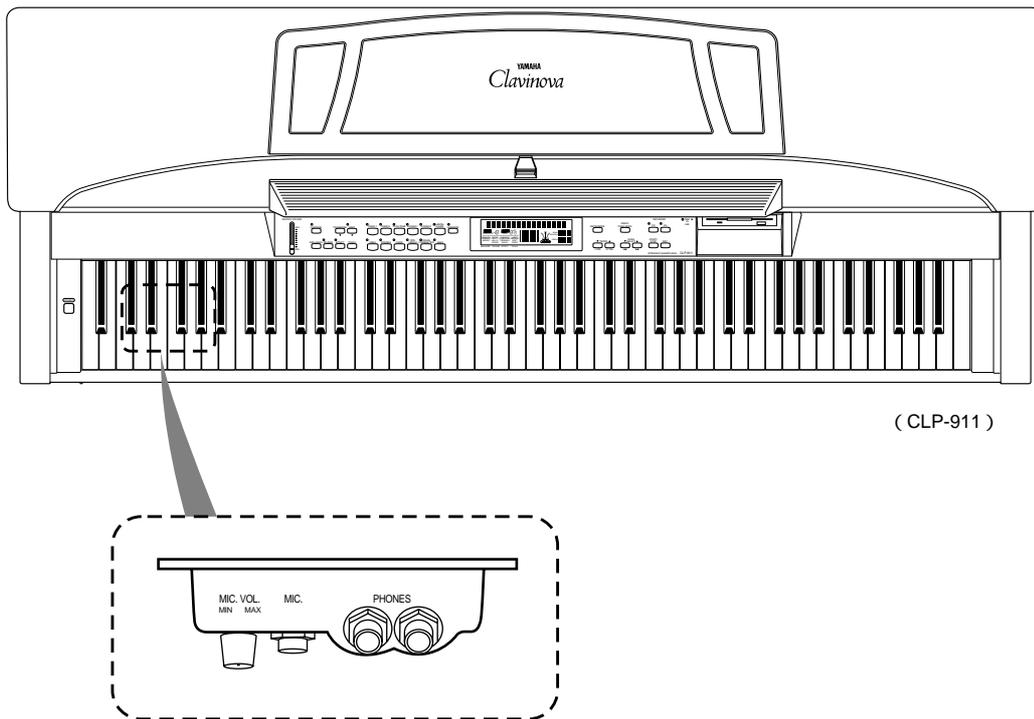
別ディスクへファイルをコピーするとき、コピー先として指定したファイル番号に既にデータがあった場合に表示されます。「##.ファイルがあります(##.File Exists!)」が数秒表示されたあと、自動的に「続きますか? N/Y (Continue? N/Y)」の画面に移行します。ここで、コピーの実行を続ける場合は【+/YES(+ / 是)】を、中止する場合は【-/NO(- / 否)】を押します。(コピーを実行すると、コピー先にそれまであったデータは消されますのでご注意ください。)

KSN NG

FDC NG

これらのメッセージはCLP-911/711の内部に異常があることを示しています。このメッセージが表示された場合は、お買い上げの楽器店か巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に、ご連絡ください。

他の機器と接続する端子



(CLP-911)

マイク ボリューム 【MIC.VOL】つまみと マイク 【MIC.】端子

マイクを接続して弾き語りやカラオケを楽しむことができます。マイクからの入力音はCLP-911/711のスピーカーから鳴ります。

マイクを【マイク MIC.】端子(標準フォン端子)に接続します。

マイク ボリューム ・【MIC.VOL】つまみ

マイクの音量を調節します。

・リバーブについて

CLP-911/711本体と共通のリバーブがかかります。ただし、リバーブの深さは、「ファンクション F15 (P88) で本体とは別に設定します。

フォーンズ 【PHONES】端子

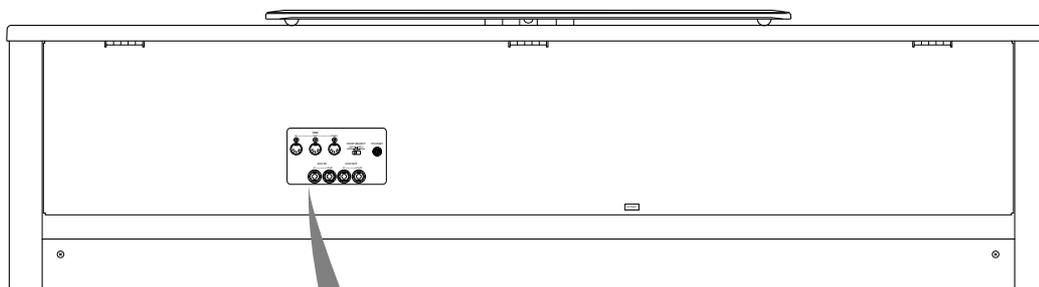
ヘッドフォンを【フォーンズ PHONES】端子(標準ステレオフォン端子)に接続して使います。

ヘッドフォンを接続するとクラピノーバのスピーカーからは音が出ません。

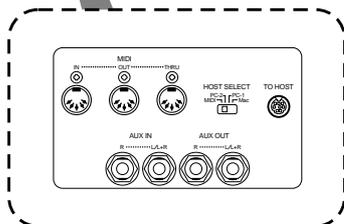
また、【フォーンズ PHONES】端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。

推奨ヘッドフォン...

YAMAHAヘッドフォン HPE-160
(税別価格: 5,500円)



(CLP-911)

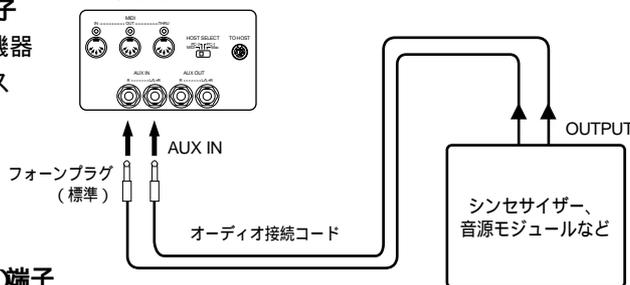


イン AUX IN【R】L/L+R】端子

アウト AUX OUT【R】L/L+R】端子

- **AUX IN【R】L/L+R】端子**
音源モジュールなどの外部機器の音をCLP-911/711本体のスピーカーで鳴らすことができます。オーディオ接続コードを使って図のように接続します。

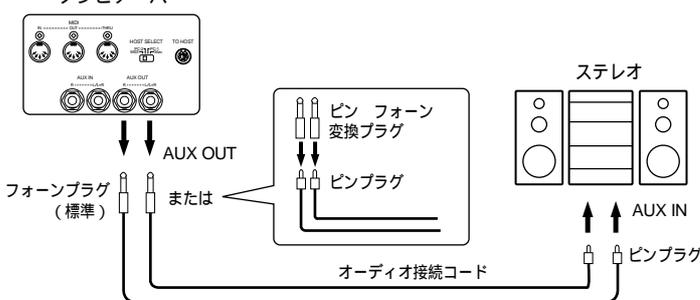
クラビノーバ



- **AUX OUT【R】L/L+R】端子**

CLP-911/711をステレオなどに接続して、より大きな音を出したり、演奏を録音したりできます。オーディオ接続コードを使って図のように接続します。

クラビノーバ



ステレオに接続したときは、CLP-911/711の【MASTER VOLUME】は中程の位置にして、ステレオ側で音量を調節してください。

ミディ イン アウト スルー MIDI【IN】OUT】THRU】端子

MIDI接続専用のケーブルを使って外部MIDI機器と接続します。MIDI端子を使う場合は下記HOST SELECTスイッチを「MIDI」に設定してください。MIDIについての基礎的な解説を「MIDI及びデータの互換性について」(P97)に掲載していますのでご参照ください。

HOST SELECTスイッチと【TO HOST】端子

【TO HOST】端子は...

パーソナルコンピューターに直接接続する端子です。

HOST SELECTスイッチは...

MIDI機器やパーソナルコンピューターを接続する場合に機器やパーソナルコンピューターの種類に応じて切り換えるスイッチです。

詳しくは次項「パーソナルコンピューターとの接続」をご覧ください。

AUX OUT【R】L/L+R】から出力した音を、AUX IN【R】L/L+R】に戻さないでください。(AUX OUT【R】L/L+R】から外部オーディオ機器に接続した場合、その機器から再びCLP-911/711のAUX IN【R】L/L+R】に接続しないでください。) CLP-911/711のAUX IN【R】L/L+R】から入力された音はそのままCLP-911/711のAUX OUT【R】L/L+R】から出力されますので、オーディオ系の発振が起こり、正常な再生がなされないばかりでなく、両機器の故障の原因になります。

オーディオ接続コード及び変換プラグは抵抗のないものをお使いください。

AUX IN【R】L/L+R】からの入力音にはCLP-911/711本体の【MASTER VOLUME】や【REVERB】の設定は効きません。

モノ入力、モノ出力にはAUX IN【L/L+R】、AUX OUT【L/L+R】をご使用ください。

■ パーソナルコンピューターとの接続

パーソナルコンピューター用の音楽ソフトを、CLP-911/711の【^{トゥーホスト}TO HOST】またはMIDI端子とパーソナルコンピューターをつないで楽しむことができます。

・ CLP-911/711を音源として使う場合、CLP-911/711にない音色が使われている演奏データは、正しく再生されません。

CLP-911/711とコンピューターを接続する場合、2つの方法があります。

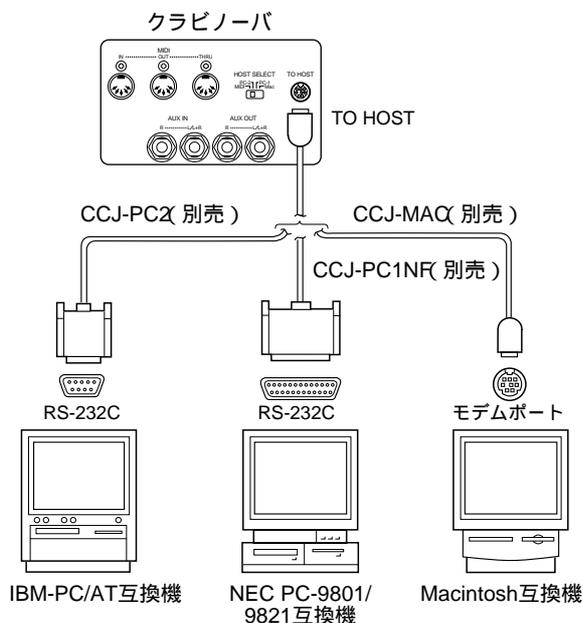
1. CLP-911/711の【^{トゥーホスト}TO HOST】端子を使った接続方法
2. CLP-911/711のMIDI端子を使った接続方法

1. CLP-911/711の【^{トゥーホスト}TO HOST】端子を使った接続方法

コンピューターのシリアルポート(RS-232C端子やRS-422端子)とCLP-911/711の【^{トゥーホスト}TO HOST】端子を接続します。この方法では、CLP-911/711をMIDIインターフェース機器として使用できるため、専用のMIDIインターフェース機器は不要です。

接続方法

コンピューターのシリアルポート(RS-232C端子やRS-422端子)を、専用のシリアルケーブルで、CLP-911/711の【^{トゥーホスト}TO HOST】端子に接続します。



Windows 3.1 / Windows 95をご使用のお客様へ
コンピューターのシリアルポートとCLP-911/711の【^{トゥーホスト}TO HOST】端子を接続して、データのやり取りをするためには、指定のMIDIドライバー(YAMAHA CBX-T3 Serial Driver [Windows 3.1対応] または YAMAHA CBX Driver [Windows 95対応])をコンピューターにインストールする必要があります。

MIDIドライバーについては、巻末の「クラビノーバインフォメーションセンター」にお問い合わせください。

Windows 95対応のドライバーは、インターネットのヤマハホームページ(XGライブラリー <http://www.yamaha.co.jp/xg/L/tools/tooltop.html>)から、ダウンロードして直接入手することもできます。

接続するシリアルケーブルの種類

接続するコンピューターの種類に合わせて、下記のシリアルケーブルを使用してください。

- ・ Macintosh互換機: YAMAHA CCJ-Mac、または同等品
- ・ NEC PC-9801/9821互換機: YAMAHA CCJ-PC1NF、または同等品
- ・ IBM-PC/AT互換機: YAMAHA CCJ-PC2、または同等品
- ・ パーソナルコンピューターによっては上記にあてはまらない場合もありますので、各シリアルケーブルの内部配線図(P94)とパーソナルコンピューターの端子形状によりご判断ください。

CLP-911/711リアパネルのHOST SELECTスイッチの設定

接続するパーソナルコンピューターの種類によって、CLP-911/711リアパネルのHOST SELECTスイッチを切り換えます。

- ・ Macintosh互換機:
【Mac】(ボーレート=31,250bps、1MHzのクロックを使用)
- ・ NEC PC-9801/9821互換機:
YAMAHA CBX-T3 Serial Driver (Windows 3.1対応)をお使いの場合
【PC-1】(ボーレート=31,250bps)
YAMAHA CBX Driver (Windows 95対応)をお使いの場合
【PC-2】(ボーレート=38,400bps)
- ・ IBM-PC/AT互換機:
【PC-2】(ボーレート=38,400bps)

【ノート】 CLP-911/711の【^{トゥーホスト}TO HOST】端子を使用する場合は、最初に、CLP-911/711とコンピューターの電源を切った状態でケーブルを接続し、その後コンピューター CLP-911/711の順番で、電源を入れてください。

【ノート】 CLP-911/711の【^{トゥーホスト}TO HOST】端子を使用しない場合は、必ず【^{トゥーホスト}TO HOST】端子からケーブルを抜いてください。ケーブルを接続したままだと、CLP-911/711が正常に動作しないことがあります。

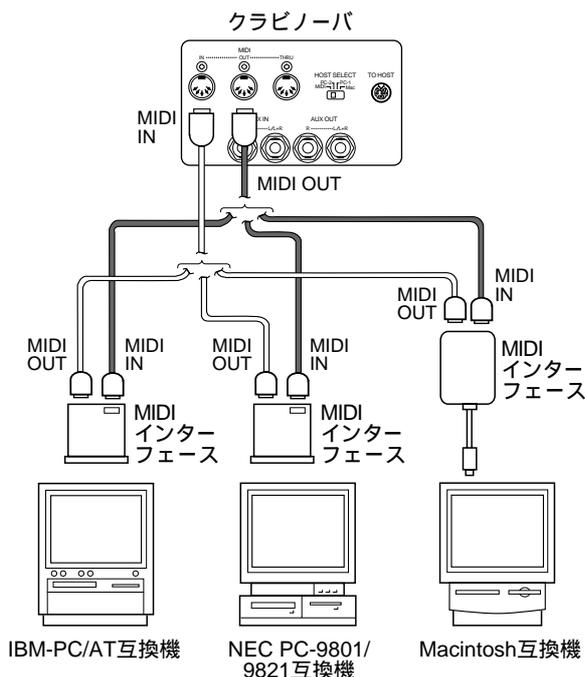
【ノート】 使用するソフトウェアの種類によって、上記の設定では動作しないものがあります。お使いになるソフトウェアの取扱説明書をよく読んで、適合するボーレートの位置にHOST SELECTスイッチを設定してください。

【ノート】 HOST SELECTスイッチを【PC-2】【PC-1】【Mac】に設定しているときは、【^{トゥーホスト}TO HOST】端子が使えますが、MIDI端子(【IN】【OUT】【THRU】共)は使えません。(MIDIデータを送受信しません。)逆に、HOST SELECTスイッチを【MIDI】に設定しているときは、MIDI端子(【IN】【OUT】【THRU】共)が使えますが、【^{トゥーホスト}TO HOST】端子は使えません。(データを送受信しません。)

2. CLP-911/711のMIDI端子を使った接続方法

接続方法

MIDIインターフェイス機器を通じてCLP-911/711のMIDI端子に接続します。専用のMIDIケーブルを使います。



CLP-911/711リアパネルのHOST SELECTスイッチの設定

CLP-911/711リアパネルのHOST SELECTスイッチを【MIDI】に設定します。

【ノート】 HOST SELECTスイッチを【MIDI】に設定しているときは、MIDI端子(【IN】【OUT】【THRU】共)が使えますが、【TO HOST】端子は使えません。(データを送受信しません。)
逆に、HOST SELECTスイッチを【PC-2】【PC-1】【Mac】に設定しているときは、【TO HOST】端子が使えますが、MIDI端子(【IN】【OUT】【THRU】共)は使えません。(MIDIデータを送受信しません。)

シリアルケーブルの内部配線図

Macintosh互換機用

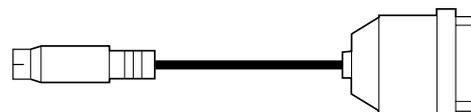
システムベリフェラル 8ケーブル(YAMAHA CCJ-MACまたは同等品)



8-PIN	1 ○	○ 2 (HSK i)	8-PIN
ミニDIN	2 ○	○ 1 (HSK O)	ミニDIN
	3 ○	○ 5 (RxD-)	
	4 ○	○ 4 (GND)	
	5 ○	○ 3 (TxD-)	
	6 ○	○ 8 (RxD+)	
	7 ○	○ 7 (GP-)	
	8 ○	○ 6 (TxD+)	

NEC PC-9801/9821互換機用

8ピンミニDIN D-SUB 25ピンケーブル(YAMAHA CCJ-PC1NFまたは同等品)



8-PIN	1 ○	○ 5 (CTS)	D-SUB
ミニDIN	2 ○	○ 4 (RTS)	25ピン
	3 ○	○ 3 (RxD)	
	4 ○	○ 7 (GND)	
	8 ○	○ 6 (TxD)	
	5 ○	○ 2 (TxD)	

IBM-PC/AT互換機用

8ピンミニDIN D-SUB 9ピンケーブル(YAMAHA CCJ-PC2または同等品)



8-PIN	1 ○	○ 8 (CTS)	D-SUB
ミニDIN	2 ○	○ 7 (RTS)	9ピン
	3 ○	○ 2 (RxD)	
	4 ○	○ 5 (GND)	
	8 ○	○ 6 (TxD)	
	5 ○	○ 3 (TxD)	

プラグのピン番号

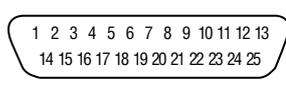
各プラグのピン番号は下記のとおりです。

オモテから見たピン番号

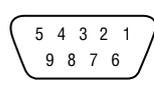
MINI DIN
8-PIN



D-SUB
25-PIN



D-SUB
9-PIN



- パーソナルコンピュータによっては上記にあてはまらない場合もありますので上記各シリアルケーブルの内部配線図とパーソナルコンピュータの端子形状によりご判断ください。

Macintoshはアップルコンピュータ株式会社の商標です。

PC-9801/9821は日本電気株式会社の商標です。

IBM-PC/ATは、インターナショナルビジネスマシーン株式会社の商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名及び商品名等は、各社の登録商標及び商標です。

付 録

CLP-911/711を音源モジュールとつないで楽しむ方法、その他の資料を掲載しています。

音源モジュール(MU50など)とつないでDOCを楽しむ	P 96
MIDI及びデータの互換性について	P 97
本体だけで再生できる別売ディスクソフトのご紹介	P 98
音色のご紹介	P 99
デモ曲/ピアノ曲 曲名一覧表	P 99
基本設定一覧表	P 100
MIDIデータフォーマット	P 101
MIDIインプリメンテーションチャート	P 104
別売品のご紹介	P 105
仕様	P 105
CLP-911の組み立て方	P 106
CLP-711の組み立て方	P 108
故障かな? と思ったら	P 110
索引	P 111
メモ	P 112
保証とアフターサービス	P 113

音源モジュール(MU50など)とつないでDOCを楽しむ

「いろいろな種類の演奏データの再生について」(P63)で紹介しているように、CLP-911/711でディスクソフトを再生する際、CLP-911/711本体では2トラック分だけを再生します。

3トラック以上使っているディスクソフトの場合、CLP-911/711で再生されないトラックのデータがMIDI送信されますので、外部音源モジュール(YAMAHA MU50など)をMIDI接続すると、全トラックを再生することができます。

ここではその代表的な例として「CLP-911/711と音源モジュールMU50を接続して「ディスクオーケストラ・コレクション(DOC)」ソフトを楽しむ方法」を紹介します。(CLP-911/711とMU50を接続すると、「いろいろな種類の演奏データの再生について」(P63、64)で紹介している他のディスクソフトもほぼ同じ方法で再生できます。)

・「ディスクオーケストラ・コレクション(DOC)」とは...

メインのピアノ演奏パートと多音色のバックアンサンブルパートから成る演奏データソフトです。鑑賞するだけでなく、アンサンブルパートをバックにピアノパートをご自身で演奏して楽しむこともできます。

さらに、「右手パート/左手パートを別々に練習」したり、「曲の一部(フレーズ)だけを繰り返し再生/練習」したりすることもできます。(P61、62)

・MU50とは...

「XG音色配列」、「GMシステムレベル1音色配列」、「DOC音色配列」に対応したYAMAHAの音源モジュールです。

CLP-911/711と接続して、CLP-911/711にない音色で演奏したり、多音色のディスクソフトを再生したりするのに最適です。(税別価格:52,000円)

CLP-911/711と音源モジュールMU50を接続してディスクオーケストラ・コレクション(DOC)ソフトを楽しむ方法

以下については、MU50の取扱説明書も併せてご参照ください。(特にMU50を工場出荷時の設定から変えている場合)

接続方法(MIDI接続とオーディオ接続)

CLP-911/711とMU50の電源をOFFにしてから接続してください。

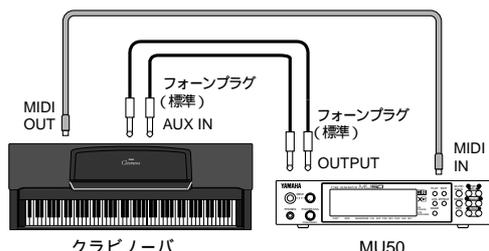
MIDI接続

MIDIケーブルを使ってCLP-911/711のMIDI【OUT】からMU50のMIDI【IN】へ接続します。

このとき、CLP-911/711とMU50双方のリアパネルにあるHOST SELECTスイッチを【MIDI】に設定します。

オーディオ接続

オーディオケーブルを使ってMU50のOUTPUT【R】L/MONO】からCLP-911/711のAUX IN【R】L/L+R】へ接続します。



準備

MU50の準備

- ・電源をONにします。
- ・諸設定を工場出荷時の設定から変えている場合は、工場出荷時の設定に戻します。

CLP-911/711の準備

- ・電源をONにします。
- ・DOCのディスクを入れます。

DOCの再生

CLP-911/711の通常の再生操作で再生します。(P60~P62)

CLP-911/711本体の音源で1、2トラックが再生され、MU50で他のすべてのトラックが再生されます。

再生しながらCLP-911/711とMU50の音量を調節してください。

「DOCマイレパートリー」

ディスクオーケストラ・コレクション(DOC)の曲のバックアンサンブルパートだけをコピーし、メインのピアノパートをご自身で演奏/録音することができます。こうして作った曲を「DOCマイレパートリー」と呼んでいます。「DOCマイレパートリー」も上記の方法で再生できます。

「DOCマイレパートリー」の作り方

1 DOCの曲のバックアンサンブルのパート(=1、2トラック以外のトラック)を、ファンクション「F14DiskFunc」(ディスクを使う操作と設定)の中の「14.2 FileCopy」(曲ファイル、セットアップファイルのコピー)(P83)の通常の操作で、別ディスクにコピーします。(右手/左手パート(1、2トラック)は自動的にはずしてコピーされます。)

- ・一度コピーしたディスクをさらに別のディスクにコピーすることはできません。)
- ・DOCの曲の全トラックをコピーすることはできません。

2 コピーしたディスクオーケストラ・コレクションのデータの右手/左手パート(1、2トラック)にご自身の演奏を録音します。(MU50と接続していればバックアンサンブルパートをMU50で再生させながら、録音することができます。)

他のディスクソフトや演奏データの再生...

CLP-911/711とMU50などを上記とほぼ同様に接続、操作して再生することができます。(外部音源モジュールは、再生するディスクや演奏データの音色配列に対応しているものをお使いください。また、接続、操作については外部音源モジュールの取扱説明書もご参照ください。)

ただし、MIDI接続については、CLP-911/711と外部音源モジュールのMIDI【IN】とMIDI【OUT】を双方向接続してください。

XGやGMの演奏データの場合は、ファンクション「F14DiskFunc」(ディスクを使う操作と設定)の中の「14.5 TrackSel」(ディスクの再生トラック選択)(P85)で、CLP-911/711での再生トラックを任意に設定(=MIDI送信するトラックを任意に設定)することができます。

- ・上記「DOCマイレパートリー」はDOC以外のディスクソフトや演奏データではできません。

MIDI及びデータの互換性について

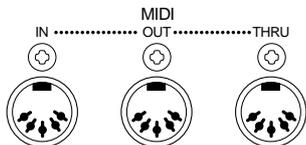
MIDIについての基礎的な解説

MIDI (Musical Instrument Digital Interface) とは、MIDI端子を備えたMIDI機器間で演奏データや命令を送受信しあうための、各種送受信データ様式についての統一規格です。

MIDI機器間でMIDIデータを送受信することにより、外部のMIDI機器の演奏をコントロールしたり、外部のMIDI機器から自機がコントロールされたりすることができます。

- MIDIでは、演奏データや命令をデジタルデータ (数値に置き換えたデータ) で送受信します。
- ただしMIDI機器でも、機種ごとに送受信できるMIDIデータの内容が同じではないため、接続しているMIDI機器間で共通に扱えるデータや命令だけが送受信できることになります。共通に扱えるデータや命令は、各機種の「MIDIインプリメンテーションチャート」を照合して調べることができます。CLP-911/711のMIDIインプリメンテーションチャートはP104に掲載されています。

MIDI端子



- MIDI【IN】:** MIDIデータを受信する端子です。
- MIDI【OUT】:** MIDIデータを送信する端子です。
- MIDI【THRU】:** MIDI【IN】から入ってきたデータをそのまま送信する端子です。

MIDIケーブル

専用のMIDIケーブルをご用意ください。

- 「音源モジュール (MU50など) とつないでDOCを楽しむ (P96)」で紹介したMIDI接続例も参考にしてください。
- ファンクションF13. MIDI Func. (P80, 81) で各種のMIDI設定が行えます。
- MIDIについての詳しい知識は、各種の音楽雑誌や書籍で得ることができます。

データの互換性について

ここでは、各種演奏データの互換性 (CLP-911/711で録音したデータを他のMIDI機器で再生できるかどうか、あるいはその逆、など) について考える上での一般的な基礎知識の一端をご紹介します。

実際は、再生できる場合でも、そのまま再生できる場合、再生するためにいくつかの特殊な作業が必要となる場合など、再生するMIDI機器やデータの特性により異なってきますので、事例ごとに、下記を参考にしてお考えください。

基本的な確認項目

下記項目について、演奏データのタイプと、再生するMIDI機器が対応しているタイプが一致していないと再生できません。

- 1 ディスクのフォーマット
- 2 シーケンスフォーマット
- 3 音色配列フォーマット

1 ディスクのフォーマット

フロッピーディスクは、パーソナルコンピューターなどのいろいろな機器で、いろいろなデータの収納場所として使われます。その際、フロッピーディスクのデータの収納方式にはいくつかの種類があるため、その機器で対応している収納方式をフロッピーディスクに最初に指定する必要があります。(たとえば、白い紙に縦書きの線を入れるか横書きの線を入れるかというようなことです。これが「フォーマット (初期化) する」ということです。

- フロッピーディスクにはMF2DD (両面倍密度タイプ) とMF2HD (両面高密度タイプ) というタイプがあり、それぞれのタイプによってもフォーマット形式が異なってきます。
- CLP-911/711では両タイプのフロッピーディスクを使って録音も再生もすることができます。
- CLP-911/711でフロッピーディスクをフォーマットすると、2DDディスクは720KB (キロバイト) 2HDディスクは1.44MB (メガバイト) にフォーマットされます。(「720KB」「1.44MB」はデータの記憶可能容量を示す言葉ですが、フォーマットの種類を表すときに、このように言います。)
- 再生したいディスクのフォーマットと、再生したいMIDI機器が対応しているディスクのフォーマットが一致していないと、再生できません。

2 シーケンスフォーマット

演奏データを記録する書式のことをシーケンスフォーマットと言います。

- 再生したい演奏データのシーケンスフォーマットと、再生したいMIDI機器が対応しているシーケンスフォーマットが一致していないと、再生できません。

主なシーケンスフォーマットを紹介します。

SMF (エスエムエフ)

代表的なシーケンスフォーマットの1つです。

- SMFには「フォーマット0 (ゼロ)」と「フォーマット1」の2種類あります。
- 多くのMIDI機器が「SMFフォーマット0 (ゼロ)」に対応しています。また、市販のディスクソフトの多くが「SMFフォーマット0 (ゼロ)」で作られています。
- CLP-911/711は「SMFフォーマット0 (ゼロ)」に対応していますが、再生できるのは2トラック分だけです。それ以上のトラックを使っている演奏データの場合は、CLP-911/711で再生されないトラックのデータがMIDI送信されますので、外部音源モジュール (MU50など) を接続すると、全トラックを再生することができます。(CLP-911/711は、「SMFフォーマット1」には対応していません。)
- CLP-911/711で録音した演奏データは「SMFフォーマット0 (ゼロ)」になります。

ESEQ (イーシーク)

ヤマハの多くのMIDI機器で対応しているシーケンスフォーマットです。ヤマハの別売ディスクソフトの多くも「ESEQ」で作られています。

- CLP-911/711は「ESEQ」に対応しています。

CLP-911/711で録音した演奏データは「SMFフォーマット0 (ゼロ)」になりますが、「ファンクションF14-7 (P86) で「ESEQ」に変換することもできます。

3 音色配列フォーマット

MIDIでは音色を番号で指定します。(プログラムナンバーと書いています。)その番号の付け方(音色を並べる順番)の規格を「音色配列フォーマット」と言います。

- 再生したい演奏データの音色配列フォーマットと、再生したいMIDI機器が対応している音色配列フォーマットが一致していないと、音色が正しく再生されません。

主な音色配列フォーマットを紹介します。

GMシステムレベル1 音色配列

代表的な音色配列フォーマットの1つです。

- 多くのMIDI機器が「GMシステムレベル1音色配列」に対応しています。また、市販のディスクソフトの多くが「GMシステムレベル1音色配列」で作られています。
- CLP-911/711は「GMシステムレベル1音色配列」に対応していますが、CLP-911/711が持っている音色はその一部ですので、持っていない音色が使われている演奏データは、正しく再生されません。

XG 音色配列

「GMシステムレベル1音色配列」をさらに拡張し、豊かな表現力とデータの継続性を可能にしたヤマハの音源フォーマットの音色配列です。

- CLP-911/711は「XG音色配列」に対応していますが、CLP-911/711が持っている音色はその一部ですので、持っていない音色が使われている演奏データは、正しく再生されません。
- CLP-911/711で録音した演奏データは「XG音色配列」になります。

DOC音色配列

クラビノーバをはじめとするヤマハの多くのMIDI機器で対応している音色配列です。ヤマハの別売ディスクソフト「ディスクオーケストラコレクション(DOC)」などで使われています。

- CLP-911/711は「DOC音色配列」に対応していますが、CLP-911/711が持っている音色はその一部ですので、持っていない音色が使われている演奏データは、正しく再生されません。CLP-911/711で録音した演奏データは「XG音色配列」になりますが、「ファンクションF14-7(P86)」で「DOC音色配列」に変換することもできます。

【ノート】ファイルタイプについて...

パーソナルコンピューターやMIDI機器で、「あるデータのまとまりを1つの単位として保存したもの」を「ファイル」と言います。

たとえば、コンピューターやワープロで作成した文書のことを「文書ファイル」とか「テキストファイル」と呼びます。同様にパーソナルコンピューターや電子楽器を使って作られた演奏データを「ソングファイル」、「MIDIファイル」などと呼びます。

ここで注意する必要があるのは、「同じ演奏データのファイルでも、機器により、ファイルタイプの認識のしかたが異なる場合がある。」ということです。このような場合、他機器と互換使用するためには、「ファイルタイプの変換作業」が必要になります。

【ノート】上記を満たしていても、機器の仕様や、演奏データの特殊な作り方により、完全な互換性が実現できない場合もあります。

【ノート】「いろいろな種類の演奏データの再生について」(P63)もご覧ください。

【ノート】次項で「本体だけで再生できる別売ディスクソフトのご紹介」を掲載しています。

本体だけで再生できる別売ディスクソフトのご紹介

ピアノソフト(旧称ピアノプレーヤーソフト)

(発売元:(株)ヤマハミュージックメディア)

ピアノ演奏のリスニングソフト

内外の一流ピアニストの演奏が収録されています。お手本にもなる正統派の演奏から、華麗なるアレンジによる演奏までお楽しみいただけます。

多彩なジャンルと豊富な曲数

クラシック、ジャズ、ポピュラー、ミュージックスタディ、カラオケ、BGMの6シリーズにわたる多彩なジャンル、豊富な曲数の中から選べます。

各巻¥3,500(税込)

ピアノ・ア・ラ・モード

(発売元:(株)ヤマハミュージックメディア)

独習ソフト

ピアノによるサポート演奏データをバックに独習ができます。日本のポップスやポピュラーの人気曲を収録しています。

お求めやすい価格

2~3曲入りでお安く買えるのがうれしいですね。

- 多音色のデータも入っていますが、CLP-911/711では再生されません。
- 各巻¥1,800~¥1,815(税込)

* 上記(株)ヤマハミュージックメディア発売のソフトについてのお問い合わせは、お買い上げ店または下記までご連絡ください。

(株)ヤマハミュージックメディア

〒150 東京都渋谷区桜丘町8-27 TEL: 03-3462-6212(代表)

XGソングデータライブラリー クラシックコレクション 「ピアノ名曲アルバム」など

(発売元:ヤマハ株式会社)

ピアノの名曲を収録したXG音源対応ソフト

【ノート】ピアノ以外の音色を使用しているデータを再生する場合は、CLP-911/711本体のほかにXG音源モジュール(MU50など)が必要です。「音源モジュール MU50など」とつないでDOCを楽しむ(P96)をお読みください。

各巻¥2,500(税込)

音色のご紹介

PIANO1 (ピアノ1)



豊かに広がるグランドピアノの音。
クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。

PIANO2 (ピアノ2)



明るく張りのあるピアノの音。
ポピュラー音楽によく合います。

CLAVI. TONE (クラビノーバトーン)



クラビノーバのオリジナル音色。
タッチにより色々な表情を見せる多彩な可能性を秘めた新しい音です。

E. PIANO1 (エレクトリックピアノ1)



シンセサイザー-DXのエレピの音。
弾いた瞬間の金属的な固い音が特徴的です。

E. PIANO2 (エレクトリックピアノ2)



やわらかな音色のエレピの音。
強く弾くと芯のある音がします。

HARPSICHORD (ハーpsiコード)



バロック音楽などでよく使われる楽器「ハーpsiコード」の音。
「チェンバロ」ともいいます。

VIBES (バイブ)



鉄琴の一種、ビブラフォンの音。
ジャズなどでよく使われます。

STRINGS (ストリングス)



大編成弦楽器アンサンプルの音。
ピアノ音色との相性はピッタリです。

CHOIR (クワイア)



コーラス(合唱)の音。
和音で弾けば大合唱になります。

PIPE ORGAN (パイプオルガン)



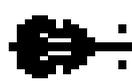
重厚なフルパイプオルガンの音。
【**VARIATION**】を押すと賛美歌の伴奏などに使われる音色になります。

ORGAN COMBINATION (オルガンコンビネーション)



ジャズオルガンの音。
【**FUNCTION**】6の[OrganEdit]機能でオリジナルの音色作りもできます。

BASS (ベース) (CLP-911)



アップライトベースの音。
ジャズやラテン音楽など幅広いジャンルの音楽が楽しめます。

デモ曲/ピアノ曲 曲名一覧表

デモ曲

音色名	曲名
PIANO1	バラード第1番ト短調作品23/ F.F.Chopin
PIANO2	霧のレイク・ルイズ/ 倉本裕基
CLAVI. TONE	コンソレーション第3番/ F.Liszt
E. PIANO1	ヤマハオリジナル
E. PIANO2	ヤマハオリジナル
HARPSICHORD	フランス組曲第5番BWV816より「アルマンド」/ J.S.Bach
VIBES	練習曲イ短調 作品70/ G.Pfeiffer
STRINGS	愛のあいさつ 作品12/ E.Elgar
CHOIR	ケンタッキーのわが家/ S.C.Foster
PIPE ORGAN	8つの小さな前奏曲とフーガBWV553-560より「前奏曲第1番八長調」/ J.S.Bach
ORGAN COMBINATION	ヤマハオリジナル
BASS (CLP-911)	グリーンスリーブス/ イギリス民謡

ピアノ30曲

曲番号	曲名	参考楽譜
1.	エリーゼのために/ L.V.Beethoven	ヘンレ版 ベートーベンピアノ作品集
2.	人形の夢と目覚め/ T.Oesten	全音楽譜出版社 ピアノピース
3.	花の歌/ G.Lange	全音楽譜出版社 ピアノライブラリー ランゲピアノアルバム
4.	トルコ行進曲/ W.A.Mozart	ペーターズ版 モーツァルトピアノソナタ集2
5.	小犬のワルツ/ F.F.Chopin	ヘンレ版 ショパンワルツ集
6.	トルコ行進曲/ L.V.Beethoven	全音楽譜出版社 ピアノ名曲選集 上巻
7.	紡ぎうた/ A.Ellmenreich	全音楽譜出版社 ピアノピース
8.	アルプスの夕映え/ T.Oesten	全音楽譜出版社 ピアノピース
9.	バウムクーヘン/ A.Yuyama	全音楽譜出版社 ピアノ曲集 お菓子の世界
10.	渚のアデリーヌ/ P.D.Senneville	ヤマハオリジナルアレンジ
11.	荒野のバラ/ G.Lange	全音楽譜出版社 ピアノライブラリー ランゲピアノアルバム
12.	貴婦人の乗馬/ J.F.F.Burgmüller	全音楽譜出版 ピアノライブラリー ブルグミュラー25の練習曲
13.	メヌエット/ J.S.Bach	ヘンレ版 アンナ・マグダレーナ・バッハの ためのクラヴィア小曲集
14.	トルコ風ロンド/ J.F.F.Burgmüller	全音楽譜出版社 ピアノピース
15.	ソナチネ第1楽章/ W.Gillock	全音楽譜出版社 ピアノライブラリー ギロック子どものためのアルバム

曲番号	曲名	参考楽譜
16.	エチュード・アレグロ/ Y.Nakada	音楽之友社 子どものピアノ曲集
17.	アンブロンブチュ op.90-2/ F.P.Schubert	ヘンレ版 シューベルト即興曲集
18.	ワルツ op.64-2/ F.F.Chopin	ヘンレ版 ショパンワルツ集
19.	ノクターン op.9-2/ F.F.Chopin	ヘンレ版 ショパンノクターン集
20.	ソナタK.545 第1楽章/ W.A.Mozart	ペーターズ版 モーツァルトピアノソナタ集2
21.	アラベスク1/ C.A.Debussy	ヘンレ版 ドビュッシー2つのアラベスク
22.	乙女の祈り/ T.Badarzewska	全音楽譜出版社 ピアノピース
23.	春の歌/ J.L.F.Mendelssohn	ヘンレ版 メンデルスゾーン無言歌集
24.	すみれ/ L.Streabbog	ドレミ楽譜出版社 ストリーボックピアノ小品集
25.	ル・ローヌ/ K.Hattori	東京音楽書院 服部克久作品集
26.	アラベスク/ J.F.F.Burgmüller	全音楽譜出版 ピアノライブラリー ブルグミュラー25の練習曲
27.	エンターティナー/ S.Joplin	ヤマハオリジナルアレンジ
28.	星に願いを/ L.Harline	ヤマハオリジナルアレンジ
29.	ミッキーマウスマーチ/ J.Dodd	ヤマハオリジナルアレンジ
30.	ホールニューワールド/ A.Menken	ヤマハオリジナルアレンジ

基本設定一覧表

基本設定(=工場出荷時の設定)を一覧にしました。

音色選択	PIANO1
デュアル機能	OFF
スプリット機能	OFF
スプリット第二音色	BASS(CLP-911) STRINGS(CLP-711)
リバーブの種類	ROOM
リバーブの深さ	10
エフェクトの種類	音色ごと
エフェクトの深さ	エフェクトの種類ごと、 音色ごと
プリアンス	NORMAL
トランスポーズ	0
タッチの種類	MEDIUM
タッチがFIXEDのときの音量	64
メトロノーム	OFF
メトロノーム音量	10
テンポ	120

ファンクションモードの設定

F1	チューニング	A3=440Hz
F2	各鍵チューニング チューニングデータ	OFF 全鍵盤0
F3	音律	EQ(平均律)
F4-1	デュアル 音量バランス	音色の組み合わせごと
F4-2	デュアル デチューン	音色の組み合わせごと
F4-3, F4-4	デュアル オクターブ設定	音色の組み合わせごと
F4-5, F4-6	デュアル エフェクトデプス	音色の組み合わせごと
F4-7	デュアル スtringススローアタック	FAST
F5-1	スプリット ポイント	F#2
F5-2	スプリット 音量バランス	音色の組み合わせごと
F5-3, F5-4	スプリット オクターブ設定	音色の組み合わせごと
F5-5, F5-6	スプリット エフェクトの深さ	音色の組み合わせごと
F5-7	スプリット ダンパーペダルの有効域	L+R
F6-1	オルガンの種類の選択	JAZZ ORGAN1
F6-2 ~ 5	オルガンの諸設定	音色ごと
F7-1	メトロノームの拍子	NORMAL(無拍子)
F7-2	メトロノーム音量	10
F8	表示モード	ノーマル
F9	左ペダル機能	ソフトペダル
F10	ダンパーペダル付加音の深さ	10
F11	ダンパーペダル効果方式	8
F12	ピアノ30曲のパート再生OFF時の音量	5
F13-1	MIDI送信チャンネル	1
F13-2	MIDI受信チャンネル	ALL
F13-3	ローカルコントロール	ON
F13-4	プログラムチェンジ送受信	ON
F13-5	コントロールチェンジ送受信	ON
F13-6	MIDIトランスポーズ量	0
F14-5	ディスクの再生トラック選択	AT(オート)
F15	マイクリバーブ	10
F16	バックアップの設定	すべてOFF
F17	画面表示言語	English

MIDIデータフォーマット

1. ノートオン/オフ

[9nH] [kkH] [vvH]

9nH = ノートオン/オフ・イベント(n=チャンネルNo.)

kkH = ノートNo.

(送信: 09H ~ 78H = A-2 ~ C8)

(受信: 00H ~ 7FH = C-2 ~ G8)*1

vvH = ペロシティ

(ノートオン=01H~7FH, ノートオフ=00H)

[8nH] [kkH] [vvH]

8nH = ノートオフ(n=チャンネルNo.)

kkH = ノートNo.(00H~7FH=C-2~G8)

vvH = ペロシティ

*1 ただし音色によって発音可能範囲を超えた場合は、オクターブ単位で折り返して発音します。

2. コントロールチェンジ

[BnH] [ccH] [vvH]

BnH = コントロール・チェンジ(n=チャンネルNo.)

ccH = コントロールNo.

vvH = コントロール値

1) バンク選択

ccH パラメーター 値(vvH)

00H バンク選択MSB 00H: ノーマル

20H バンク選択LSB 00H~7FH

70H プリリアンス: ノーマル バリエーション: オフ

71H ノーマル オン

72H ブライト オフ

73H ブライト オン

74H メロー オフ

75H メロー オン

プログラムチェンジを受信するまで、バンク選択の処理は保留されます。

オルガンコンビネーションには機能しません。

2) メインボリューム(受信のみ)

ccH パラメーター 値(vvH)

07H ボリューム 00H~7FH

3) エクスプレッション

ccH パラメーター 値(vvH)

0BH エクスプレッション 00H~7FH

4) ダンパーペダル

ccH パラメーター 値(vvH)

40H ダンパー 00H~7FH

5) ソステヌートペダル

ccH パラメーター 値(vvH)

42H ソステヌート 00H~3FH: オフ, 40H~7FH: オン)

6) ソフトペダル

ccH パラメーター 値(vvH)

43H ソフトペダル 00H~3FH: オフ, 40H~7FH: オン)

7) アタックタイム

ccH パラメーター 値(vvH)

49H アタックタイム 00H~7FH

8) エフェクト1デプス(リバーブ・センドレベル)

ccH パラメーター 値(vvH)

5BH エフェクト1デプス 00H~7FH

リバーブ・エフェクトに対するセンドレベルを設定します。

9) エフェクト4デプス(バリエーション・エフェクト・センドレベル)

ccH パラメーター 値(vvH)

5EH エフェクト4デプス 00H~7FH

3. モード・メッセージ

[BnH] [ccH] [vvH]

BnH = コントロール・イベント(n=チャンネルNo.)

ccH = モード・メッセージNo.

vvH = モード・メッセージ値

1) オール・サウンド・オフ

ccH コントローラー 値(vvH)

78H オール・サウンド・オフ 00H

該当チャンネルの発音中の音を、すべて消音します。ただし、ノートオンやホールドオンなどのチャンネルメッセージの状態は保持します。

2) リセット・オール・コントローラー

ccH コントローラー 値(vvH)

79H リセット・オール・コントローラー 00H

以下のようにリセットされます。

コントローラー 設定値

エクスプレッション 12%最大)

ダンパーペダル (オフ)

ソステヌート (オフ)

ソフトペダル (オフ)

3) オール・ノート・オフ

ccH コントローラー 値(vvH)

7BH オール・ノート・オフ 00H

該当チャンネルのオンしているノートをすべてオフにします。ただし、ダンパーもしくはソステヌートがオンの場合は、それらがオフになるまで発音は終了しません。

4) オムニ・オフ(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)

7CH オムニ・オフ 00H

オール・ノート・オフを受信したときと同じ動作を行います。

5) オムニ・オン(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)

7DH オムニ・オン 00H

オール・ノート・オフを受信したときと同じ動作を行います。

6) モノ(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)

7EH モノ 00H

オール・サウンド・オフを受信したときと同じ動作を行います。

7) ボリ(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)

7FH ボリ 00H

オール・サウンド・オフを受信したときと同じ動作を行います。

補足

1. FUNCTIONでControl Change ON/OFFがOFFされているときは、コントロールチェンジは送受信されません。
2. ローカル・オン/オフ、オムニ・オン/オフは送信しません。(オール・ノート・オフは、送信時もノート・オフ数を合わせます。)
3. ボイス・バンク(MSB、LSB)受信時は、順番に関係なく受け付けた番号を内部バッファに保存し、プログラムチェンジを受信した時点のバッファ値を用いて実際の音色を決めます。
4. 本機は常にマルチティンバー・モード、ボリ・モードであり、オムニ・オン/オムニ・オフ/モノ/ボリ・モードを受信しても、モードは変わりません。

4. プログラムチェンジ

[CnH] [ppH]

CnH = プログラムチェンジ(n=チャンネルNo.)

ppH = プログラムチェンジNo.

ファンクションでプログラムチェンジ・オン/オフがオフされているときは、プログラムチェンジは送受信されません。

各音色のプログラムチェンジNo.は下記の通りです。

音色	プログラムチェンジNo.
PIANO 1	00H
PIANO 2	01H
CLAVI. TONE	58H
E. PIANO 1	05H
E. PIANO 2	04H
HARPSICHOARD	06H
VIBES	08H
STRINGS	30H
CHOIR	34H
PIPE ORGAN	13H
ORGAN COMBINATION	10H
BAS(CLP-911)	20H

5. システム・リアルタイム・メッセージ

1) アクティブ・センシング

[FEH]

200msecごとに送信します。

一度FEHを受信した後、約400msec以上MIDIからの信号がこない場合は、オール・サウンド・オフ、オール・ノート・オフ、リセット・オール・コントローラーを受信したときと同じ処理をします。

2) クロック

[F8H]

96分タイミングで送信します。

エクスクルーシブ・メッセージでクロックがエクスターナルにセットされた場合に、96分タイミングとして受信します。

3) スタート

[FAH]

リズム・スタート時に送信します。

受信するとソングがスタートします。

4) ストップ

[FCH]

リズム・ストップ時に送信します。

受信するとソングがストップします。

MIDI受信時にエラーが起こったときは、全チャンネルのダンパー、ソステヌート、ソフト効果をオフし、オール・ノート・オフします。

6. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(ヤマハMIDIフォーマット)

[F0H] [43H] [0nH] [7CH] [F7H]

F0H,43H,0nH,7CH : n = チャンネルNo.
01H,36H : データ長
43H,4CH,20H,20H : CL
43H,4CH,50H,27H,39H,36H : CLP'96
30H,30H : (A' - ジョー x.y)

[パネルデータ]
[チェックサム(1バイト)] = 0 - (43H + 4CH + 20H + + データエンド)
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

[パネルデータ詳細]
(1) 音色
(2) デュアル・オン/オフ
(3) デュアル音色
(4) デュアル・バランス
(5) デュアル・デチューン
(6) デュアル・ボイス1・オクターブ
(7) デュアル・ボイス2・オクターブ
(8) デュアル・ボイス1・エフェクト・デプス
(9) デュアル・ボイス2・エフェクト・デプス
(10) デュアル・ストリングス・スロー・アタック・オン/オフ
(11) スプリット・オン/オフ
(12) スプリット音色
(13) スプリット・ポイント
(14) スプリット・バランス
(15) スプリット音色1・オクターブ
(16) スプリット音色2・オクターブ
(17) スプリット音色1・エフェクト・デプス
(18) スプリット音色2・エフェクト・デプス
(19) スプリット・ダンパー・モード
(20) リバーブ・タイプ
(21) リバーブ・デプス
(22) エフェクト・タイプ1
(23) エフェクト・タイプ2
(24) エフェクト・デプス
(25) プリリアンス
(26) バリエーション1・オン/オフ
(27) バリエーション2・オン/オフ
(28) タッチ・センシティビティ
(29) Fixedベロシティ
(30) レフトペダル(ソフト/スタート)
(31) 各鍵ごとの調律モード・オン/オフ
(32) テンポ 絶対値・下位(バイト)
(33) テンポ 絶対値・上位(バイト)
(34) オルガンコンビネーション音色番号
(35)-(51) オルガンコンビネーション・データ1
(52)-(68) オルガンコンビネーション・データ2
(69)-(85) オルガンコンビネーション・データ3
(86)-(102) オルガンコンビネーション・データ4
(103)-(119) オルガンコンビネーション・データ5
(120)-(136) オルガンコンビネーション・データ6
(137)-(153) オルガンコンビネーション・データ7
(154)-(170) オルガンコンビネーション・データ8

パネルデータ送信要求は受信しません。

7. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(ユニバーサル・システム・エクスクルーシブ)

1) ユニバーサル・リアルタイム・メッセージ
[F0H] [7FH] [XnH] [04H] [01H] [11H] [mmH] [F7H]

MIDIマスターボリューム
全チャンネルの音量が一度に変化します。
MIDIマスター・ボリュームを受信したときは、MIDI
入力チャンネルのみに効果があり、パネルのボ
リュームは変化しません。

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
7FH : ユニバーサル・リアルタイム
7FH : ID of target device
04H : サブID #1(機種コントロール・メッセージ)
01H : サブID #2(マスターボリューム)
11H : ボリュームLSB
mmH : ボリュームMSB
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

または

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
7FH : ユニバーサル・リアルタイム
XnH : Xは無視、nは0~Fを受信
04H : サブID #1(機種コントロール・メッセージ)
01H : サブID #2(マスターボリューム)
11H : ボリュームLSB
mmH : ボリュームMSB
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

2) ユニバーサル・ノン・リアルタイム・メッセージ(GM ON)
[F0H] [7EH] [XnH] [09H] [01H] [F7H]

ジェネラルMIDIモード・オン
F0H : エクスクルーシブ・ステータス
7EH : ユニバーサル・ノン・リアルタイム
7FH : ID of target device
09H : サブID #1(ジェネラルMIDIメッセージ)
01H : サブID #2(ジェネラルMIDIオン)
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

または

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
7EH : ユニバーサル・ノン・リアルタイム
XnH : Xは無視、nは0~Fを受信
09H : サブID #1(ジェネラルMIDIメッセージ)
01H : サブID #2(ジェネラルMIDIオン)
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

オンを受信することにより、MIDIがリセットされ
て初期状態になります。このメッセージの実行に
は、約50msecかかるため、次のメッセージとの間隔
を注意してください。

8. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(XG規格)

1) XGネイティブ・パラメーター・チェンジ
[F0H] [43H] [1nH] [4CH] [hhH] [mmH]
[11H] [ddH] [F7H]

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
43H : ヤマハ
1nH : 機種No.
(n = CLPからの送信時は常に0、受信時は0~F)
4CH : XGモデルID
hhH : アドレスHigh
mmH : アドレスMid
11H : アドレスLow
ddH : データ
: :
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

2) バルクダンブ(受信のみ)
[F0H] [43H] [0nH] [4CH] [aaH] [bbH] [hhH]
[mmH] [11H] [ddH] [ccH] [F7H]

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
43H : ヤマハ
0nH : 機種No.
(n = CLPからの送信時は常に0、受信時は0~F)
4CH : XGモデルID
aaH : バイト・カウント
bbH : バイト・カウント
hhH : アドレスHigh
mmH : アドレスMid
11H : アドレスLow
ddH : データ
: :
ccH : チェック・サム
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

XGシステム・オンを受信すると、必要なパラメ
ーター、コントロール・チェンジ等リセットし、初
期状態になります。このメッセージの実行には、約
50msecかかるため、次のメッセージとの間隔を注意
してください。
XGネイティブ・パラメーター・チェンジは、データ
サイズが2または4のパラメーターは、そのサイズ分
のデータを送信します。
XGバルクダンブのアドレスおよびバイトカウント
は、付表のMIDIパラメーター・チェンジ表(システ
ム)を参照してください。付表中トータルサイズで
区切られたデータシリーズが一つのバルクになり、
そのシリーズの先頭アドレスのみバルクデータのアド
レスとして有効です。
多量のバルクデータを受信するとエラーする場合が
ありますので、トータルで512バイト以上になる場
合は512バイト以下に区切り、適当な時間間隔
(120msec以上)をあけて送信してください。

<付表1>
MIDIパラメーター・チェンジ表(システム)

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)	
00 00 00	4	020C ~ 05F4	マスター・チューン	-50 ~ +5[セント]	00 04 00 00	020CH以下の値は-50セントになります。 05F4H以上の値は+50セントになります。
01				1stビット3~0 ビット15~12	400	
02				2ndビット3~0 ビット11~8		
03				3rdビット3~0 ビット7~4		
				4thビット3~0 ビット3~0		
04	1	00 ~ 7F	マスター・ボリューム	0 ~ 127	7F	
05	1					
06	1	34 ~ 4C	トランスポーズ	-12 ~ +12[セミトーン]	40	28H ~ 33Hの値は-12~-1に折り返ります。 4DH ~ 58Hの値は+1~+12に折り返ります。
7E	0		XGシステム・オン	00 = XGシステム・オン		
7F	0		オール・パラメーター・リセット	00 = オン(受信のみ)		
トータルサイズ	07					

<付表2>

MIDIパラメーター・チェンジ表(エフェクト1)

リバーブ、コーラス、バリエーション・タイプのナンバーは、エフェクトMIDIマップを参照してください。

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)
02 01 00	2	00~7F	リバーブ・タイプMSB	エフェクトMIDIマップを参照	01(=ホール1)
		00~7F	リバーブ・タイプLSB	00: ベーシック・タイプ	00
	0C	1	リバーブ・リターン	- dB...0dB...+6dB(0...64...127)	40
02 01 40	2	00~7F	バリエーション・タイプMSB	エフェクトMIDIマップ参照	00(=エフェクトなし)
		00~7F	バリエーション・タイプLSB	00: ベーシック・タイプ	00

注意: ここでいうバリエーション・エフェクトとは、本機のパネルのエフェクトに相当します。

<付表3>

MIDIパラメーター・チェンジ表(マルチパート)

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)
08 nn 11	1	00~7F	ドライレベル	0~127	7F

<付表4>

エフェクトMIDIマップ(リバーブ)

MSB	LSB	00H	01H	02H	03H~
00H		エフェクトなし			
01H		ホール1	ホール2	ホール1	
02H		ルーム1			
03H		ステージ1			

<付表5>

エフェクトMIDIマップ(バリエーション)

MSB	LSB	00H	01H	02H	03H~
00H~	06H	エフェクトなし			
07H		エコー			
41H		コーラス1			
44H		シンフォニック			
46H		トレモロ			

9. システム・エクスクルーシブ・メッセージ (クラビノーバMIDI準拠)

[F0H] [43H] [73H] [xxH] [nnH] [F7H]

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
 43H : ヤマハ
 73H : クラビノーバ
 xxH : 機種ID(CLP'96 : 3BHまたはCLP共通 : 01H)
 nnH : サブステータス
 コントロール nn
 内部クロック 02H
 外部クロック 03H
 バルクデータ 06H(06Hの後にバルクデータが続く)
 F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

nn=02H,03Hの機種IDは、機種(3BH)の代わりに、クラビノーバ共通ID(01H)がきても受け付けます。

1) 各鍵ごとの調律データ・バルクダンブ・フォーマット

F0H,43H,73H
 3BH : 機種ID(CLP'96 : 3BH)
 06H : バルクID
 00H : バルクNo. (各鍵ごとの調律データ・バルクダンブ・フォーマット)
 00H,00H,0BH,00H : データ長
 [バルクデータ] : low(A-1) high(A-1)..low(C7) High(C7)
 [チェックサム(1バイト)] = 0 - sum(バルクデータ)
 F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

2) オルガンコンピネーション・バルクダンブ・フォーマット

F0H,43H,73H
 3BH : 機種ID(CLP'96 : 3BH)
 06H : バルクID
 06H : オルガンコンピネーション・バルクダンブ・フォーマット
 00H,00H,01H,01H : データ長 = 11Hバイト
 0nH : n = チャンネルNo.
 [フッタージ16']
 [フッタージ8']
 [フッタージ5+1/3']
 [フッタージ4']
 [フッタージ2+2/3']
 [フッタージ2']
 [フッタージ1+1/3']
 [フッタージ1']
 [レスpons]
 [アタック4']
 [アタック2+2/3']
 [アタック2']
 [アタック長]
 [アタックモード] (00H : ファースト, 01H : イーチ)
 [ロータリー・スピーカー・スピード]
 [ロータリー・スピーカー・デプス]
 [チェックサム(1バイト)] = 0 - sum(バルクデータ)
 F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

10. システム・エクスクルーシブ・メッセージ (特殊操作子)

[F0H] [43H] [73H] [xxH] [11H] [0nH] [ccH] [vvH] [F7H]

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
 43H : ヤマハ
 73H : クラビノーバ
 3BH : 機種ID(CLP'96 : 3BH)
 11H : SK特殊操作子
 0nH : コントロールMIDIチェンジ(n = 特殊操作子チャンネルNo.)
 cc : コントロールNo.
 dd : 値
 F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

コントロール	オン	ccH	vvH
スプリットポイント	常に00H	14H	スプリット・キーNo.
メトロノーム	常に00H	1BH	00H : オフ 01H : ... 02H : 2/4 03H : 3/4 04H : 4/4 05H : 5/4 06H : 6/4 07H : ビートなし
ダンパーレベル	Ch : 00~0FH	3DH	Chごとのピアノ・ダンパー量を設定する) 00H~7FH
チャンネル・デチューン	Ch : 00~0FH	43H	Chごとのデチューン量を設定する) 00H~7FH
ボイス・リザーブ	Ch : 00~0FH	45H	00H : リザーブ・オフ 7FH : オン*1

*1 リザーブ・オンの間に受信したボリューム、エクスペッションは次のキー・オン時から有効になります。通常はリザーブ・オフです。

11. システム・エクスクルーシブ・メッセージ (その他)

[F0H] [43H] [1nH] [27H] [30H] [00H] [00H] [mmH] [7FH] [ccH] [F7H]

マスター・チューニング(XGと後着優先)で、全チャンネルの音程を一度に変えられるメッセージです。

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
 43H : ヤマハ
 1nH : n = CLPからの送信時は常に0、受信時は0~F
 27H : TG100の機種ID
 30H : サブID
 00H :
 00H :
 mmH : マスターチューニングMSB
 7FH : マスターチューニングLSB
 ccH : cclはなんでもよい。(7FH以下)
 F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

別売品のご紹介

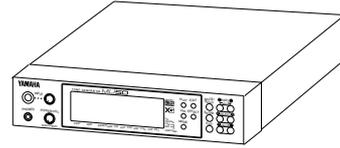
ヘッドフォン HPE-160

¥5,500(税別価格)



トーンジェネレーター MU-50

¥52,000(税別価格)



仕様

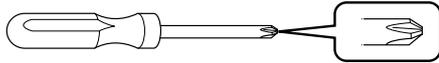
	CLP-911	CLP-711
鍵盤	88鍵(A-1 ~ C7)	
音源	AWMダイナミック ステレオ サンプリング	
最大同時発音数	最大64音	最大32音
音色	ピアノ1、ピアノ2、クラピノーバトーン、エレクトリックピアノ1、エレクトリックピアノ2、ハープシコード、パイプ、ストリングス、クワイア、パイプオルガン、オルガンコンビネーション、ベース(CLP-911)、各音色バリエーション	
効果	リバーブ(ルーム/ホール1/ホール2/ステージ) エフェクト(コーラス/シンフォニック/トレモロ/エコー) プリリアンス(メロー/ノーマル/ブライト)	
コントロール	デュアル、スプリット、メトロノーム、トランスポーズ、 タッチ(ハード/ミディアム/ソフト/フィックス)、マイクボリューム、マイクリバーブ、 各種ファンクション	
表示器	大型液晶画面	
レコーダー	2トラック録音/再生、巻戻し、早送り、テンポ、	
ディスクドライブ	3.5インチ マイクロ フロッピー ディスク ドライブ(2DD、2HD対応)	
ペダル	ダンパー、ソステヌート、ソフト	
デモ	デモ曲12曲、ピアノ曲30曲	デモ曲11曲、ピアノ曲30曲
付属端子	AUX出力端子(R、L/L+R): 出力インピーダンス600 Ω、 AUX入力端子(R、L/L+R): 入力インピーダンス10k Ω/入力感度-10dBm、 マイク端子、ヘッドフォン端子×2、TO HOST端子、MIDI(IN、OUT、THRU)	
メインアンプ	120W(60W×2)	
スピーカー	14cm×2、5cm×2、楕円形(5×9cm)×2	14cm×2、5cm×2
定格電源	AC100V、50/60HZ	
消費電力	80W	
寸法 [間口×奥行×高さ] ()内は譜面立てを立てた場合	1436mm×513mm×906mm (1436mm×513mm×1014mm)	1418mm×511mm×879mm (1418mm×511mm×1051mm)
重量	67.0kg	61.0kg
装備	キーカバー、譜面立て	
付属品	高低自在イスBC-15、ピアノソフト紹介ディスク、録音用ディスク、和文シート、 保証書、ご愛用者カード、取扱説明書(本書)	

・仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

CLP-911の組み立て方

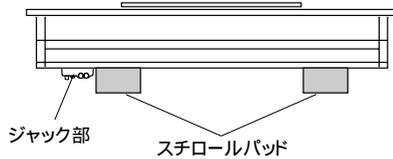
- ・ 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・ 組み立ては、必ず2人以上で行ってください。
- ・ ネジは指定のサイズ以外のもは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因となる場合があります。
- ・ ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないよう増し締めを行って確実に固定してください。
- ・ 解体するときは、組み立てと逆の手順で行ってください。

1 + (プラス)のドライバーを用意します。

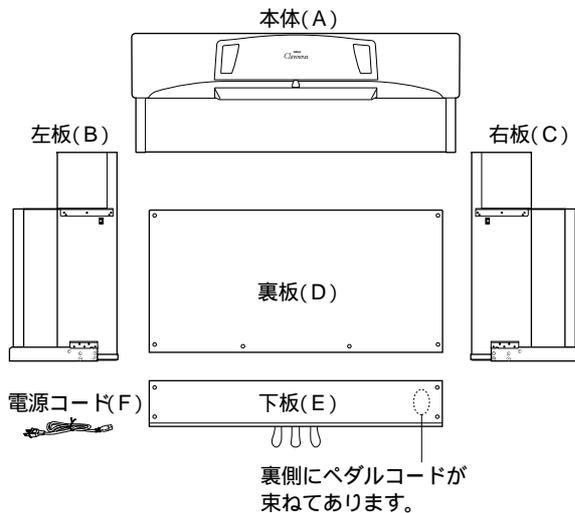
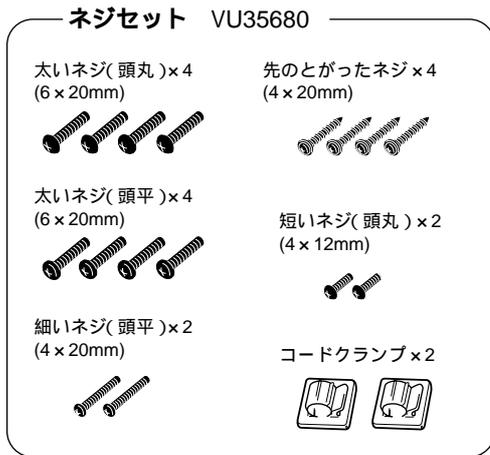


2 箱を開けてスチロールパッドを2個取り出し、その上に本体(A)を置きます。

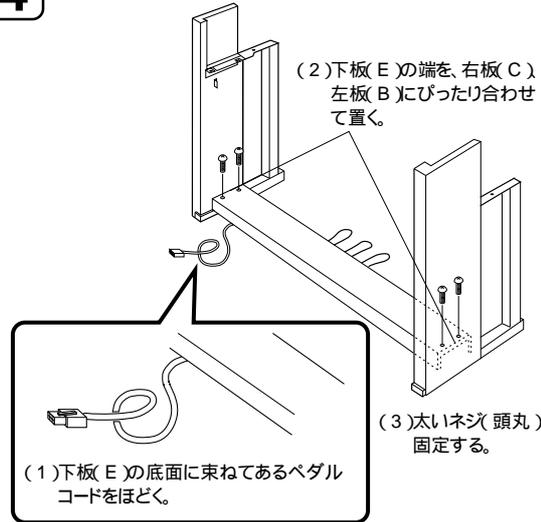
ノート スチロールパッドは、本体下のジャック部を保護するように配置してください。



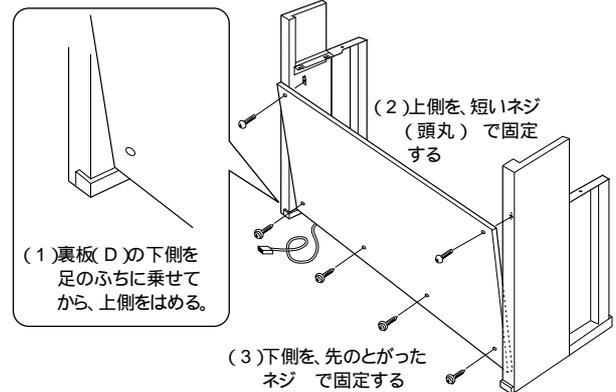
3 すべての部品を取り出します。部品がすべてそろっているか確かめてください。



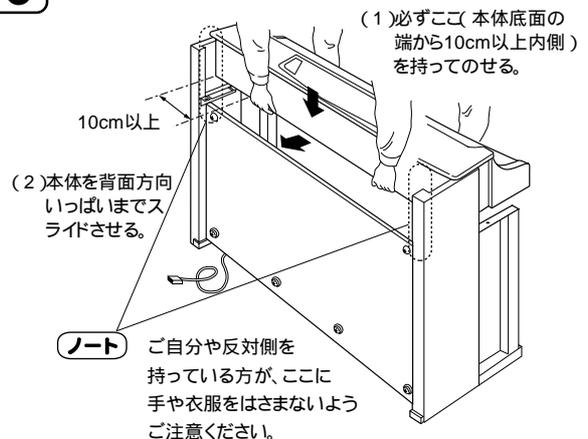
4 下板(E)を固定します。



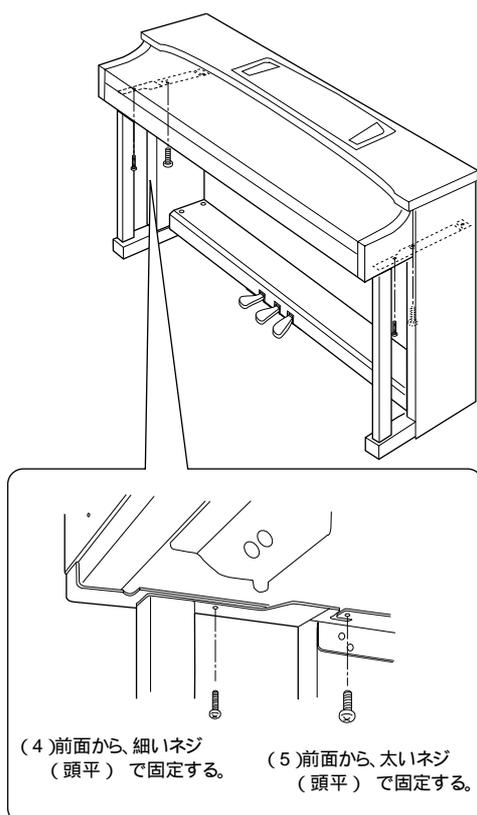
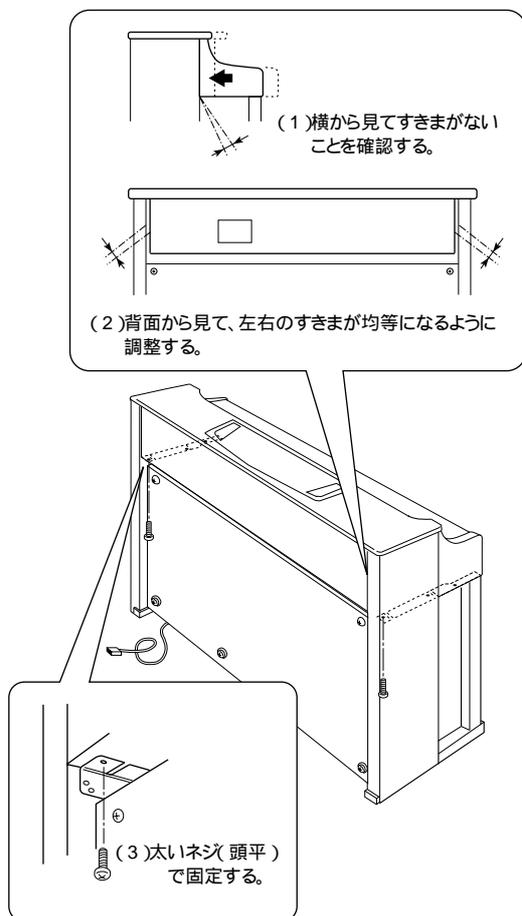
5 裏板(D)を固定します。



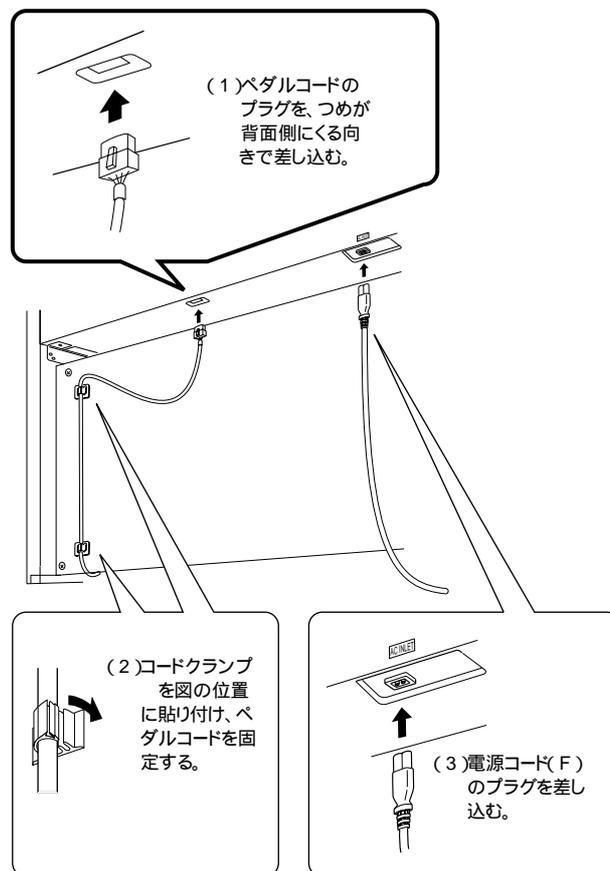
6 本体(A)をのせます。



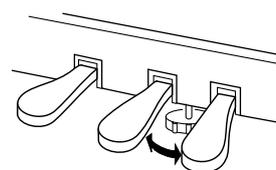
7 本体(A)を固定します。



8 コードを接続します。



9 アジャスターを回します。



アジャスターを回して、床にぴったりつける。

組み立て後、必ず以下のチェックをしてください。

- ・ 部品が余っていませんか？
組み立て手順を再確認してください。
- ・ 部屋のドア等がクラビノーバにあたりませんか？
クラビノーバを移動してください。
- ・ クラビノーバをゆすると、ガタガタしませんか？
ネジを確実に締めてください。
- ・ ペダルを踏むと、下板がガタガタしませんか？
アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ・ ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
確認してください。
- ・ 使用中に本体がきしむ、横振れする、グラつく等の症状がでたら、組み立て図にしたがって各部のネジを締め直してください。

CLP-711の組み立て方

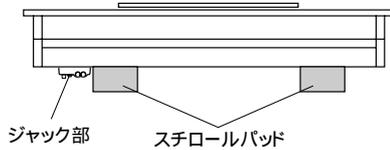
- ・ 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・ 組み立ては、必ず2人以上で行ってください。
- ・ ネジは指定のサイズ以外のもは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因となる場合があります。
- ・ ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないよう増し締めを行って確実に固定してください。
- ・ 解体するときは、組み立てと逆の手順で行ってください。

1 + (プラス)のドライバーを用意します。



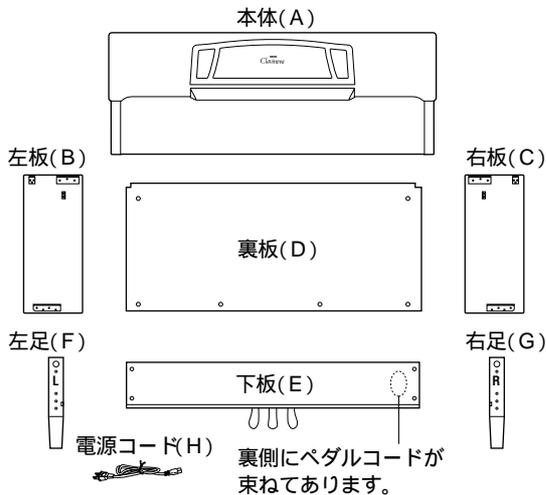
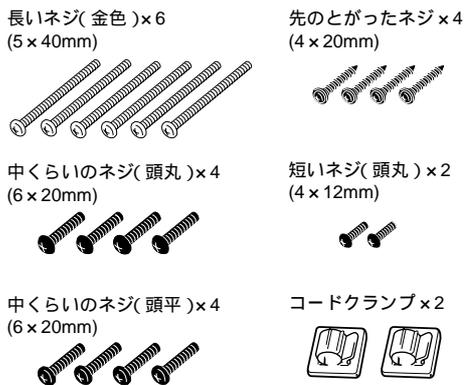
2 箱を開けてスチロールパッドを2個取り出し、その上に本体(A)を置きます。

ノート スチロールパッドは、本体下のジャック部を保護するように配置してください。

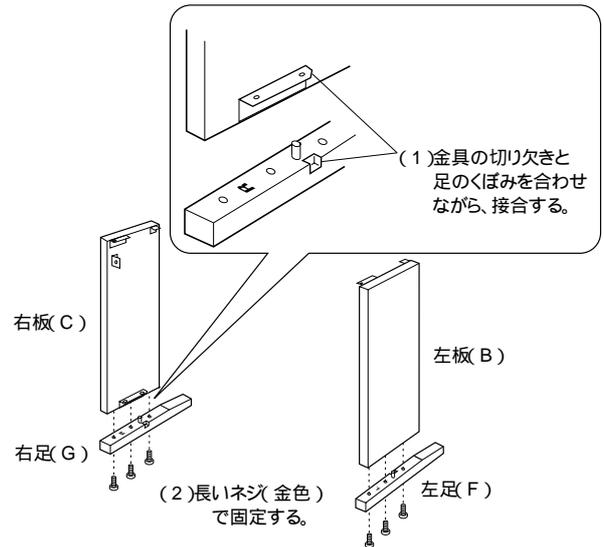


3 すべての部品を取り出します。部品がすべてそろっているか確かめてください。

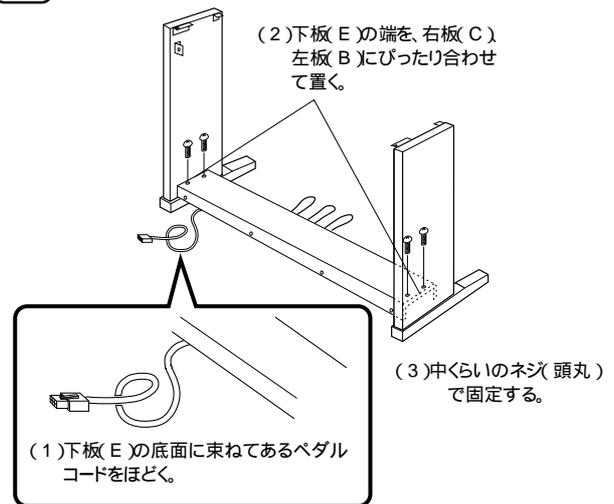
ネジセット VU25540



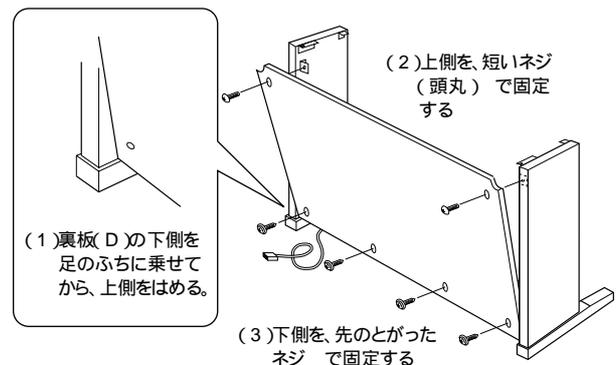
4 右板(C)と右足(G)、左板(B)と左足(F)を固定します。



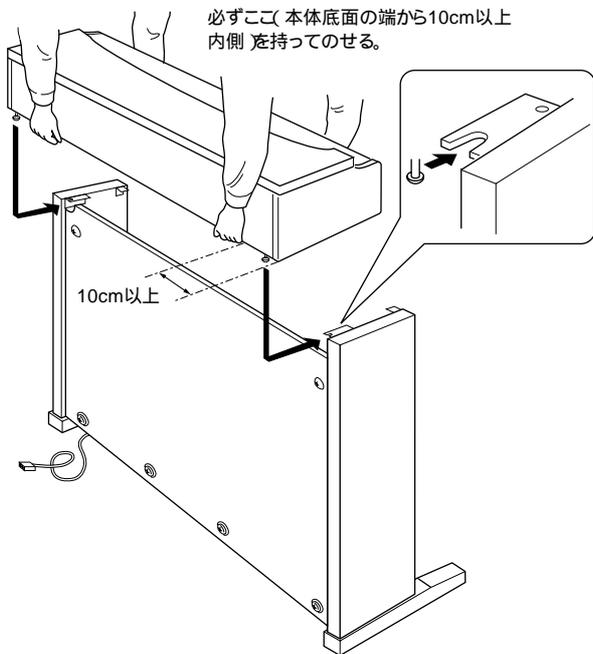
5 下板(E)を固定します。



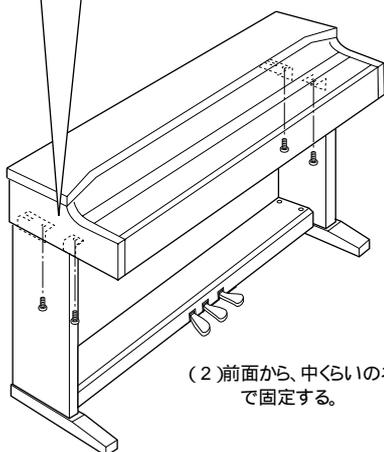
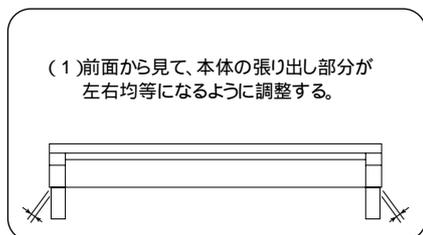
6 裏板(D)を固定します。



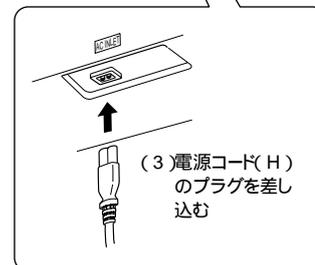
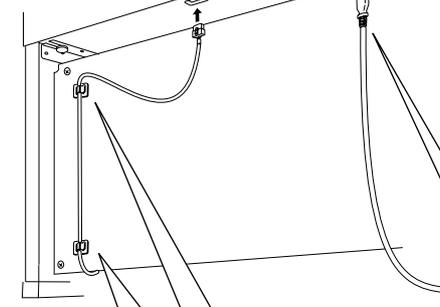
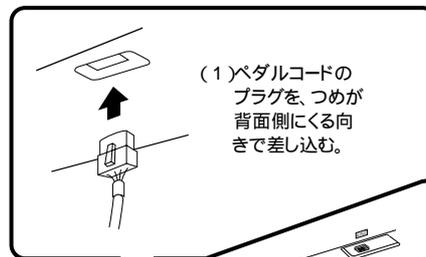
7 本体(A)をのせます。



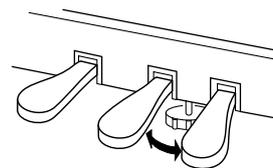
8 本体(A)を固定します。



9 コードを接続します。



10 アジャスターを回します。



アジャスターを回して、床にぴったりつける。

組み立て後、必ず以下のチェックをしてください。

- ・ 部品が余っていませんか？
組み立て手順を再確認してください。
- ・ 部屋のドア等がクラビノーバにあたりませんか？
クラビノーバを移動してください。
- ・ クラビノーバをゆすると、ガタガタしませんか？
ネジを確実に締めてください。
- ・ ペダルを踏むと、下板がガタガタしませんか？
アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ・ ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
確認してください。
- ・ 使用中に本体がきしむ、横振れする、グラつく等の症状がでたら、組み立て図にしたがって各部のネジを締め直してください。

故障かな? と思ったら

現象	考えられる原因	解決法
CLP-911/711の電源が入らない。	電源プラグがコンセントに差し込まれていません(本体側と家庭側)	電源プラグを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください。(P8)
電源(POWER)スイッチを押して電源を入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたためです。	ご心配いりません。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	ボリューム(MASTER VOLUME)が下がっています。	ボリューム(MASTER VOLUME)を上げてください。(P8)
	ヘッドフォンが接続されています。	ヘッドフォンを抜いてください。(P8)
	ローカルコントロールがオフになっています。	ローカルコントロールをオンにしてください。(P81)
ダンパーペダルが効かない、またはダンパーペダルを踏んでいないのに音が長く響いてしまう。	ペダルコードのプラグが本体に差し込まれていません。	ペダルコードのプラグを本体に確実に差し込んでください。(CLP-911: P107、CLP-711: P109)
特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音域が異質に感じる場合があります。	異常ではありません。

ノート 「メッセージ一覧」(P90)もご参照ください。

索引

- ・ CLP-911/711取扱説明書の全体の流れを見たい場合は、P5「目次」をご覧ください。
- ・ ボタンの名前から説明を捜したい場合は、P44「各部の名前」をご利用ください。
- ・ ファンクション項目の説明を捜したい場合は、P70の「ファンクション一覧表」をご利用ください。

そのほかのキーワードから説明を捜したい場合に、この「索引」をご利用ください。

- ・ 「*」印はそのページの「欄外注」に説明があることを示しています。

ABC順

	ページ
⇨の意味	4
➡の意味	4
ALL(ディスク再生モード)	60
ALL(デモモード)	50
BC-15	2
DOC	64, 96
DOC音色配列	98
DOCマイレパートリー	96
ESEQ(イーシーク)	97
GMシステムレベル1音色配列	98
GMソフト(SMFフォーマット)	64
MIDI	80 ~ 81, 97, 101 ~ 104
MU50	96, 105
RND(ディスク再生モード)	60
RND(デモモード)	50
SMF(エスエムエフ)	97
XG音色配列	98
XGソングデータライブラリー	64, 98

あいうえお順

	ページ	ページ	
音源モジュール	96	パーソナルコンピューター	64, 93
音色配列フォーマット	97	バックアップとは	47*
音律	74	早送り	61
音量調節	8	ピアノ・ア・ラ・モード	64, 98
片手練習(ディスク再生)	61	ピアノ30曲	50
片手練習(ピアノ30曲)	27 ~ 29, 51	ピアノ30曲の練習方法	27 ~ 31
画面	46	ピアノソフト	64, 98
画面表示言語の切り替え	47, 89	ピアノソフトプラス	64
キーカバー	7	ピアノソフト紹介ディスク	2
記憶残容量とは	67*	ピアノプレーヤ・アンサンブルソフト	64
基本設定	47, 88	左のペダル	54
曲ファイルとは	71	左ペダルスタート/ストップ	79
工場出荷時の設定	47, 88	ファイルとは	71
ご愛用者カード	2	ファイルの名前	84
再生OFFしたパートの音量調節(ピアノ30曲)...	80	ファンクションとは	47*
シーケンスフォーマット	97	ファンクションモード	70 ~ 89
小項目(ファンクション)	70	フォーマット(ディスクの)とは	65*, 97
ショートカット([F4.DualFunc.])	75	フォーマット(ディスクの)の種類	65*, 97
ショートカット([F5.SplitFunc.])	76	フォーマット(ディスクの)の操作	65, 82
ショートカット([F6.OrganEdit])	77	深さ(エフェクト)	56
ショートカット([F7.Metronome])	78	深さ(リバーブ)	55
初期値(録音データ)とは	68	付属品	2
初期値(録音データ)の変更	69	部分練習(ディスク再生)	62
シンクロススタート(ディスク再生)	62	部分練習(ピアノ30曲)	30 ~ 31, 52
シンクロススタート(ピアノ30曲)	51	譜面立て	7
スプリットポイント	58	フリーテンポの曲	61*
スプリットモード	58 ~ 59	フロッピーディスク(の使用上の注意)	6
セットアップファイルとは	71	ヘッドフォン	8, 105
ソステヌートペダル	54	保証書	2
ソフトペダル	54	マイクリバーブ	88, 91
ソングとは	48*, 60*	巻戻し	61
大項目(ファンクション)	70	まん中のペダル	54
端子	91 ~ 92	右のペダル	54
ダンパーペダル	54	メモリーとは	47*
ディスクオーケストラ・コレクション(DOC)	64, 96	モードとは	47*
ディスクソフト(の再生)...	60 ~ 64, 85, 96, 98	モードの相関	48*, 60*, 67*, 72*
ディスクのフォーマット	97	ライトプロテクトタブ	6
ディスク再生モード	60 ~ 64	録音した曲の名前	67, 84
データ様式変換	86, 97 ~ 98	録音モード	65 ~ 69
デモ曲	48	録音用ディスク	2
デモ曲/ピアノノ曲モード	48 ~ 52	和文シート	2
デュアルモード	57 ~ 58		
電源	8		
電源ランプ	8		
トラックのデータの削除	67*		
トラックの再生ON/OFF(ディスク再生)...	61		

メ 毛

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

保証書

本機には保証書がついています。
保証書は販売店がお渡しますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げ日から1年間です。

保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、フロッピーディスクドライブなど

補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

修理のご依頼

まず本書の「故障かな? と思ったら」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ修理をお申し付けください。

製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点(修理受付および修理品お持込み窓口)

北海道サービスセンター	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50	ヤマハセンター内	TEL.(011)512-6108
仙台サービスセンター	〒983-0015	仙台市若林区卸町5-7	仙台卸商共同配送センター3F	TEL.(022)236-0249
首都圏サービスセンター	〒211-0025	川崎市中原区木月1184		TEL.(044)434-3100
東京サービスステーション*	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11		TEL.(03)5488-6625
<small>(*お持ち込み修理のみお取扱い)</small>				
浜松サービスセンター	〒435-0048	浜松市上西町911	ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL.(053)465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2	ヤマハ(株)名古屋流通センター3F	TEL.(052)652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16	ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL.(06)877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町8-7	(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内	TEL.(087)822-3045
広島サービスセンター	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14		TEL.(082)874-3787
九州サービスセンター	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4		TEL.(092)472-2134
[本社]				
カスタマーサービス部	〒435-0048	浜松市上西町911	ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL.(053)465-1158

住所および電話番号は変更になる場合があります。

ヤマハ株式会社

北海道地区	〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	011-512-1550
東北地区	〒980-0804 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命青葉通りビル	022-222-6025
関東・甲信越地区	〒108-8568 東京都港区高輪2丁目17-11	03-5488-5464
中部・北陸・静岡地区	〒460-8588 名古屋市中区錦1-18-28	052-201-5145
大阪・近畿・四国・沖縄地区	〒542-0081 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館	06-6252-2390
中国地区	〒730-8628 広島市中区紙屋町1-1-18	082-244-3748
九州地区	〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4	092-472-2152
電子楽器事業部 営業部 / 国内営業第二グループ	〒430-8650 浜松市中沢町10-1	053-460-3275

住所および電話番号は変更になる場合があります。

クラビノーバインフォメーションセンター

受付日：月曜日～金曜日(祝日およびセンターの休業日を除く)

受付時間：10:00～12:00 / 13:00～17:00

フリーダイヤル  **0120-834808**

クラビノーバインターネットホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/product/cl/>